月刊『カーサ ブルータス』
*Life Design Magazine
casabrutus.com

わざわざ行く価値のある、
理想の暮らしが買える店。

BRUTUS®

Casa

7

2023 vol.279
JULY
¥1080

DESTINATION STORE

デスティネーション・ストア

旅の目的地にしたい日本全国のショップ55

2023年7月号（毎月9日発行）6月9日発売 平成13年4月17日 第三種郵便物認可 第24巻第7号

before and after TANGE
ホンマタカシ「日本のモダニズム建築、再発見」
国立京都国際会館

Discover Architecture Tour
櫻井翔「ケンチクを学ぶ旅。」
墨会館を訪ねる。

CRAFTED IN JAPAN
「古今東西 かしゆか商店」
日光下駄

photo_Keisuke Fukamizu



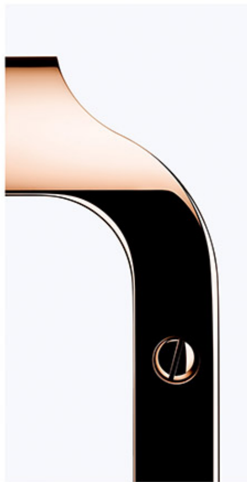
BRUTUS®

Casa

www.cartier.jp · 0120 301 757













SANTOS
DE
Cartier

BRUTUS®

Casa





WHAT MAKES
A ROLEX A ROLEX?

ロレックスをロレックスたらしめるもの。それはホイールや歯車ではない。自社で成形するスチールや、鋳造するゴールドでもない。私たちが不断の集中力と数多くのスキルを駆使して一つひとつデザインし、作り上げ、研磨し、組み立てるすべての部品でもない。独自性を生み出すのは製作に費やす時間である。個々のダイアルに、高精度を意味する“*Superlative*”という言葉を記す工程に至るまでの、長い月日である。それは自律性や責任感、そして誠実さの印。私たちは、これだけを作っている。だが、そのすべてを作っている。いつの日か、あなたとともにあるために。

*#Perpetual*ー受け継がれる信念

ROLEX

WWW.ROLEX.COM 0120-929-570

BRUTUS®

Casa

CHANEL



ブルー ドゥ シャネル
オードゥ パルファム 50mL 13,200円(税込価格)／100mL 18,700円(税込価格)

CHANEL 0120-525-519 シャネル 公式オンライン ブティック chanel.com

BRUTUS®

Casa



Perry
sectional sofa
Antonio Citterio Design
Made in Italy
flexform.it

Flagship Store
Flexform Tokyo
6-4-10, Minami Aoyama
Minato-ku Tokyo 107-0062
T 03-6418-5590

FLEXFORM

BRUTUS Casa
n.279 July Issue 2023





DESTINATION STORE

Features

デスティネーション・ストア



032 DAY TRIP
そこにしかない体験を求め会いに出かけたい新店。

032 SANTASSÉ【茨城｜取手・つくば】
038 PHAETON【石川｜加賀】
042 VISON【三重｜多気】
046 SUNCA-旅とてしごと-【岡山｜真庭】
050 ataW【福井｜越前】
054 交点【北海道｜奈井江】

058 CONRAN CONTINUE
**世界初!
アジアから発信するザ・コンランショップ。**

066 MOVE FORWARD
あの〝名店〟のネクストステージ。
antiques tamiser/tamiser table／Graphpaper TOKYO
haluta／鹿猿狐ビルヂング｜中川政七商店 奈良本店

078 MAKERS' NEW STEP
暮らしを支えるメーカーの新たな発信基地。
コクヨ＝THINK OF THINGS
石巻工房＝ISHINOMAKI HOME BASE
ニッコー＝LOST AND FOUND
飛騨産業＝HIDA 高山店 森と暮らしの編集室

086 MY FAVORITES
人気スタイリスト3人の偏愛♡ショップ。
中田由美／竹内優介／飯田珠緒

092 CITY REVITALIZATION
変わる街のキーパーソン
下北沢×大堀伸(建築家)
日本橋兜町×大山恵介(パティシエ)

100 LOCAL FOOD
地方色あふれる新しい食の発信基地。
YOLOs(京都)／湖のスコーレ(滋賀)／LIQUID THE STORE(沖縄)

108 CREATOR'S EYE
クリエイターの世界観を堪能するショップ。
宇南山加子(デザイナー)／井藤昌志(木工作家)／内田悠(木工作家)

114 SHOP OF FAVORITISM
オーナーの個性あふれる審美眼が詰まったショップ。
MOGI Folk Art／u; generalstore／OFS.TOKYO／FEELSEEN
道具屋nobori／waffle house／FUN again／トトン

Regulars

014
**ホンマタカシ
before and after TANGE**
Architecture _20
国立京都国際会館

021
Window on the World
東京：関祐介の設計で生まれ変わった
新〈sacai Aoyama〉がオープン。
ニューヨーク：ピーター・マリノとOMA NYにより
ティファニー五番街が大規模リニューアル！

140
櫻井翔のケンチクを学ぶ旅。
vol.135 墨会館

144
古今東西 かしゆか商店
Buying No.62 日光下駄

148
祐真朋樹 Miracle Closet
No.200 ブルガリ ホテル 東京

175
News! on Your Fridge
イタリアの洗練、〈メリディアーニ〉が上陸。
〈スクルツナ〉とリサのユーモラスな動物。

181
長山智美 デザイン狩人
No.178 NASA×moooiの《Mooon Carpet》。

183
レストラン予報
#115 Indian Street Food & Bar GOND

185
A Wall Newspaper
● 屋根の上には緑が生い茂る森!?
藤本壮介が手がけた〈太宰府天満宮〉の仮殿。
● 平田晃久の設計による複合施設〈まえばしガレリア〉が誕生。
建築の街、前橋の注目の現代建築も紹介！

191
ほしよりこ カーサの猫村さん
第160回 赤ちゃんにカーサを読み聞かせたら…!?
猫村さんは今月もがんばっています。

194
Chill CARS
vol.072 日産 プレーリー (2nd)

199
Next Issue
さて8月号の特集は…?

200
Life@Pet
VOL.248 味見係として活躍中。
レオ



Cover Story

今月の表紙 茨城県取手市の〈サンタセッ ムニ〉は1907年築の一軒家を〝和風サンタフェ〟をイメージして改装。ピエール・ジャンヌレのヴィンテージ、金理有のオブジェ…店主・大貫達正さんが選び抜いた新旧の「唯一無二」を紹介する。

Cover
photo_Keisuke Fukamizu
design_Yasushi Fujimoto+cap
© マガジンハウス 2023 禁・無断転載
® Hearst Holdings,Inc.
Licensed by King Features Syndicate, Inc.

『カーサ ブルータス』のウェブマガジンcasabrutus.comもご覧ください。

＊本誌編集ページに掲載されている商品価格は、特別な表記がある場合を除き、すべて税込価格となります。

MINOTTI STUDIO

Minotti
TOKYO
BY SUKENO
MINOTTI AOYAMA〒107-0062
東京都港区南青山4-21-26 - T.03-6434-0142
MINOTTI COURT〒107-0062
東京都港区南青山5-4-19 地階
WWW.MINOTTI.JP - INFO@MINOTTI.JP



TWIGGY SEATING SYSTEM | RODOLFO DORDONI DESIGN

DISCOVER MORE AT MINOTTI.COM/TWIGGY

Minotti

World Index 今月号でご紹介した世界のあの場所、このショップ。

『カーサ ブルータス』のホームページもご覧ください。
https://magazineworld.jp/casabrutus



029 DESTINATION STORE Special

NORTH AMERICA

USA
New York
023 Richard Gilder Center / American Museum of Natural History
025 Tiffany New York - The Landmark

JAPAN

Aichi
140 Sumi Memorial Hall

Fukuoka
023 KAIGEIDO
185 Dazaifu Tenmangu

Gunma
187 Maebashi Galleria

Hokkaido
027 MINNANO-SUNAGAWA FACTORY by SHIRO

Kagoshima
027 Sheraton Kagoshima

Kyoto
014 Kyoto International Conference Center

Tokyo
021 sacai Aoyama
025 COFFEE ZINGARO
027 Maison romi-unie atelier Yakumo
148 Bulgari Hotel Tokyo
183 Indian Street Food & Bar GOND

ホンマタカシ

before and after TANGE

photo by Takashi Homma

日本のモダニズム建築、再発見

大谷幸夫

Sachio Otani
(1924-2013)

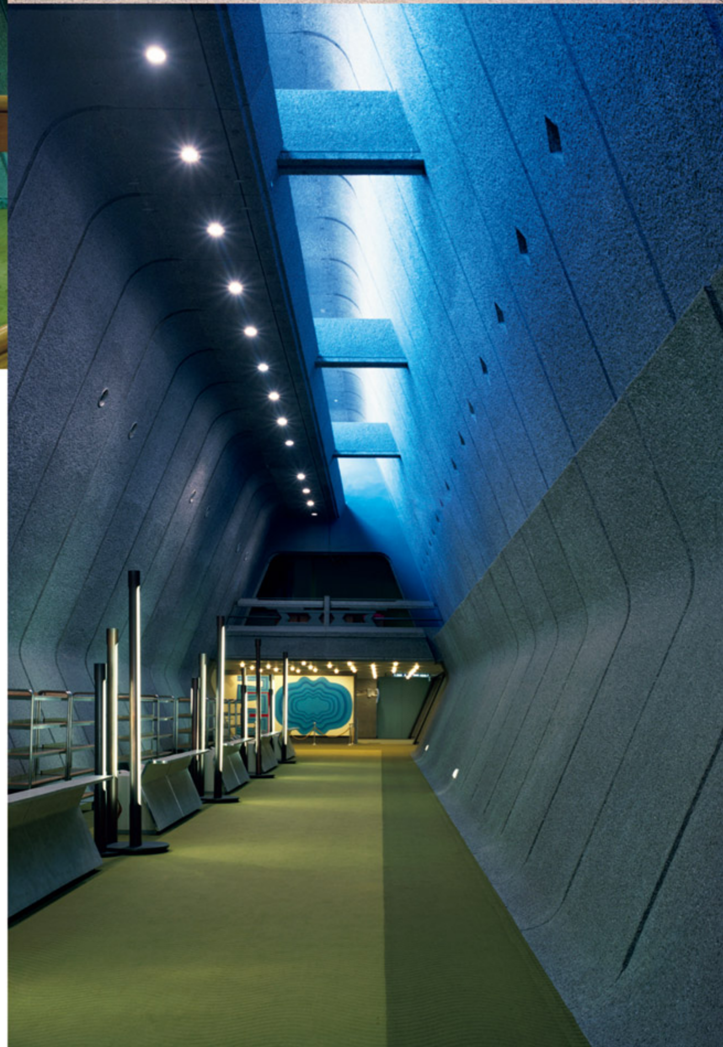


草原の中で上層は浮いている。
だから、海で波の上に船が浮いているように、
光の関係で、浮いて見えるときがあるんです。
草原の海の船です。

———大谷幸夫『建築家の原点 大谷幸夫 建築は誰のために』







Architecture_20

京都｜京都

国立京都国際会館
大谷幸夫

Kyoto International Conference Center (1966)
by Sachio Otani
Kyoto, Kyoto

比叡山を望む宝ヶ池を借景として建つ巨大建造物。〈国立京都国際会館〉は日本初の国際会議場として1966年に開業した。設計は、丹下健三の右腕として知られた大谷幸夫。本格的な公開設計競技方式で採用された国内初の建築物でもあった。会議室を収めた台形と控室や事務室などを収めた逆台形の組み合わせから構成される建物は、合掌造りの民家や神社の神殿といった日本の伝統的な建築物を思わせるとともに、壁面を傾けることで周囲の景色との調和も図った。大谷が「都市の広場」とたとえた大会議場は1997年に地球温暖化防止京都会議で「京都議定書」が採択（2005年発効）された、歴史的舞台ともなった。

右ページ／宝ヶ池から見た本館。左ページ／右上：エントランス。右下：竹をイメージした照明が並ぶ通路。左上：メインロビー。



ホンマタカシ

TOKYO NEW SCAPES

photo by Takashi Homma

東京都庭園美術館で開かれた感覚のジャーニー『PRADA MODE』。

プラダが2018年から世界の都市で展開する巡回型のカルチャーイベント、『PRADA MODE』が東京に上陸。建築家・妹島和世のキュレーションのもと、アートや音楽や食を楽しむ2日間限りのプログラムが開催されました。

text_Mari Matsubara

PRADA MODE

Curated by Kazuyo Sejima

アート、音楽、建築、食などコンテンポラリーカルチャーに焦点を当て、一期一会の体験を提供する巡回型のイベント。これまでにマイアミ、香港、ロンドン、パリ、上海、モスクワ、ロサンゼルス、ドバイで開催された。第９弾となる今回は建築家の妹島和世が監修を務め、重要文化財に指定されている東京都庭園美術館を会場に、同美術館と東京都の協力のもと実現。西洋庭園、茶室〈光華〉、レストラン〈comodo〉、新館などを舞台に対談やワークショップ、音楽パフォーマンスなどの多彩なプログラムで構成されたイベントが２日間、招待制で行われた。

西洋庭園内にこのイベントのために設けられたパビリオンは西沢立衛が設計。豊かな緑を見渡せる、集成材を組んだ大屋根の下で、東京都庭園美術館の歴史についてのレクチャーや、領域を横断した文化人同士による対談が行われた。





妹島和世による都心のランドスケープと呼応するカルチャー体験。

緑陰に響くピアノの調べが鳥のさえずりと混じり合う。芝生の庭に据え置かれたスツールに腰かけておしゃべりする人、ござに寝そべる人。旬の文化人による興味深い対話が繰り広げられ、子どもたちはプラダの端切れで帽子作りに挑戦。こうした様々な文化的体験を提供するイベント『プラダ モード』がこの5月、東京都庭園美術館で2日間にわたり開催された。監修を務めた建築家の妹島和世は2022年7月に同美術館の館長に就任している。

「就任以来、重要文化財の建築と広い庭園に恵まれた稀有な施設をもっと一般の方に楽しんでいただくにはどうしたらいいだろうと考えていました。また東京都は都立施設などの民間活用を推進する『ユニークベニュー』という取り組みを始めていました。そんな時期にプラダからオファーをいただき、実証実験としてやってみようということになりました」

美術館本館で開催中の企画展『邸宅の記憶』と連動させながら、西洋庭園に設けたパビリオンでは西沢立衛×石上純也、杉本博司×千宗屋、長谷川祐子×妹島和世、渋谷慶一郎×朝吹真理子の対談が行われたほか、渋谷慶一郎のピアノとアンドロイドのボーカルによるパフォーマンスを披露。新館では子ども向けのワークショップ、茶室〈光華〉では呈茶が行われた。また正門横のゲートハウスギャラリーでは現代アートを展示。終日音楽が奏でられ、レストランでは特別なミールが提供された。

『プラダ モード』はそれぞれの都市の特徴を感じさせる、五感に

1 正門横、朝香宮邸時代に門衛所だった建物（重要文化財）を整備して「ゲートハウスギャラリー」に。動植物や宇宙を想像させるアート作品を展示。写真は三嶋りつ惠のガラス作品。**2** SANAA設計のベンチ《FLOWER》の簡易バージョンが庭園のあちこちに。**3** 夜はラビットイヤーと呼ばれる《SANAAチェア》でカクテルを。**4** ホンマタカシによる空撮写真。広大な緑地を擁する自然教育園に隣接する東京都庭園美術館の建物が見える。

4 3 2 1





訴える"旅＝ジャーニー"です。今回は一つの建物の中で完結するより、もう少しオープンな雰囲気で広がりを持たせ、建物と庭が繋がりを持ち、あちこちで楽しいことが起きている、そんなイベントにしたいと思いました。招待制でしたが、一般の来館者にも体験できる音楽パフォーマンスがあったり、呈茶やワークショップなどは一般にも公募され、たくさんの方にご参加いただきました」

　会場演出は、妹島が自身の建築作品でたびたび提唱してきたランドスケープとの融合を彷彿させる。

「ランドスケープとは時間の積み重なりであり、みんなが様々な方向から入ってきてシェアする場所。作り込まず、誰かが次々に発展させてプロセスがずっと続くようなものだと思います。『プラダ モード』を一つのステップに、この都心の美術館がゆるやかに開かれた場所として今後可能性を広げていければ、世界に誇れる東京の新たな魅力をまた一つ増やせるのではないでしょうか」

CURATOR



妹島和世

せじまかずよ　茨城県生まれ。1981年日本女子大学大学院修了。1995年に西沢立衛とともにSANAAを設立。プリツカー賞、高松宮殿下記念世界文化賞など受賞多数。2000年には、当時の〈PRADA BEAUTY〉の新宿伊勢丹店と香港店の設計などを手がけた。





メイド・イン・スイスのシステム家具。そのシンプルさは時を超えた究極のデザインです。

USMモジュラーファニチャー
東京都千代田区丸の内2-1-1 丸の内MY PLAZA 1･2F　www.usm.com



T

Tokyo

Brand New sacai Aoyama

photo_Satoshi Nagare　text_Housekeeper







関祐介のデザインによる新〈sacai Aoyama〉。

〈sacai〉の世界唯一の旗艦店〈sacai Aoyama〉がリニューアル。店舗デザインを手がけた関祐介は、構造上横向きのアプローチが難しい中で、床を変化させることで縦の空間を拡張。関自身が生み出した、「NEW FLOOR」という床のレベル差を変化させる手法を用いて、開放的で広々とした空間を作り出した。元からある階段の上にさらに階段を重ねた意匠や、カーペットを重ねた階段など、細部にまでこだわりと工夫が見える。

また、図面を描かずに床に開けた大きな穴や、段ボールに石膏を流し込んで固めた箱型の什器など、計算では実現し得ない偶発的なデザインを随所にちりばめている。店内は〈sacai〉のアイテムがフルラインナップで揃う。数値化されない関のデザインと〈sacai〉の緻密なデザインが共存する新空間は、新鮮な驚きを与えてくれる。

1 奥の空間をあえて遮るように配された朱色のディスプレイ棚。**2** 1階エリア。大胆にくりぬいた床の下から元々あった床が出現。カーペットを重ねた階段が目を引く。**3** 2階エリア。天井には照明としてデジタルサイネージを配した。

4 以前の店舗からある階段の上に、さらに階段を重ねた。**5** 段ボールに石膏を流し込んで成形した什器。重力のかかり方で微妙に歪み、計算では作れないフォルムが完成。**6**《マレンコ》のオットマンを〈sacai〉のファスナーでつなげたオリジナルソファ。●〈sacai Aoyama〉東京都港区南青山5―4―44 南青山シティハウスA-1F・2F☎03・6418・5977。12時～20時。不定休。









as human, for human
PARAMOUNT BED

寝室が変わる。
眠りが変わる。



インタイムで上質なくつろぎを

INTIME

快適なくつろぎ空間

ベッドが傾斜して自然な座り姿勢になる「ラクリアモーション」を搭載。背・膝の角度、ベッドの高さはお好みで調節できます。

新しい睡眠体験

独自のセンシング技術で睡眠状態を検知し、背の角度などを調節する「眠りの自動運転」。スマートフォンアプリでは毎日の睡眠スコアを確認できます。

ずっと、安心

オプションを取り付けることで、必要なときには介護用ベッドとして利用できます。パラマウントベッドが末長くサポートします。

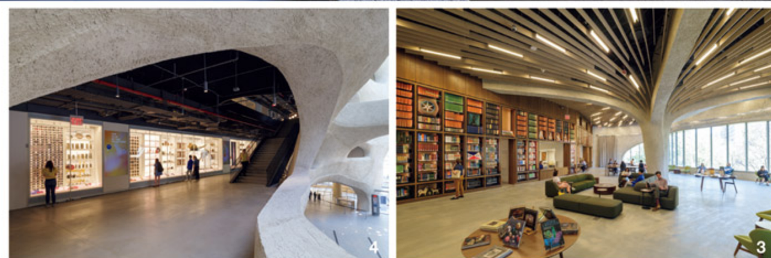
・ラクリアモーションは INTIME3000、3000i シリーズに搭載しています。・機種によって操作できる部位が異なります。詳しくは Web サイトをご覧ください。・「眠りの自動運転」の利用にはインターネットに接続できる Wi-Fi ネットワークおよびスマートフォンが必要です。・「眠りの自動運転」は INTIME2000i、3000i シリーズで利用できます。また INTIME2000、3000 シリーズに Active Sleep ANALYZER（別売）を追加することで利用できます。・介護用ベッドとして利用するときに INTIME2000、2000i シリーズではヘッドボード（別売）が必要です。・介護用オプション製品はパラマウントベッド製の適合品のみ対応します。



パラマウントベッド株式会社　intime.paramount.co.jp　お客様相談室 0120-03-3648（受付時間 9:00~17:00）







1 壁面の素材はミルフォードピンクと呼ばれる花崗岩。2 通常は構造に使う「吹きつけコンクリート」技法をあえて見える部分に。3 図書館の柱も巨大キノコのよう。4 こけら落としは珍しい生物の生態を没入体験する『インビジブル・ワールド』展。● 〈Richard Gilder Center / American Museum of Natural History〉200 Central Park West, New York。10時〜17時30分。無休。入館料28ドル。https://www.amnh.org

N

New York

a Sense of Prehistory

photo_Iwan Baan (1, 2), Alvaro Keding / ©AMNH (3, 4)
text_Mika Yoshida & David G. Imber

自然史博物館にスタジオ・ギャング設計の新館が！

NYで常に人気上位のスポット、〈アメリカ自然史博物館〉に新館が完成した。設計はスタジオ・ギャング。独特な質感や色、流れるフォルムはアメリカ南西部の峡谷に発想を得た。型枠を用いる通常のコンクリートではなく、デジタルでモデリングした棒状の鋼材にコンクリートを吹きつける「吹きつけコンクリート」によってシームレスに続く壁を実現。建物の内側から外界へとつながっていく。

F

Fukuoka

Traditional Dolls with Modern Space

photo_Yoshikazu Shiraki
text_Housekeeper

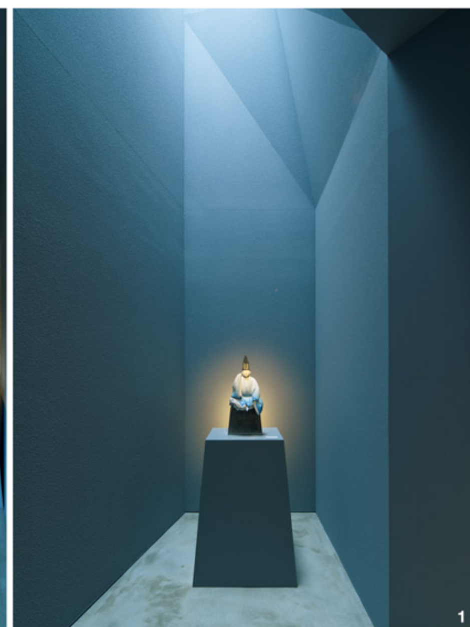
神谷修平が手がけた博多人形のギャラリー。

創業100年以上、４代続く博多人形の老舗〈中村人形〉がプライベートギャラリー〈傀藝堂（かいげいどう）〉をオープン。設計は建築家・神谷修平が手がけた。台形の土地に沿うように作られた内部は、多角形で構成。中央に三角形のカウンターを配置し、〝人〟の形を象（かたど）っている。また、最奥部にはトップライトを配置し、光が差し込む神聖な空間を演出。伝統とモダンが融合した、新たな場所が誕生した。

360度、じっくり眺めたい。







1 ギャラリー奥に配置された〝祈りの間〟。トップライトから差し込む光は季節や時間によって変わり、人形の表情を引き立てる。2 壁は色彩豊かな人形が最も映えるようグレーを採用。3 3代目・中村信喬作《伊万里の海》。935,000円。4 4代目・中村弘峰作《一礼》。88,000円。● 〈傀藝堂〉福岡県福岡市中央区桜坂1−10−46☎092・791・5316。13時〜17時。日曜・水曜・土曜・祝日休。





ANATOMICA

2023 SPRING & SUMMER

PARIS 14 rue du Bourg-Tibourg, Paris, 75004, France TEL: +33-(0)1-42-74-10-20 **TOKYO** S-building 1F, 2-27-19 Higashinihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, 103-0004, Japan TEL: +81-(0)70-3144-0378
AOYAMA Minamiaoyama-residence 1F-2F, 3-14-26 Minamiaoyama, Minato-ku, Tokyo, 107-0062, Japan TEL: +81-(0)70-1640-8911 **SAPPORO** Daiichi-building 1F, 8 Chome, 3 Jounishi, Chuo-ku, Hokkaido, 060-0063, Japan TEL: +81-(0)11-219-1231
NAGOYA NAGOYA FLAT 2F, 3-23-24 Sakae, Naka-ku, Nagoya, Aichi, 460-0008, Japan TEL: +81-(0)52-253-8861 **KOBE** 3-5-10 Kitanagasadori, Chuo-ku, Kobe, Hyogo, 650-0012, Japan TEL: +81-(0)78-391-4696 **www.anatomica.jp**



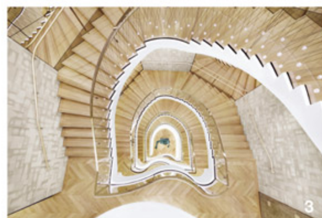


1 1階のビデオウォールには摩天楼などNYの風景が映される。2 3階、エンゲージメントリングのフロア。壁にはダミアン・ハーストの《桜》が。●〈Tiffany New York - The Landmark〉727 5th Ave., New York ☎(1)212・755・8000。10時〜20時（日11時〜19時）。無休。

□ *New York*

N a Landmark Crowned

photo_Floto + Warner (4)
text_Mika Yoshida & David G. Imber





3 螺旋階段の手すりはロッククリスタル素材。
4 最上階の3フロアがOMA NYの増築部分。

リニューアルを遂げたティファニー五番街。

ティファニー五番街が〈ザ・ランドマーク〉の新名称でリニューアル。ハイジュエリーをはじめ同社のレガシーである128.54カラットの《ティファニー・ダイヤモンド》もデザインを一新しお披露目に。店内空間の再構築はピーター・マリノ。OMA NYの重松象平が建物の中核と循環インフラの改修、増築部分を指揮した。全フロアにわたり展示したバスキアやジェームズ・タレル等のアートにも注目。



□ *Tokyo*

T MURAKAMI's Coffee Shop

photo_Kozo Takayama　text_Rie Nishikawa

村上隆プロデュースの〈純喫茶ジンガロ〉が中野で再生。

インベーダーゲームやドンキーコングなど、懐かしのテーブルゲームが全10種類、花柄カーペットに革張りソファ、枯山水まであり、昭和レトロな雰囲気満載。サブカルの聖地、中野ブロードウェイで村上隆が手がけるカフェが純喫茶としてリニューアル。お花モチーフのプリンやラテのほか、メロンソーダといったエモめのメニューも揃う。アートな喫茶体験ができる中野の新名所だ。





1〈となりの開花堂〉のクッキー缶6,000円〜が購入可能。オンライン予約で不定期に販売されているものだけに、ここで買えるのは大ニュース。2 お花のネオンがきらめくカウンターとエントランス。3 テーブルゲームはオリジナルのお花コイン500円で1ゲーム遊べる。4〈恵比寿横丁〉など、横丁プロジェクトを手がける浜倉好宣が内装を担当した。●〈純喫茶ジンガロ〉東京都中野区中野5−52−15 中野ブロードウェイ2F。12時〜18時。不定休。Ⓘcoffee_zingaro

WELCOME TO A&F COUNTRY



klean kanteen · PENDLETON · LODGE · Chaco · MYSTERY RANCH · BAREBONES · BYER · Helinox · GSI · SEATTLE SPORTS · eagle creek · KAVU · COGHLANS · VASQUE · OR OUTDOOR RESEARCH

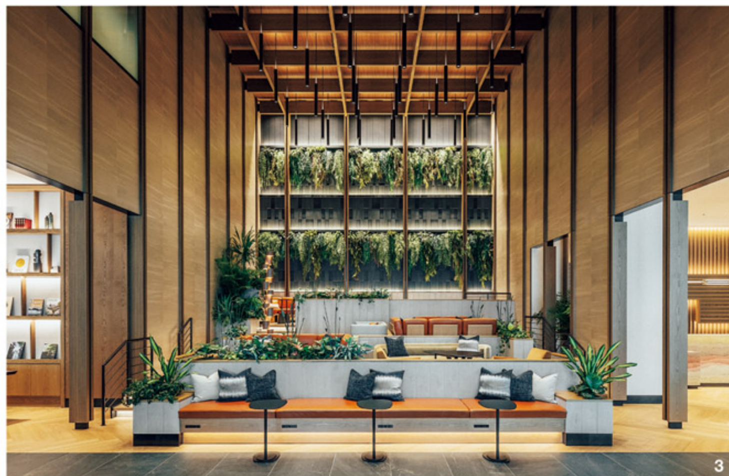
SABBATICAL · HILLEBERG THE TENTMAKER · DARN TOUGH · pacsafe · BLUE RIDGE CHAIR WORKS · ETHNOTEK · YETI · Matador · WOLF GRIZZLY · Kona BICYCLES · BEE'S WRAP · UltrAspire · CRAZY CREEK

K

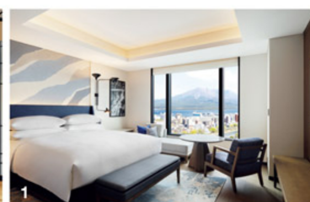
Kagoshima

Details Reflect Local Culture

photo_Taran Wilkhu (2, 3)　text_Housekeeper







鹿児島の文化を反映した、新たなシェラトン。

ニューヨークを拠点に活動するデザインスタジオ・クレムの相崎準がパブリックエリアの設計を手がけた〈シェラトン鹿児島〉がオープン。溶岩石を壁面に使用し、棚田をモチーフにしたロビーや、薩摩切子や奄美大島紬村の泥染めにまつわるアイテムなど、地元ゆかりの要素が各所にちりばめられている。客室から一望できる桜島の絶景とともに、鹿児島ならではのホテルステイを満喫したい。

1 窓の向こうに、広大な桜島の風景が広がる「桜島スイート」。**2** 土を型枠に突き固め、壁や基礎を作る工法「版築(はんちく)」によって作られたカウンター。地層のような表情を生み出した。**3** 格子天井を採用し、温かみのあるロビー。●〈シェラトン鹿児島〉鹿児島県鹿児島市高麗町43—15☎099・821・1111。1泊1室33,880円〜（サ込）。







1 焼き菓子の香りが広がる店内。**2** 目黒通り沿いに面する外観。**3**「タルト・オ・シトロン」1カット490円。●〈メゾン ロミ・ユニ アトリエ八雲〉東京都目黒区八雲1—12—8 鶴田ビル1F。9時〜17時。年末年始休。

T

Tokyo

Sweets Shop with Atelier

text_Housekeeper

菓子研究家・いがらしろみのアトリエを備えた新店。

菓子研究家・いがらしろみの手がけるジャムと焼き菓子の専門店〈romi-unie〉。その3店舗目が目黒区八雲にオープンした。こぢんまりした店内に菓子づくりのアトリエを併設。焼き上がりの甘い香りがいっぱいに広がる空間で、手づくりジャムやサブレ、ケーキを1個単位から選ぶことができる。売り切れ必至のスコーンも。日々のスイーツからギフトまで、さまざまなシーンで訪れたい店だ。

H

Hokkaido

SHIRO's Unique Factory

photo_Ikuya Sasaki (1, 4)　text_Yoshinao Yamada



〈SHIRO〉の新たな拠点はオープンな工場です！

スキンケアやフレグランスなどで人気を集める〈SHIRO〉が本拠地の北海道砂川市に、工場、ショップ、カフェなどの複合施設〈みんなの工場〉をオープン。ガラス張りの工場は来場者に生産風景を開示するほか、オリジナルのフレグランスが作れる「ブレンダーラボ」や子どものための遊び場もある複合施設だ。設計はアリイイリエ・アーキテクツが担当。開かれた工場が新たな発信拠点となる。



1 登って遊べるジャングルネット。**2** 店舗限定フレグランス《フルーツブーケ》ヘアバーム3,410円、オードパルファン4,180円。**3**「ピッツァ ヴェルドゥーラ」1,320円。**4** 自身で香りをブレンドできる。●〈みんなの工場〉北海道砂川市豊沼町54—1☎0125・52・9646。10時〜19時（カフェ11時〜）。

資産保全に秘策アリ。



その希少性の高さから、世界が注目するアーガイル産ピンクダイヤモンド。小さな体で大切なものを守るアリのように、指でつかめる資産と呼ばれる小さな宝石（bijou）が、あなたの資産保全に大きな価値をもたらします。

アーガイル産ピンクダイヤモンド専門フロア

6.30 GRAND OPEN

ビジュピコ　上野御徒町本店3F　営業時間 10:00-19:00 ※完全予約制
東京都台東区上野5-26-1　TEL 03-3835-1111

日本唯一の宝飾問屋街「御徒町」の入り口に本店を構えるビジュピコだからこそ、
最高品質・適正価格でご提供しています。また、全国にダイヤモンドブティックを50店舗以上展開。

BIJOUPIKO
pinkdiamonds







※bijoupiko＝bijou（仏語で宝石）＋piko（ハワイ語で親子のつながり）

DESTINATION STORE INDEX

日本全国・旅の目的地にしたい55軒。

HOKKAIDO【北海道】
交点 p.054
緑月-Mitsuki- p.112

MIYAGI【宮城】
ISHINOMAKI HOME BASE p.080

IBARAKI【茨城】
SANTASSÉ MUNI p.032
SANTASSÉ GALERIE p.037

TOCHIGI【栃木】
antiques tamiser/ tamiser table p.066

TOKYO【東京】
ザ・コンランショップ 代官山店 p.058
セカイクラス reload p.094
道具屋nobori p.120
発酵デパートメント p.095
平和どぶろく兜町醸造所 p.099
本屋 B&B p.095
APFR TOKYO p.095
BANK p.098
ease p.098
FUN again p.122
FEELSEEN p.118
Graphpaper TOKYO p.070
IFUJI the box tailor p.110
Keshiki p.099
LOST AND FOUND p.082
MOGI Folk Art p.114
OFS.TOKYO p.117
OGAWA COFFEE LABORATORY 下北沢 p.094
Però下北沢 p.094
poubelle p.088
SHOPPE p.091
teal p.099
THINK OF THINGS p.078
u; generalstore p.116
waffle house p.121
Zelt Bookstore p.087

KANAGAWA【神奈川】
調理室池田 p.090

TOYAMA【富山】
トトン p.124

ISHIKAWA【石川】
PHAETON p.038

FUKUI【福井】
ataW p.050

NAGANO【長野】
haluta p.072
still p.072
haluta bagari p.075
lagom p.087
SAMNICON by SyuRo p.108

AICHI【愛知】
plusko p.088

GIFU【岐阜】
HIDA 高山店 森と暮らしの編集室 p.084

MIE【三重】
VISON p.042
ギャラリー泛白 p.042
くるみの木 暮らしの参考室 p.045
minä perhonen Museum Shop p.044

SHIGA【滋賀】
湖のスコーレ p.104

KYOTO【京都】
New Craft Shop p.087
bild p.088
YOLOs p.100

NARA【奈良】
鹿猿狐ビルヂング | 中川政七商店 奈良本店 p.076
奈良御菓子製造所 ocasi p.077

OKAYAMA【岡山】
SUNCA -旅とてしごと- p.046

OKINAWA【沖縄】
LIQUID THE STORE p.106



伊勢神宮と熊野古道から車で1時間半。内田鋼一プロデュースで2021年、三重県多気町に誕生した〈VISON〉＝美しい村。東京ドーム24個分の敷地にショップ、ミュージアム、宿泊施設が点在する。詳細はp.42〜。

photo_Haruhi Okuyama

DESTINATION STORE

デスティネーション・ストア。

美しい暮らしを提案するライフスタイルショップのブームから早10年。
コロナ禍の3年間を経て、ショップのあり方がまた変わってきたように思います。
空間にセレクト、店主との会話も魅力的な体験になるショップが
都市部のみならず、日本各地に続々登場しています。
人と土地が作る、旅の目的地にしたいデスティネーション・ストアを厳選してご紹介します！





茨城県取手市にある〈サンタセッ ムニ〉。1907年に建てられた日本家屋を利用した一軒家で「唯一無二」をテーマに集めたモノを紹介する。明治時代から残る意匠の優れた建具は極力残しつつ、居住性を重視してリノベーションした空間が心地よい。

photo_Keisuke Fukamizu
text_Yoshinao Yamada

18+

WHAT IS
AVAXHOME?

AVAXHOME -

the biggest Internet portal, providing you various content: brand new books, trending movies, fresh magazines, hot games, recent software, latest music releases.

Unlimited satisfaction one low price
Cheap constant access to piping hot media
Protect your downloadings from Big brother
Safer, than torrent-trackers

18 years of seamless operation and our users' satisfaction

All languages
Brand new content
One site

AVXLIVE.ICU

AvaxHome - Your End Place

We have everything for all of your needs. Just open https://avxlive.icu

DAY TRIP

そこにしかない体験を求め会いに出かけたい新店。

土地や建築や店主の個性を活かし、地方にこそ魅力的なショップが生まれています。空間やセレクトや店主との会話が忘れがたい体験となる、日本各地の新店をご紹介。休みができたら車や電車や飛行機で……あのショップから旅を始めませんか？

photo_Keisuke Fukamizu
text_Yoshinao Yamada

サンタセッ ムニ　2023年３月オープン。長年ファッションに携わる大貫達正さんが、世界中からモノとしての魅力を感じる「アートとプロダクトの間にあるモノ」を集めたショップ。年代別に往時を再現したデニムをはじめオリジナルも多数。住所非公開、完全アポイント制。@santasse_to_2020

オリジナルのデニムジャケットとデニムパンツを着用して、和風サンタフェをイメージした庭に立つ大貫さん。「デニムは1974年までがいいですね。今日のは40年代です」

DESTINATION 01

茨城｜取手

SANTASSÉ MUNI

唯一無二のモノを集めた大人の遊び場。

〝唯一無二〞をテーマに店主が好きなモノを集めた店。
手仕事と感性が生んだ世界中の魅力的なモノたちに、
心躍り、出会う喜びを味わうことができます。

photo_Keisuke Fukamizu
text_Yoshinao Yamada



取手の閑静な住宅街に突如現れるサンタフェ!? 白い建物の周りには白砂が敷かれ、サボテン。まずはショップの出で立ちに驚かされる。

名前は「サンタセッ ムニ」。サンタフェ好きの大貫達正さんの店なので、2つを掛け合わせてつけた。ムニは「唯一無二」の意。

建物は明治末期、大工が自分で住むために建てた日本家屋を改修したもの。天井を抜き、梁の間にガラスをはめて「ストーリーある〝好き〟を紹介したい」と、ショップに込めた思いを英字で書いた。

「〝好き〟とはつまり、情熱をもって接すること」と大貫さんは言う。

店内にはナバホのラグやピエール・ジャンヌレの椅子などのヴィンテージから、信楽の器、富士吉田のテキスタイルなど、年代や国やジャンルにとらわれず大貫さんの視点で選んだ様々なモノが並ぶ。

「情報から選ぶのではなく、モノ自体に強い魅力を感じるモノを選びました。アートとプロダクトの間にあるモノ、かな」

モノづくりにも関わる大貫さんだからこそ、伝統の継承が難しい時代だと感じるそう。日本にはかつて、紀元前からの銅製品の加工成形技術や、第二次世界大戦後に戦争未亡人が作ったスカジャンの刺繍技術など手仕事があった。技術が失われることを危惧し、それを活かした新旧のモノも紹介する。試着室に使うスカジャンの生地は、1950年代のデッドストック。「90代になった当時の職人さんと新しいプロダクトを試作中です」

選ばれたモノたちに、大貫さんの〝好き〟が宿っている。だから、大貫さんの解説を聞くのも楽しい。その熱量に客の熱量も高まっていく唯一無二の店なのだ。

旅の目的地にしたい4つの理由。



上質な大人の遊び場。

KEY WORD

1

元は明治40年（1907）の日本家屋で、大家はこの地で4代続く大工。曾祖父の建てた住まいを、生活を営むこともできるように環境性能に着目し、1年半かけてともに改修した。店内には土間で靴を脱いで入る。ゆったりと過ごしてもらうために、大貫流のくつろぎも重視した。カウンターにはキューバ産の葉巻や年代物の蒸留酒、庭にはインディアンのティピー（テント）…。空間を彩る厳選されたモノたちが「大人の遊び場」の特別な時間を盛り上げる。









1 葉巻や蒸留酒を楽しめるバー。**2** 古い建具を活かしつつ、「暮らして心地よい空間に」と窓は断熱性を重視した。ジャンヌレのダイニングセット7,568,000円。奥の屏風は3代続く〈大場紙工〉の〈フスマ〉の作品。385,000円。**3** 西向きの庭に置いたティピーではバーベキューなどを楽しむ。**4** エントランスはアメリカの渓谷をイメージした左官仕上げ。ジャンヌレの椅子が覗く。638,000円。**5** 南向きの縁側に銅を使ったオリジナルのピクニック家具セット。重ねられる。価格未定。

1 庭には信楽で購入したブルーの大鉢を置く。生デニムの購入時、大貫さんがここで水通しをする。**2**〈ノタショップ〉の自転車スタンドも青。19,690円。**3** ナバホのラグに並ぶ〈コールマインギャランティード〉のデニムパンツ。それぞれ往時のミシンで縫製する。奥は移染しにくいデニム生地、藍染めの木材を用いた〈オールド オーバー〉イーストポートラウンジチェア470,000円。**4** 同じく〈ノタショップ〉のそれぞれ色ムラのある傘立て。各38,280円。**5** 同サイドテーブル。140,000円。



2



1



4



5

KEY WORD

2

通による通のデニム。

「小学生の頃にお年玉で初めてのヴィンテージデニムを購入しました」と言う大貫さん。自身の原点でもあるオリジナルのデニムを限定販売する。自ら立ち上げたデニムブランド〈コールマインギャランティード〉では、1800年代後半から1920年までの炭鉱期、1930〜70年代までの10年ごとの時代性を反映したデニムパンツ計６型を展開する。デニムのスペシャリストとして知られる大坪洋介の手がけるデニム家具ブランド〈オールド オーバー〉の家具も扱う。



3

1 ピエール・ジャンヌレが初期にデザインしたというバンブーチェア。4,950,000円。**2** メキシコのオアハカで作られる彩色木彫りのフォークアート。184,800円。**3** 1910年以降にアメリカで生産された鉄製シザーランプ。価格未定。**4** アート界で注目される陶芸家、金理有に依頼したオブジェ。33,000円〜。**5** アメリカのヴィンテージコインでハンドメイドアクセサリーを制作する〈ノースワークス〉のモビールオブジェ。価格未定。**6** ノグチが作る銅と木の小物入れ。58,300円〜。**7** 銅で側面を巻いたオリジナルの座卓と座椅子はスタッキングすることで箱のように納められる。価格未定。


4


1


6


5


7

KEY WORD

3

アートとプロダクトの間にあるモノ。

店名にも掲げるように「"唯一無二"、のアートとプロダクトの間にあるモノを揃えました」と大貫さん。庭師を生業とする旧来の友人が彫金を得意とすることから、彼に作家活動を勧め、ノグチとしてこの店から活動を始めた。さらに海外で収集した民芸品、陶芸家やジュエリー作家に依頼したオリジナルなど、自ら足を運び、対話を重ねることで生まれたモノが店内に並ぶ。唯一無二のモノだからこそ完全予約制でしっかりとモノに向き合ってほしいという。


3


2

茨城｜つくば

SANTASSÉ GALERIE

サンタセッ ギャレリー 2021年７月オープンのギャラリーショップ。石蔵内のホワイトキューブ的空間にジャンヌレ、シャルロット・ペリアン、マルセル・ブロイヤーの照明やナバホのラグなどのヴィンテージから世界各国の民芸品、雑貨、Ｔシャツなどを扱う。住所非公開、完全アポイント制。

KEY WORD

4

米蔵を改築したギャラリー。

〈サンタセッ ムニ〉から車で30分の位置にあるギャラリーショップもぜひ。大谷石による米蔵を改築した店内にヴィンテージをはじめとしたレアな逸品が並ぶ。こちらも住所非公表でインスタグラムによる完全予約制。１組だけで時間と空間を独占する特別な買い物体験ができる。ショップ同様自らが使用し納得したものだけを集める。衣食住を横断してモノを買い続け、好きなモノとはなにかを探り続けた大貫さんの偏愛品が並ぶ姿は圧巻。時間をかけて吟味を楽しめる。

DESTINATION 02

石川｜加賀

PHAETON

自然光の下、モノと向き合うファッションの聖地。

石川県加賀市のセレクトショップ〈フェートン〉が新店を建設!
それも、これまでの店舗のすぐ隣だという。
その移動に込められた新たな企みを紐解いていきます!

photo_Masaki Ogawa
text_Yoshinao Yamada

PHAETONの式年遷宮…!?

フェートン　2023年7月、これまでの店舗隣に新店オープン予定。国内外から厳選したブランドの衣料品を中心に、フェイ・トゥーグッドの家具や雑貨、ヴィンテージアイウェア、香水などを扱う。そのセレクトに国内外から客が訪れる。●石川県加賀市伊切町い239☎0761・74・1881。11時〜19時。不定休。

右が既存店、左が新たに建設した新店。移転後に既存店舗は解体し、新店を建設。既存店の右隣に喫茶〈ティートン〉がある。背後には水田が広がり、前方には日本海が広がる。

小松空港から車で10分。決してアクセスがいいとは言えないこの地にファッションを愛する人々が集うのは、〈フェートン〉独自のセレクト力にある。イギリスを拠点とする〈トゥーグッド〉〈イザベラステファネッリ〉など、オリジナリティあるブランドの、ここにしかない服が並ぶ。それらと呼応するように家具や雑貨も置かれるが、オーナーの坂矢悠詞人（よしひと）さんはその基準を「共通点は、どれも遠い未来を見据えたデザイン」だと語る。

そんな〈フェートン〉がこれまでの店舗隣に新たな店舗を建設した。移転とともに既存店舗は解体予定と、まるで伊勢神宮が20年ごとに宮を遷す式年遷宮のようだが、そのきっかけは光にあった。

「自然光で商品を見たときに、初心に立ち返る高揚感を得ました。そこで、神殿や教会が持つ光の空間の中で服を見てほしいとの思いが湧き上がりました」と坂矢さん。前に海、後ろに田畑が広がるロケーションは唯一無二。一日の終わりには夕焼けで建物が赤く染まる。「何にも干渉されることのないこの場所には、美しい光があります。その光のもとで滞在を楽しんでほしい。冬はおそらく日没とともに閉店でしょうね」

これまでも商品をただ売るのではなく、特別な体験の提供に力を入れてきた。自身が紅茶に傾倒したことから喫茶を開き、認知度が高まったブランドは外に個店を出す。ここで売りたいのは何か。「みなが知らないもの、説明できないもの、そして意味がわからないもの」。そんな力強い言葉が、この店の本質をよく表している。







旅の目的地にしたい6つの理由。





3_見事な石コレクション。

坂矢さんの多様なコレクションのひとつに石がある。山から切り出した石に杭を打ち込んでハンマーで叩くときれいに割れるが、この石はうまく割れずに石材店で放置されていた。その力強さに惹かれ、窓外に設置。向こうには田園風景。窓前にも階段への沓脱石（くつぬぎいし）を設置する予定。

2_併設の〈ティートン〉で喫茶。

店横に建つ会員制の紅茶専門店〈ティートン〉では、ストレートティーやソイミルクティー、季節の紅茶とともにグルテン・デイリーフリーのケーキが楽しめる。窓から望む庭は壱岐ゆかりが手がけた。不定期に会員募集しオープン時にも募集予定。年会費8,000円。

1_漆喰とトゥーグッド。

ロンドンのデザインスタジオ、トゥーグッドの品揃えは国内随一。上／新作の陶製スツール352,000円。下左／この土地の夕日色でオーダーしたドレス158,400円〜。壁、床は姫路城も塗り直した左官職人の漆喰仕上げ。下右／〈ティートン〉にて、食器のシリーズ。マグ２個17,600円〜。

6_うつろいゆく光の美しさ。

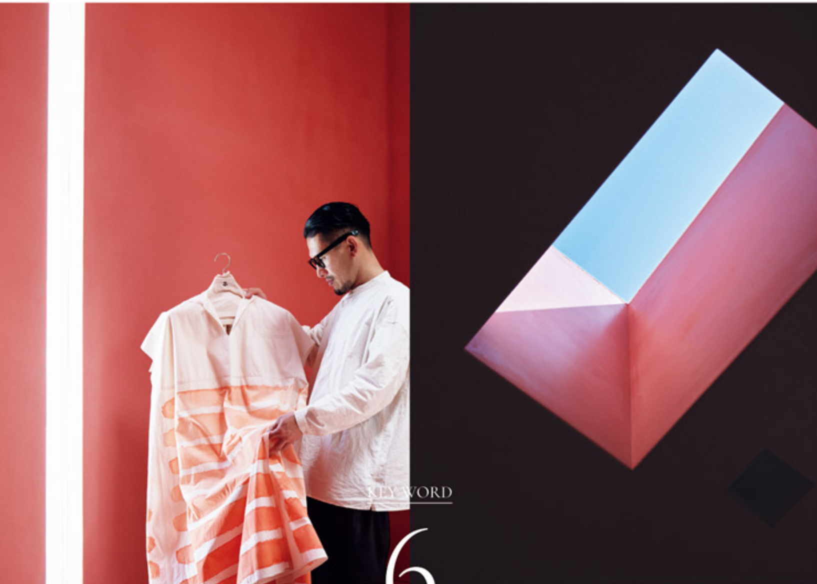
「光そのものが力強い意匠」と坂矢さん。店内は天井にわずかな間接光のみを仕込み、トップライトをはじめさまざまな開口部から差し込む自然光の中で商品を見せる。「服は自然光の中で着るものだから、自然光の下がいちばんきれいなんです。夕日で見るのもまたいいですよ」

5_香りの目利き。

「すべての香りがわかる」と坂矢さん。金沢市内の専門店では独自に輸入した約300種の香水を扱う。アドバイスも的確。新店のセレクトから、2019年フランスで設立の〈アトリエ・マテリ〉は繊細な香りに建築的なブルーのボトル、コンクリート製の蓋が調和している。

4_ヴィンテージのレアな什器。

ル・コルビュジエがインドのチャンディーガルで設計した建物に取り付けた日除け用の金属パーツ。その放出品をファサードに採用。本来の使い方をと贅沢に雨ざらした。メガネの試着はチャンディーガルのデスクとスツールで。他にもプルーヴェやペリアンなどのお宝が見れるかも。









DESTINATION 03

三重｜多気

VISON

心澄む、手仕事と食文化の〝美しい村〟へ。

内田鋼一が選ぶ白の器や、人気クリエイターの生活道具。
のびやかな自然の中で触れる食の世界もまた格別だ。
一度訪れればきっと誰かに自慢したくなる、新たな聖地へ。

photo_Haruhi Okuyama　text_Masae Wako



ヴィソン　名古屋から高速バスで約1時間半、伊勢神宮から車で20分。緑の山々に囲まれた広大な土地に、ショップやカフェ、ホテル、ミュージアムなどが点在する。●三重県多気郡多気町ヴィソン672ー1☎0598・39・3190。

白がテーマの〈ギャラリー泛白〉は内田鋼一プロデュース。手前、球体のガラス花器はイイノナホ。10,780円〜。急須は常滑〈丸よ小泉商店〉。8,800円。奥のポットはベルギーのアンティーク。27,500円。彫刻のような建物（左ページ）は内田のデザイン。小窓ではソフトクリームも販売。10時〜17時。無休。

伊勢神宮と熊野古道、二つの聖地のどちらからも車で1時間圏内。三重県の多気町に〈VISON〉が開業したのは2021年だ。東京ドーム24個分の広大な土地に、70軒余りのショップやミュージアム、宿泊施設が点在する、その名の通り「ヴィソン＝美しい村」である。

新鮮な食材が買える市場に、かつおぶしや味噌など和食の力を深掘りできるエリア、生活道具の店に行列のできるカフェ……と目移りするが、まず訪れたいのは、陶芸家の内田鋼一がプロデュースする〈ギャラリー泛白(うはく)〉。白をテーマにしたショップ&ギャラリーだ。「現代作家の白、ガラスの白、李朝や伊万里の白にフランスアンティークの白。時代も国も質感もさまざまな白を混在させています」と内田さん。稀代の目利きが選ぶ器や古道具は、どれを手にしても美しく、「白ってこんなに豊かで濃密なのか」とめまいがする。

さて、どうしても見ておきたい次の目当ては〈ミナ ペルホネン〉と〈くるみの木〉。なぜならショップだけでなくミュージアムが併設されているからだ。前者ではテキスタイル・アーカイブに圧倒され、後者では、店主・石村由起子の私物の食器をぎっしり収めた水屋箪笥にくぎ付け。他の街の店では体験できない贅沢空間に、思わず「ここまで来てよかった!」。

宿泊するなら、山の斜面に建つ〈HOTEL VISON〉でテラス付きの部屋を選びたい。星空の下で風呂に浸れば、器好きの友人や食道楽の知人の顔が思い浮かぶ。早く自慢したい。嘘のようだけれど、本当に心が満ち足りるのだと。



1_内田鋼一がプロデュース。

〈VISON〉の立ち上げに関わった内田鋼一。プロデュースする〈カタチミュージアム〉では、自身が収集した食にまつわる古い道具を展示。ユニークで機能的なカタチから、太古の、異国の、食文化と生活が見えてくる。☎0598・67・0725。10時〜17時。入館料1,000円。

2_伊勢神宮にも近い豊かな土地。

三重県の多気町は、古(いにしえ)より食物が豊かに育つ土地として、また薬草の町としても知られてきた。その風土を受け継ぐ〈VISON〉では、広大な敷地に店や商業施設がゆったりと配され、まるで村のよう。伊勢神宮に近く、熊野古道へも車で1時間。聖地巡りの旅も楽しい。

3_〈ミナ ペルホネン〉の世界に浸る。

オリジナルのテキスタイルから服を作る〈minä perhonen〉。その世界観に浸れるミュージアムでは、貴重な生地のアーカイブも展示。服や器、テキスタイルが買えるショップには、デザイナーの皆川明によるガラス絵も。☎0598・67・6467。10時〜18時。入場料800円。


KEY WORD
1


KEY WORD
2

旅の目的地にしたい6つの理由。




KEY WORD
3









4_絶景とお湯を楽しむ。充実のホテルステイ。

山の斜面に建つ〈HOTEL VISON〉のホテル棟は全155室。写真は半露天風呂が付いたテラスツインルームで、犬と宿泊できる部屋もある。ほかに別荘のようなヴィラが6棟、クリエイターがスタイリングした部屋を楽しむ〈旅籠ヴィソン〉が4棟。☎0598・39・3090。

5_〈くるみの木〉のミュージアムは必見。

奈良で40年続く名店。店舗には実力派作家の器やリネン、茶道具のほか、なかなか手に入らない石井直人の土鍋（38,500円〜）も。上は店主・石村由起子の愛用家具や生活道具を展示する〈暮らしの参考室〉（入場料600円）。☎0598・67・7828。10時〜18時。

6_世界遺産、和食の奥深さに触れる。

和食の名店が集まる「和ヴィソン」エリアには、日本の伝統的な調味料を買える専門店も並ぶ。昆布、かつおぶし、伊勢醤油のほか、三重の酒粕を使った赤酢まで。みりんづくりの見学ができる工房や、好みの出汁パックをオーダーできるショップも人気だ。







DESTINATION 04

岡山｜真庭

SUNCA-旅としごと-

美しい手仕事と、旅にまつわる道具があれば。

その二つがあれば心躍る。だから店名には"旅としごと"の文字。
岡山の山間部にある民家を改装した住居兼ショップで、
地元作家の器や、旅と暮らしにまつわる道具を紹介する。

photo_Keisuke Fukamizu text_Masae Wako

手触りのいいイグサの暖簾をくぐった瞬間、買い物好きのスイッチが入る。築98年の建物のあちこちに、味わい深い岡山の焼き物や日本各地の民芸品。古書に古道具に鉢植えグリーン、最近人気の刺し子や染めの布も並んでいる。「2階には古着やアウトドアアイテムもありますよ」と店主のヨコヤマアツシさん。気になるものが多すぎて、目も気持ちも追いつかない！
　岡山の山間部にある真庭市の久世は、かつて出雲街道の宿場町だった土地。江戸時代には牛の競り市も行われ、多くの旅人が訪れた。
「この町に古くからある旅館が僕の実家。宿の隣の建物を改修し、旅と手仕事の店を始めました」とヨコヤマさん。店名の「SUNCA」とは、かつて日本にいたとされる山岳民のこと。竹細工を手作りし、山地を移動しながら暮らしていた、まさに旅と手仕事の民である。
　「モノを通して、作り手の暮らし方を紹介したい」と考えるヨコヤマさんは、作り手の工房や家へ定期的に足を運ぶ。世代もジャンルも関係なく、暮らし方に共感できる人と付き合っていきたいからだ。
「最近は、作家さんが別の作り手を紹介してくれる〝数珠つなぎ〟も多いんです。選書をお願いしている古書店の店主に焼き菓子の作り手を教わったり、若手陶芸家が76歳の陶芸家を紹介してくれたり」
　それが品揃えの厚みと個性を作るのだろう。店内で味わえる自家製おやきを楽しんでいると、店主も数珠つなぎさながらに町の魅力を教えてくれる。近くのカレーハウスは器が素敵だとか、隣町の織り工房がおすすめだとか。だからまた来たくなる。モノだけでなく、好きな旅先が増えるのがうれしい。

サンカ タビトテシゴト　2023年３月オープン。店主のヨコヤマアツシさんは、鹿児島のセレクトショップに７年間勤めた後、岡山県真庭市の久世へUターン。旅館を営む実家の隣で店を始めた。もちろん旅好き。●岡山県真庭市久世2538－1☎090・7895・8450。11時～17時。水曜～金曜休。



土間や畳の間からなる店内の一部。この奥や２階にも、岡山と鹿児島を中心とした各地の手仕事や古書、食品が並ぶ。ペンダント照明のシェードは地元の新進陶芸家、藤田雄基。







KEY WORD

3

旅にまつわる道具。

上／2階に並ぶのは旅やアウトドアにまつわるもの。額装した「旅手」はシンタニユウタ。7,150円。その左の染めは鹿児島の〈Hi Hi Hi〉のNEW TRIBE巻布。27,500円。ヴィンテージのリュックサック17,600円。下／隣の旅館で使われる下駄も販売。5,500円。

岡山の手仕事。

上／瀬戸内市の金工作家、菊地流架の真鍮カトラリー。1,320円〜。下右／倉敷でイグサのかごを作る須浪亨商店の《びんかご》1,980円ほか。下左／羊毛を手織りする技術〝ノッティング〟の椅子敷き。県中部の吉備中央町で活動する橋本満菜に特注。17,380円〜。





おやきとコーヒー。

土間のソファコーナーでは、店主が手作りする季節のおやき（この日は筍＆豚ミンチやあんこ。1つ250円）を楽しめる。コーヒーは吉備中央町の〈オーガニカコーヒィ〉のもの。400円。備前焼カップは岡山の牛窓地区に登り窯を構える寺園証太。薬膳茶や焼き菓子も。



久世の歴史に触れる。

かつて牛の競り市で栄えた町・久世にちなんだ牛の凧（たこ）は1,980円。作り手は、版画の名手として知られる岩垣正道和尚。地元〈毎来寺（まいらいじ）〉の現住職だ。素材は真庭市樫西地区の三椏（みつまた）を原料にした手漉（す）きの樫西和紙。真庭市は木材の町でもあり、店内には丸太のスツールも。

KEY WORD

5







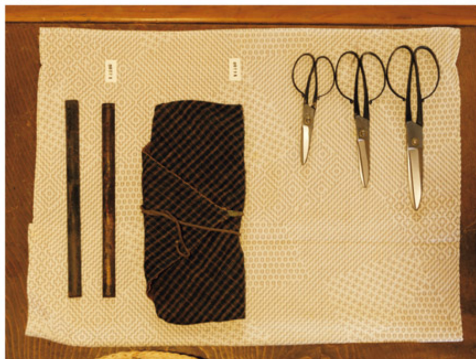
旅や暮らしを楽しむ本。

旅先で買った本を、宿や列車内で読むのは楽しい。店内のそこここに古書や雑誌のコーナーがあり、旅、山、食、暮らしなどテーマごとに並べられている。1冊数百円の買いやすいものが多いのも魅力。古書のセレクトは主に、島根県にある週末書店〈音鳴文庫〉。

KEY WORD

7





古物×現代のディスプレイ。

上／ラオスの古い膳（11,000円）と熊本の手仕事。カップは〈満願寺窯〉の北川麦彦。4,950円。錫の花器は〈オープンスタジオ〉。下／切れ味のよさに驚く種子鋏は鹿児島の伝統工芸。4寸7,700円〜。古裂のペン入れ4,400円。刺し子織の布は福島の大峡健市。

KEY WORD

6



宿場町の面影を残す町並み。

〈須浪亨商店〉によるイグサの暖簾が掛かっているのが店舗。隣は店主の実家でもある〈下玉屋旅館〉。このあたりは旧出雲街道に近く、かつては宿場町や市場町、代官所のある陣屋町として繁栄。17世紀初頭には商店街の原型のような町並みも形成された。



DESTINATION 05

福井｜越前

ataW

田園に佇む高感度なデザインショップ。

眼鏡や漆器で知られるものづくりの町、越前鯖江。
その田園風景に突然現れるデザインショップが、
さらなる進化を目指してリニューアルオープンしました！

photo_Makoto Ito
text_Yoshinao Yamada

アタウ　オリジナル製品や国内外のデザインプロダクト、日用品、家具などを販売するセレクトショップ。2015年にオープンし、2023年6月リニューアル。6月24日から成田周平の箱物を中心とする個展を開催する。●福井県越前市赤坂町3―22―1☎0778・43・0009。11時〜18時。水曜・木曜・年末年始休。

オフィス、倉庫と仕切られた回廊のような空間に商品が並ぶ。不定期で企画展やライブも開催。木村松本のローコストながら仕掛けに満ちた建築も見どころの一つ。

漆器、和紙、打ち刃物、そして眼鏡などのものづくりで知られる福井県越前市と鯖江市。この二つの市の境界に建つ〈アタウ〉は、国内外の知られざるデザインプロダクトなどを扱うセレクトショップだ。

オランダの美術大学、デザインアカデミーアイントホーフェンで学んだ店主、関坂達弘さんは「地元に根づく産業や工芸のハブになる場所を新しい視点で作りたかった」と語る。家業である1701年創業の漆器メーカーの12代目を継ぎながら、その仕事を次々と見直していった。自社ブランドでは国内外のデザイナーとユニークなものづくりを進め、世界の第一線を行く海外のデザイナーのプロダクトなどをセレクトするショップを開いた。

こうして国内有数のコンテンポラリーなデザインショップへと成長したが、そのセレクトは「機能的なものよりも作り手の視点や素材使い、モノの佇まいに心動かされる」という関坂さんの視点が貫かれる。6月にリニューアルオープンした店内は、内装を木村松本建築設計事務所に依頼した。大らかな視点、素材使い、ディテールが面白いと、プロダクトの選定と同じ視点を空間づくりにも貫いた。また夏には新製品を次々と発表する。スイス人デザイナーのカルロ・クロパスによる23種のカトラリー〈SARO〉では、はじめて県外の素材や技術も取り入れた。幅広い食文化に合う道具を目指し、そこには暮らしという視点をしっかり含んでいる。

穏やかな田園風景に突然現れる世界水準のデザインショップ。まさに目的地にふさわしい店の新たな挑戦を体験してほしい。

「うるしの里通り」と名づけられた県道18号線に面して開放的な窓を持つ店内。オリジナルブランドとデザインプロダクト、工芸作家の作品などを並列に紹介している。

旅の目的地にしたい5つの理由。



1_作家モノのオブジェ。

アーティスト、デザイナー、工芸作家など、幅広いジャンルの表現者と展示を行う。写真は木工作家の西本良太に依頼した漆塗りを取り入れたオブジェなどや、陶芸家の成田周平が製作する箱物。展示に限らず、不定期で入荷する作家性の強いオブジェとの出会いを楽しみたい。

2_旬のデザイナーとオリジナル開発。

自社ブランド〈SEKISAKA〉では親交のあるデザイナーとユニークな製品に挑む。新作は熊谷彰博による乾漆塗装のトレー（上右）、各3,300円。カルロ・クロパスによる金属や木製のカトラリー、木べら、地元で製作するナイフなどのシリーズ（下）は８月発売予定。



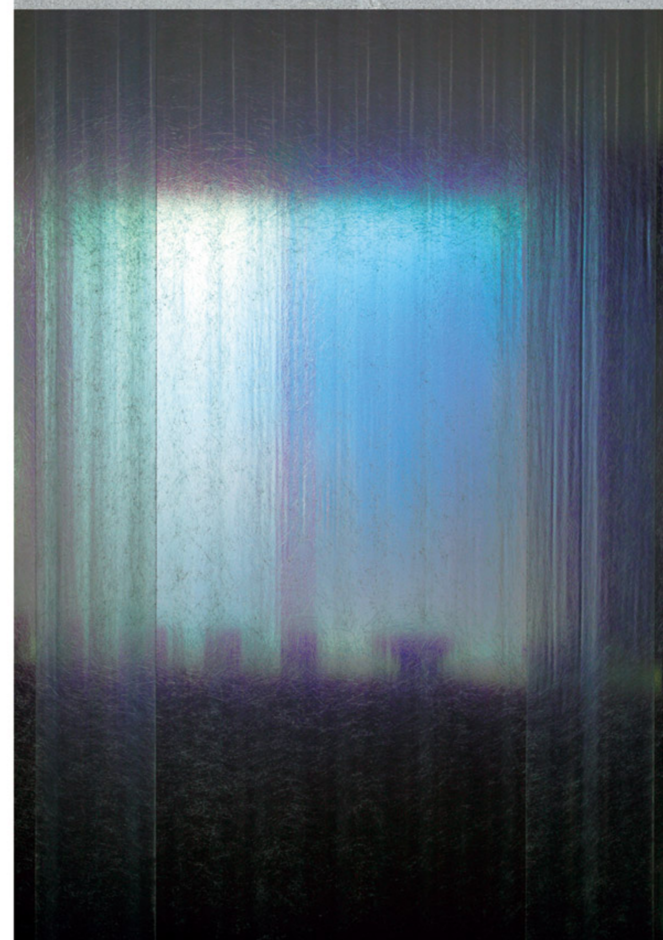












5_イタリアの巨匠のデッドストック。

近隣の漆器メーカー〈丸富漆器〉はデザイナーの梅田正徳をディレクターに迎え、イタリア・モダンデザインの巨匠たちと多くの製品を発表した歴史を持つ。関坂は同社に眠るデッドストックを紹介。こちらは梅田がデザインしたプラントポット。左・中各1,980円、右3,740円。

4_海外デザイナーのレアアイテム。

関坂がオランダで師事したアルド・バッカーをはじめ、イ・カンホ、マックス・ラム、クリスチャン・メンデルツマら、気鋭のデザイナーの製品を紹介。写真はメキシコを拠点とするデザイナー、ファビアン・カッペッロのブリキのジョウロや花器。10,450円〜19,800円。



3_建築家〈木村松本〉の最新作。

京都の木村松本建築設計事務所に改修を依頼。ショップにオフィスと倉庫機能を付帯させるため、両者を透過性のある波板で仕切る。ビニールハウス用ドア素材、室内に虹色の光が差し込むFRP板、磁石で開閉する壁など、素材とディテールの妙が気に入っているという。

DESTINATION 06

北海道｜奈井江

交点

古道具で辿る、北国の歴史と暮らし。

札幌から北へ車で1時間ほどの小さな町、奈井江。
この町で築100年を超えるレンガ造りの倉庫に惹かれた店主が、
北国の生活道具を揃えた古道具店が開業しました。

photo_Ikuya Sasaki　text_Yoshinao Yamada



日本一長い直線道路と言われる国道沿いに建つレンガ造りの古い倉庫は、それと知らなければ見すごしてしまいそうだ。〈交点〉と名づけられた古道具店に足を踏み入れると、広い空間を埋め尽くす物量に驚かされる。そしてそれらの道具は見た目に古くも、見慣れぬものばかり。店主の土田瞬さんに尋ねると、多くは北海道の開拓期を支えた道具だという。

北海道に開拓使が置かれたのはいまから154年前。先住民族であるアイヌ民族の文化とは異なる文化が根づいてきた時間だ。土田さんが手にしたカゴや網で時折光るのはニシンの鱗(うろこ)。それらは開拓期の北海道を支えたニシン漁の漁具で、ほかに除雪道具や馬具、そしてもちろん木彫りの熊までが並ぶ。土田さんの解説を聞いて見慣れぬ道具を理解するうちに、古道具屋ではなく郷土資料館に迷い込んだ気になる。土田さんはそれらの魅力を「本州とは違う歴史を重ねた、その重みにある」と言う。

「アイヌ民族の文化を除き、北海道の歴史は浅いと言われます。それでも時代を重ねた道具には地域独特の雰囲気が宿ります。僕はそこに強く惹かれるのです」

奈井江はかつて炭坑で栄えた町だが、現在は農業を産業の中心とする。土田さんも畑で作物を育てており、その作業に古農具を使う。「古くてもよくできた道具。まだまだ使えます」と言う彼に限らず、実用目的で購入していく人も少なくない。知られざる北海道の道具史を紐解きつつ、いまに使える古道具を見つけだす。そんな旅の目的地にどうだろう。

こうてん　日本で最も長い直線道路と言われる国道12号線沿いに建つ築100年超のレンガ倉庫に店を構える古道具店。土田さんが偶然見つけた建物に惹かれ、借り受けることになった。札幌にも支店あり。●北海道空知郡奈井江町113─5☎050・3173・7828。12時〜18時。営業日は@koten_jpを確認。

右ページ／北海道を中心に日本各地の古道具を集めた1階。壁奥にも別の展示室がある。左ページ／屋根裏の空間。1階は雑多な展示のなかで発見が、屋根裏では美術館的な展示が楽しめる。スツール18,700円、下の荷ゾリ11,000円、左のガラス棚88,000円。



KEY WORD
3

日本古来の光を再現。

倉庫だったため窓の数は限られ、そこから差し込む自然光を巧みに使ってディスプレイを行う。「扱う古道具の多くは日本的な幽玄幽暗な光によって美しく見えるものが多いように感じます。屏風などで奥行きを持たせた展示も意識的なものです」と、土田さん。



KEY WORD
4

時を超える実用的な道具。

古家具、古道具を中心に扱うが、「あくまで日常的な道具を買い付けるように意識」し、いまも実用に足るものがほとんどだそう。一見して使い道がわからない道具も解説してくれる。中央の花を生けたガラスは魚獲りの罠22,000円、左下はこね鉢各19,800円。



KEY WORD
1

アートにもなる開拓期の民具。

壁に立てかかるのは除雪道具の雪かき12,000円。現在はへら部分に金属や樹脂を使うが、かつては木製だった。他にコスキやジョンバと呼ばれる古い除雪道具も。またニシン漁を中心とした漁具、開拓のパートナーであった馬の馬具など、地域性豊かな古道具が揃う。



KEY WORD
2

レンガ倉庫の巨大な空間。

大正7年（1918）に造り酒屋の倉庫として建てられたレンガ造りの建物を使う。その後も町役場や商店として使われたが20年以上にわたって放置されていた。屋根裏の空間も含め、およそ300坪程度の大空間。まさに資料館や博物館のような物量を楽しめる。



KEY WORD
7
ユーモラスな木彫りの熊。

全国的に再評価が進む木彫りの熊も揃う。一般的に地名をとり八雲熊、旭川熊、奈井江熊と分類され、〈交点〉が店を構える奈井江は「堀井熊」と呼ばれる堀井清司の拠点として知られる。他と比べて土産物の色も強かった堀井の熊はどこかユーモラス。8,000円〜。



KEY WORD
8
古家具に学ぶ現代作家モノ。

旭川市に隣接する東神楽町の牛舎に工房を構える木工作家、今野翼の家具も扱う。〈交点〉の常連でもあるという今野は、店に並ぶ古家具から継ぎ手や木組みなどのディテールを参照し、自身で現代的に表現する。左のスツール48,400円。テーブルの馬脚165,000円。



KEY WORD
5
大胆に楽しむ見立て。

壁面に飾られているのは石炭ストーブの下に敷かれていた台座。店内では商店時代に使われていた冷蔵庫をディスプレイに使うなど、大胆なアイデアで用途を変えて古道具を楽しむ土田さんの提案も楽しめる。ストーブ台44,000円、馬のオブジェ33,000円。



KEY WORD
6
確かな作りの古家具。

明治から昭和初期にかけて製作された状態のいい家具を買い付け。「機械化以前、多くの工程が職人の手で製作された家具で、材は硬いナラやケヤキが多い」と土田さん。写真の机は引き出しの面材がわずかに膨らんで仕上げられている。総ケヤキの机319,000円。



CONRAN CONTINUE

ザ・コンランショップ史上初！アジアに焦点を当てた路面店。

2023年4月にオープンした〈ザ・コンランショップ 代官山店〉は、アジアのデザインや手仕事にフォーカスした自主編集型の路面店。創業者テレンス・コンランが遺した美学を次世代へ繋ぐ店だ。

photo_Satoshi Nagare　text_Masae Wako

中原慎一郎

なかはらしんいちろう　1971年鹿児島県生まれ。〈ザ・コンランショップ〉との出会いは学生時代に訪ねた英国本店。1997年〈ランドスケーププロダクツ〉創設。2022年コンランショップ・ジャパン代表取締役社長就任。さらなる新展開も計画中。



東京｜代官山

The Conran Shop Daikanyama

ザ・コンランショップ ダイカンヤマ　2023年４月、独自にモノ選びや買い付けをする自主編集型の店として、代官山ヒルサイドテラスにオープン。●東京都渋谷区猿楽町18−8ヒルサイドテラスＦ棟1F・B1☎03・6703・6700。11時〜18時（土〜19時）。水曜休。**聴景居** 12時〜22時LO（日・祝〜18時LO）。不定休。

店は１階と地階。家具が並ぶ地階（写真）には、アジアの作家を紹介するギャラリーや〈櫻井焙茶研究所〉櫻井真也によるTEA BARも。左官壁や障子を生かした空間は芦沢啓治。

代官山のザ・コンランショップは、「生活上手」になれる店。



代官山の旧山手通り沿いに今年4月、〈ザ・コンランショップ〉の新店がオープンした。ウィンドウ越しの店内に並ぶのは、モダンな木の椅子や白い陶器、和紙のキャビネット。この町に似合う上品で親しげな空間に、クリエイター風の紳士も若者も散歩客も、次々と足を止めて入口へ向かっていく。

「生活上手、つまり、生活者として優れた人になるためのヒントがある店を目指します」

と中原慎一郎さんが言う。ヒューマンメイドの家具や雑貨、民藝の魅力を広め続けてきたキーマン



ウィンドウには世界に先駆けて使われたザ・コンランショップの新しいロゴ。

は2022年、コンランショップ・ジャパンの代表取締役社長に就任した。そんな中原さんがゼロから立ち上げたのが、〈ザ・コンランショップ 代官山店〉。ブランドにとって東京初の路面店だ。吹き抜けのある1階には器やカゴ、文房具などの日用品。地階では家具をメインに扱うほか、カウンターでアジアのお茶を楽しむTEA BARや企画展を行うギャラリーもある。

　大きな特徴のひとつは「自主編集型」であること。もの選びや買い付けも自分たちで行うという。1973年にロンドンで1号店がオープンして50年。世界各国に広

1 器や生活雑貨が並ぶ1階。ロフト風のフロアにはスツールなどの小家具も。テレンスが愛した青を使った絵画は韓国のチェ・スンホ。**2** 地階は生活空間をイメージしやすい構成。ガラステーブルは倉俣史朗の現行品。374,000円。**3** ベッドはタイで話題のクリエイティブスタジオ〈Atelier 2+〉によるデザイン。**4** 企画展を行うギャラリー。**5** 日本茶専門店〈櫻井焙茶研究所〉所長、櫻井真也が監修するTEA BAR〈聴景居〉。作家ものの道具も多く、茶釜は〈郡司製陶所〉に特注。**6** カウンター8席の小空間。**7** 新鮮なハーブティーも。








がった〈ザ・コンランショップ〉の中でも初の試みだ。もう一つは、焦点をアジアに絞ったこと。

「創業者のテレンス・コンランが2020年に亡くなるまで貫いたのは、PLAIN, SIMPLE, USEFUL（無駄なく、シンプル、実用的）という哲学。それは用の美や、日本の民藝にも通じると思うんです。ならば、テレンスの精神を受け継ぎつつ、アジアに特化したものを選ぶことで、面白くて新しい店になる。OEMで鍛えられた企業や伝統技術をモダンに生かせる若手など、今のアジアには優れた作り手がどんどん増えていますから」



地階の〈聴景居〉。ロゴデザインは装幀家でもあるサイトヲヒデユキ。

中には無名の作り手のデビュー作となる文房具や、日本では知られていないブランドのテーブルウエアもあって、昔からのファンも新鮮な気持ちで楽しめる。

店作りにあたっては、アジアの住空間の心地よさも重視した。空間デザインを手がけた芦沢啓治は、家具や照明を引き立てるプレーンな色彩と手触りのいい自然素材を採用。「もてなす」「くつろぐ」など、生活シーンを想像しやすいように作り込んでいるのも特徴だ。

そんな代官山店から発信されるアジアの名品は、次ページで紹介。







泡沫のブルーグラス

by 関野ゆうこ／SORTE GLASS

「テレンスが好きだった青色のアイテムを探してたどり着いたのが、丹波篠山に工房を持つガラス作家のグラス。〝泡沫〟という独自の技法で作られていて、ガラスの表面に細かい泡の層がある。触るとツブツブが気持ちいいんです」。各7,260円。

バンコク発・気鋭ユニットのスツール《Pebble》

by Atelier 2+／PODIUM

「僕が最も注目しているのがバンコク拠点の２人組ユニット〈Atelier 2+〉。〝プレーン、シンプル、ユースフル〟で、素材使いもデザインもユニーク」と中原さん。チャムチュリーウッド（ネムノキ）を使った《ムーンラー》シリーズのスツール88,000円。

水彩アルミパレットと右手クリップ

by 月光荘

「大正６年創業、銀座にある老舗画材店。若旦那（店主）のセンスが本当に面白い。オリジナルの《右手クリップ》（各600円）は海外に行く時にマネークリップとして愛用しています」（中原）。「猫柳色」と呼ばれるアルミパレットは4,400円。







台湾の土着文化を伝える素焼きの花器

by KAMARO'AN

「台湾原住民族の土着文化をリサーチしてモノづくりをするユニット〈カマロアン〉のもの。陶器の花器は、穀物や豆を入れる器から発想されている。外側は素焼きで、内側の底にガラス釉薬がかかっています」。上68,200円、下は各61,600円。

刳（く）り跡も美しい新世代の木のトレイ

by dhwoodworks, CHEN'S WOOD

「鑿（のみ）の刳り跡が残る木製トレイが気になって、韓国でも台湾でも買い付けました。若手の感覚で作られていて、今の生活に合う。薄くて軽い点も魅力です」。手前２点は韓国の〈dhwoodworks〉、奥は台湾の〈CHEN'S WOOD〉製。28,600円〜。

杉と美濃和紙のキャビネット《紙棚》

by 川合優／SOMA

「大学で建築を専攻し、飛騨で木工、京都で椅子張りの修業を積んだ美濃の木工家、川合優のキャビネット。品があって細部まで美しく、とても軽い。グレーの和紙を使ったタイプ（957,000円）もあります」。W84×D39×H167㎝ 770,000円。







中国・四川省の
銅のヤカン

by noname

銅板を鎚で叩いて強くする鍛金の技法で作られたヤカンは、四川省の喫茶文化から生まれたもの。「買い付け仲間の一人、〈みんげいおくむら〉店主の紹介で仕入れました。カジュアルに日常使いできるところが気に入っています」。17,600円。

入れ子状になる
麻の小物入れ

by noname

「麻のポーチは韓国の目利きに教わった工房の作。茶器入れだと思います。カラフルなものも多い中、代官山店のために素材のままの色で製作してもらいました。入れ子というアジア的なつくりも素敵です」。右から、39,600円、30,800円、19,800円。

〝角〟を留める
画期的なホチキス！

by Cornervery

「〝角〟を留めることができる、世界でも類を見ないホチキス。韓国で見つけたニューカマー、コーナーベリーの作で、私財を投じてこの機構を開発したという物語にも惹かれました」。代官山店ではこのホチキスを使った企画展も予定。29,700円。







コーヒーテーブル付きの
モダンソファ

by 芦沢啓治／ARIAKE

「店舗設計も手がけてもらった芦沢さんの、〝プレーン、シンプル、ユースフル〟なデザイン。座面の低いソファは日本の空間になじむし、座り心地も抜群」と中原さん。佐賀の家具メーカー〈ARIAKE〉製。W208×D85×H62・SH36cm 539,000円。

ガマの茎で編んだ
韓国のカゴ

by noname

「韓国の地方で見つけた工芸品。こういう名もなき日常品の中に、驚くほど美しい手業が隠れている。本体はガマの茎を編んだもの、縁は竹の曲げ木です」。２個組みで写真のように入れ子で使ってもいいし、本体＋蓋としても使える。60,500円。

クラロウォルナット材の
コーヒーテーブル

by 梅本敏明／Studio Khii

「大学で建築を学んだ後、美容師を経て、和歌山で木工作家になったという異色の経歴の持ち主、梅本敏明。木の割れを防止する〝チギリ〟の意匠がグラフィティのよう。見れば見るほどカッコいいんです」と中原さん。φ55×H45cm 594,000円。



1「お客さんを全力で喜ばせ、自分も全身で楽しむ。テレンスは希代のもてなし上手であり、優れた生活者でもあったと思う」と中原さん。2 2020年に逝去したテレンスの著書も販売。右は中原さんが何度も読み返した『MY LIFE IN DESIGN』。

INTERVIEW

中原さん、コンランから受け継いだものは何ですか？

photo_Aya Tokunaga, Satoshi Nagare (Daikanyama)
text_Masae Wako



2005年、Casa BRUTUS編集部の提案でインドへ買い付けの旅に出かけたテレンスに同行。デリーにある店で、植物染めのタイダイやカラフルなシルク生地をハンティング。

テレンス・コンランの代表作は何だと思いますか？――〈ザ・コンランショップ〉の魅力を聞こうとしたら、中原さんがそう切り出した。答えは大きなソファ？ 白い器？

「僕は〝お店〟だと思うんです。テレンスは、今でいうライフスタイルショップの形態を、いち早く作ったデザイナーではないでしょうか。彼がロンドンに〈ザ・コンランショップ〉の1号店を開いたのは1973年。家具は家具店、器はテーブルウェアの店で扱うのが当たり前の時代に、椅子も器も本も同じフロアに並べて紹介したなんてすごい発明です」

――最初の印象を覚えていますか？

「僕が初めて本店を訪ねたのは89年でしたが、入口に花屋がある！ カフェもある！ と衝撃を受けました。考えてみれば、モダンなものとアンティークをミックスして使う、アウトドアの要素を室内に取り入れる、洋書をカッコよく並べる、業務用のキッチン道具を使う、見せる収納を楽しむ……今、僕たちが行っていることは、みんな〈ザ・コンランショップ〉が始めていたんですよね」

――その後94年には日本に上陸します。

「テレンスのスタイルは世界中に拡散しましたが、中でもいちばん深く根づき、新たな形で発展したのが日本でしょう。イギリスで始まったアーツ＆クラフツ運動が日本に伝わって民藝運動として花開いたように、〈ザ・コンランショップ〉は日本の生活文化を変え、多くのインテリア好きに影響を与えました。もちろん僕もその一人です」

――その偉大な看板を日本で継ぐことになった中原さんが、まず始めたことは？

「テレンスの著書をすべて読み直しました。そのうえで改めて意識したことの一つは、彼の原点が飲食業にあったこと。飲食とはもてなすこと、人を喜ばせること。〝あらゆる才能を駆使してお客さんの幸福感を高めることが大事だ〟と繰り返し書かれていて、とても共感しましたね。僕の実家も鹿児島で飲食の仕事をしていたので。もう一つは、すべてが人から始まっていたこと。いろんなエピソードに〝この仕事は誰々との出会いで始まったんだ！〟みたいなひと言が必ず添えられているんです。テレンスのそういうところにグッとくるし、人との関わり方にも学ぶことがたくさんある。だから、ということでもないんだけれど、僕も店の設計を芦沢啓治さんにお願いすると決めてから、まず彼を家に招いて、自分の生活や長年集めてきたものを全部見せました。テレンスがそうだったように、自分が考える心地よさを共有して、空間作りに生かしてほしかったから」





「海外で雑貨を買い付けるとしたら」をテーマに、テレンスが旅した企画（編集部も同行！）。1999年（**2**、**3**）、2003年（**1**）は中国へ。「これは美しいけどサステナブル？ 私たちは価格と質だけでは選べないよ」。20年前の発言だ。



「店の原点は、人を喜ばせること」という哲学です。

――ものを探す／見つけるという点でテレンスから学んだことはありますか？

「彼がものを選ぶ基準は〝PLAIN, SIMPLE, USEFUL〟でしたが、美しさや機能性だけを見ていたわけではないですよね。実際に中国やインドへ足を運び、職人の仕事場や町の市場を訪ね、土地の人々との会話や暮らし方とともにものを買い付けていた。しかもその過程をめちゃくちゃ楽しんでいることが、店からも商品からもにじみ出ていて。だからこそ、シンプルなものもチャーミングに見え、多くの人を惹きつけたのだと思います」

――では中原さんはどんな買い付けを？

「これまで旅してきたアジア各国にはアンバサダー的な仲間がいます。彼らに協力してもらって、僕や代官山店スタッフも現地で直接ものを選べる体制を整えました。あらかじめリサーチはしますが、ハプニングも大歓迎。先日の旅では地元のおばあちゃんがガマのカゴをいくつも抱えて行商している姿があまりに素敵で、思わずその場で買い付けさせてほしいと交渉してしまった。〝レンゲってどこの国にもあるけれど、食文化によって形も素材も違うんだなあ〟みたいな個人的ブームが反映されたりもします。でも僕の意見が絶対ではなくて、最終決定はスタッフやバイヤーに委ねています。実際に買い付けをしたスタッフが店頭にも立ち、現地で見聞きした作り手の想いをお客さんに伝えながら販売する。それが代官山店の個性になると思うから」

――最後に今後の展望を教えてください。

「具体的には、収納アイテムを増やしたいのと、海外のクラフトフェアでも買い付けをしたいということ。あとは〝ふさわしい店〟を目指したいです。ふさわしい店とは、空間とものと働く人が気持ちよく似合っている店。〝この名作椅子はいろんな店にあるけど、代官山店で見るのが素敵〟と思ってもらえる店ですね。そのためには、モノ選びと同時にショップとしての内面的な肉付けが必要で、とりわけ〝聴く〟ことがキーワードかなと思っています。〝聴く〟には感じ取るという意味もある。作り手やスタッフや自分自身の声をよく聴き、ものに宿るキャラクターを感じ取り、〝お客さんをどう喜ばせるか〟というテレンスの哲学に耳を傾ける。そうすれば店の形や選ぶ人は変わっても、コンランスピリットはちゃんと続いていく気がするんです」





こちらもカーサ提案の海外買い付け旅企画。**4** 2001年は雑貨天国タイへ。市場でガーデニング用の壺やカゴを探索。「これはイマイチだ」。**5** 2005年、インドへの旅では紅茶専門店も視察。**6** タイで土産物の山から見つけたザルにご満悦。



MOVE FORWARD

あの〝名店〞のネクストステージ。

店主の個性が空間を占め、唯一無二といわれてきた
あの「名店」も、次なるステージに進んでいます。
さらなる〝ワクワク〞で埋め尽くされる空間を紹介。

栃木｜黒磯

tamiser table

タミゼ テーブル　築90年超えの大空間は、2009年から21年まで高橋さんと吉田さんが黒磯の家として使っていた場所。二人が隣の棟で09年に始めた〈tamiser kuroiso〉を、こちらの棟へ移して店名を改め22年に再オープンした。●栃木県那須塩原市本町3−13☎0287・74・3448。13時〜18時。火曜・水曜休。

店主の高橋さんが選ぶ器やガラス、生活まわりの本や食材のほか、古い家具を復刻した3本脚スツールやミリタリーパンツなどオリジナル品も並ぶ。ワークショップも不定期開催。

栃木｜黒磯

antiques tamiser/ tamiser table

生活雑貨と古道具。進化した二つの〝タミゼ〟。

器や道具選びの達人であるスタイリストの高橋みどりさんと、
古道具の目利きとして信頼を集める吉田昌太郎さん。
二人が営んできた名店が、緑豊かな黒磯でリスタートした。

photo_Norio Kidera　text_Masae Wako
editor_Kazumi Yamamoto

東京から新幹線で約1時間半。豊かな自然が残る栃木県黒磯の駅前に、2022年、二つのタミゼがオープンした。2棟並ぶ木造の1棟は、スタイリストの高橋みどりさんが店主の〈タミゼ テーブル〉。09年にこの町で始めた器や生活雑貨の店を、より充実させた新ショップだ。もう一つは、吉田昌太郎さんが東京で20年間営んできた古道具店を移転した〈アンティークス タミゼ〉。二人は、それまで続けた東京・黒磯の二拠点生活にも区切りをつけ、吉田さんが生まれ育った黒磯へ移り住むことにした。

「〈タミゼ テーブル〉で扱うのは、自分で使ったり着たり食べたりして納得し、気に入ったモノだけ」と話す高橋さんは、誰もが見逃しそうなモノの魅力や役割に気づかせてくれる達人だ。そのためのディスプレイも心憎い。例えば、器作家の福森道歩の土鍋の隣に当人の著書『ひとり小鍋』を置く。本をめくれば、「この器でこんな料理ができるんだ」と欲しくなる。

一方〈アンティークス タミゼ〉に並ぶのは、「ギャラリーのような緊張感と、たくさんのモノに出会える楽しさ。余白と密度の両方を意識しています」と話す吉田さんが買い付けてきた古道具。その美しいディスプレイはもちろん、この場所にしかない光や音楽、匂いまでが心地よくて、なんて贅沢なのだろうと心が満たされる。

二つのタミゼで提示されるのは、モノだけでなく、それにふさわしい空気感や、モノから広がる暮らし方。その説得力ある店づくりには、二人が黒磯で手に入れた新しい日常も息づいている。









2 1
4 3

1〈アンティークス タミゼ〉には、子どもと鳥をモチーフにした木彫で知られる彫刻家、大竹利絵子の作品も。「この眼差しがいいんです」と吉田さん。素木を生かした勢いのある彫り目も印象的。2 かつてはタクシー会社の車庫＆整備場だった木造建物。3 建物に入ると教会を思わせる細い通路が現れる。右手が〈タミゼ テーブル〉、左が〈アンティークス タミゼ〉。少し緊張するような、ワクワクと心躍るような。4〈アンティークス タミゼ〉の一角。吉田さんの蔵書が並ぶカウンター内まで美しい。



栃木｜黒磯

antiques tamiser

アンティークス タミゼ　2022年まで恵比寿で営んでいた店を移転。日本はもちろん、様々な国の味わい深い器や古道具のほか、オリジナルの本立て、家具、琺瑯ランプシェードなどを扱う。●栃木県那須塩原市本町3−13 ☎0287・74・3448。13時〜18時。火曜・水曜休。

吉田さんの独特な目線で選ばれた用途不明なオブジェや作家のアート作品も静かに共存する店内。柔らかな光や静謐な音楽、壁の余白を生かしたディスプレイなど、美しい世界観に触れられることも、黒磯まで足を運ぶ理由。

東京｜参宮橋

Graphpaper TOKYO

“店内まるごと売り物”な複合型店舗、始めました。

クリエイティブディレクター南貴之による新店舗が完成。
店内のものはほぼすべて購入可能。
「理想をカタチにした」という、複合型コンセプトショップとは?

photo_Masaki Ogawa　text_Chisa Nishinoiri
editor_Kazumi Yamamoto

スタンダードで上質なワードローブを展開する〈Graphpaper〉の東京初のフラッグシップショップを筆頭に、アート、本、音楽、飯も酒も詰め込んだ、大箱の複合施設が6月3日に参宮橋に誕生した。

1階はレコードやアートブックが並ぶ新レーベル〈Vektor shop®〉の物販やギャラリーと、食い道楽でもある南貴之が各地で出会った“あの店のあの一皿”や、ナチュールやクラフトビールが楽しめる角打ちスタンド〈寄〉を配置。

2階は空間が一変。黒塗りのボックスがそびえ、洋服はどこにも見当たらない。が、箱の奥に回り込むと〈Graphpaper〉の洋服がフルラインナップされている。

「いかに服を隠すか、が肝。以前リチャード・セラの個展で見た、黒い彫刻が整然と並ぶ空間がヒントになっています。あえて服を見せないことで、探究心を刺激したい」。さらには南さんが敬愛するインテリアデザイナー、内田繁のプロダクトがそこここに置かれていて、なんとほぼすべてオーダーできるという。まさに、南さんの理想がカタチになった空間なのだ。

しかし、ニッチな参宮橋界隈。なぜこの場所に?

「何もないからいい。8年前に〈Graphpaper AOYAMA〉を作った時も、神宮前のあえて人が通らない場所を選んだ。でも、周りに店が増えて街が活性化していく様を目の当たりにして、新しくエリアを作るのは面白い、と思ったんです」

この全方位で体感できる複合型コンセプトショップは、今後、この街にどんな副作用をもたらすだろうか。楽しみでしかたない。

グラフペーパー トウキョウ　〈Graphpaper〉のブランドショップを含む複合型コンセプトショップ。●東京都渋谷区代々木3−38−10 1F☎03・6381・6131、2F☎03・6381・6171。〈Vektor shop®〉11時30分〜19時、〈寄〉11時30分〜23時（22時30分LO）、〈Graphpaper TOKYO〉12時〜19時。水曜休。

２階〈Graphpaper TOKYO〉。内田繁の名作椅子（手前）《オクトーバー メッシュ》（594,000円）や、奥の棚《ホリゾンタルB》（698,500円）など什器はほぼすべてオーダー可能。









2 1
4 3

1 店舗脇のガレージはギャラリーとなり不定期で展示を開催。柿落(こけら)としは〈SOONER OR LATER〉のポスター展。**2** 1階〈Vektor shop®〉には〈twelvebooks〉との協業でセレクトした古書やレコード、オリジナルアイテムが揃う。**3** 2階にはコペンハーゲン発〈FRAMA〉のショップインショップも。アポセカリーシリーズや家具（オーダー可）が並ぶ。ハンドクリーム（4.620円）など。**4**「寄り合い」たくなるコの字カウンター〈寄〉。京都の蕎麦屋〈すば〉の蕎麦もメニューイン。

長野｜軽井沢

haluta

ホテルを通して伝える〝北欧スタイル〟の真髄。

北欧ヴィンテージ家具を扱う〈haluta〉がホテルを作る。
どうやらそれは、ただのデザインホテルではないらしい。
家具屋がホテルを作る理由、そこに込めた思いとは?

photo_Norio Kidera　text_Yuriko Kobayashi
editor_Kazumi Yamamoto

長野｜軽井沢

still

シュティル　2022年４月、長野県上田から軽井沢追分に本社機能を移転しオープンした〈haluta〉のフラッグシップ兼複合施設。夏頃に全客室とサウナが開業予定。●長野県北佐久郡軽井沢町追分1372－6☎0267・46・8225。営業時間は各店舗による。しなの鉄道中軽井沢駅から車で約10分。

右ページ／コペンハーゲンと軽井沢で二拠点生活を送る〈haluta〉ファウンダーの徳武睦裕さん。〈still〉内ショールームにて。ヴィンテージなので参考価格として、チェア70,000円（税別）～、ダイニングテーブル200,000円（税別）～。左ページ／円形ベンチは廃棄ウレタンフォームを束ねた〈トラフ〉の作品。

北欧ヴィンテージ家具を取り揃える名店として愛されてきた〈ハルタ〉。その〈ハルタ〉が軽井沢に機能を集約させ、新しい複合施設〈シュティル〉を昨年の4月にオープンさせた。旧ドライブインを改装した建物には家具のショールーム〈ハルタ カルイザワ〉をはじめ窯焼きピッツェリア〈スピサ〉などが入居。夏にはホテルとサウナの開業も控えている。

「〈ハルタ〉のホテルということで家具や内装に注目が集まりがちですが、一番感じてもらいたいのは〝目には見えない心地よさ〟なんです」とファウンダーの徳武睦裕さん。実は同社ではデンマークの家作りから学んだ断熱性と空調設計に優れた住宅設計事業も展開。〈シュティル〉館内にもその知恵と工夫が生かされているのだ。

「〝空気をデザイン〟した心地よく暮らせるサステナブル建築。その実力をホテルで体感してほしい」

朝食はデンマークではお馴染みの黒パンを使ったオープンサンド。中軽井沢の〈ハルタ ベーガリ〉で焼く黒パンは国産小麦を石臼で挽いて製粉し、天然サワー種で発酵させる完全オーガニックだ。

「本当に体にいい食を選ぶというのをスタンダードにしたい。北欧ではみんなが心の豊かさを求めた結果、持続可能なライフスタイルが根づいています。ホテルでの滞在を通して、未来の暮らし方について考える機会を得てもらえたら」

創業以来、北欧と日本を繋いできた〈ハルタ〉。新しいホテル事業を通じて問い直そうとする〝本当に豊かな暮らし方〟とはまさに、〝北欧スタイル〟の真髄だ。











2 1
4 3

1 ホテル１階にある〈spisa〉では薪窯で焼き上げるピッツァと有機牛乳をベースにしたジェラートが味わえる。**2** 気軽に立ち寄ってほしいという思いから〈spisa〉はスタンド形式。宿泊客以外も利用可能。**3**〈haluta〉は創業時から家具工房の一角でパン作りを行ってきた。現在は中軽井沢で〈haluta bageri〉を展開している。**4**〈haluta bageri〉ではファウンダーの徳武さん自ら買い付けする雑貨や食品の販売も。〈ARABIA〉のヴィンテージ食器など豊かな日常に欠かせないアイテムが揃う。



長野｜軽井沢

haluta bageri

ハルタ ベーガリ 国産の小麦と軽井沢の水を使って作るパンと北欧を中心とした雑貨を販売。毎日食べても飽きない滋味深さのある黒パンは〈haluta〉の精神を象徴する存在。しなの鉄道中軽井沢駅から徒歩４分。●長野県北佐久郡軽井沢町中軽井沢3018－3☎0267・31・0841。10時30分～18時。火曜・水曜休。

2000年より〈haluta〉の前身となる上田のカフェでパン製造を始め、09年に現在の場所にベーカリーを開業。21年６月にリニューアルしサワーブレッドを中心に販売する。

奈良｜奈良

中川政七商店（鹿猿狐ビルヂング）

なかがわまさしちしょうてん（しかさるきつねびるぢんぐ） 〈中川政七商店 奈良本店〉●奈良県奈良市元林院町22☎0742・25・2188。10時〜19時。無休。ほか〈茶論 奈良町店〉〈旧 遊 中川本店〉などが入る。営業時間は店舗により異なるため確認を。〈奈良御菓子製造所 ocasi〉もすぐそばに。

〈茶論 奈良町店〉の座敷に飾られた鹿の屏風は江戸時代の画家、内藤其淵の作。奈良らしさを漂わせる空間で、濃茶や薄茶と共に、奈良の名店〈樫舎〉の菓子を味わう贅沢。

奈良｜奈良

中川政七商店

日本の工芸を盛り上げる、創業の地の新拠点。

伝統に育まれた日本のものづくりを大切に、視線の先は常に未来にあり続ける〈中川政七商店〉。その拠点となるべく作られた魅力あるビルヂングへ。

photo_Yoshiko Watanabe　text_Mako Yamato
editor_Kazumi Yamamoto

猿沢池のほとりにあって、池越しに興福寺の五重塔を望む細い路地。奈良晒の卸問屋として享保元年（1716）に創業した〈中川政七商店〉は、300年にわたり手織りの麻織物を中心に、生活雑貨を展開してきた。そして2021年、300年先の未来を見据え、創業の地に作り上げたのが〈鹿猿狐ビルヂング〉だ。昔ながらの街並みが残る周囲との調和を大切に、極限まで細く仕上げた鉄骨と開放的な窓、吉野檜の深い庇が印象的な3階建て。すっと街に溶け込むビルの設計は内藤廣が手がけた。

メインは「日本の工芸を元気にする！」をビジョンに掲げる同社の旗艦店〈中川政七商店 奈良本店〉。日本各地800もの作り手と作り上げた、日本の工芸を生かした衣食住にまつわる商品が並ぶ。「工芸は完全分業制。その産地全体を元気にしないと続きません。奈良を盛り上げることで産地も元気になる。そんな拠点になれば」と広報の村田あゆみさん。そこに一刀彫や墨など、奈良を代表する伝統工芸品が加わり、この地ならではの商品を展開する。

中庭で繋がる築130年の町家には、原点である麻織物や衣服を揃えた〈旧 遊 中川本店〉と、「以茶論美（茶を以て美を論ず）」をコンセプトに茶道文化の美意識を伝える〈茶論〉。またビル名の由来となった〈猿田彦珈琲〉、東京・代々木上原〈sio〉による〈㐂つね〉という飲食店も。昨年10月にはすぐ近くに〈奈良御菓子製造所 ocasi〉も登場した。様々なアプローチから日本のものづくりに浸る新たな拠点である。









2　1
4　3

1 最新店となる〈奈良御菓子製造所 ocasi〉は〈sio〉鳥羽周作シェフとの共同プロジェクト。水菓子・和菓子・洋菓子が重なり合う奈良御菓子を提案する。●奈良県奈良市元林院町5。11時〜18時（土・日10時〜）。不定休。**2** ocasiプレート935円。みかさどら焼きとシルクチーズケーキ、大和橘などの果物で作るペアリングのための３種ジャムの組み合わせ。**3** 奈良一刀彫の花鹿など〈中川政七商店 奈良本店〉に並ぶ奈良の伝統工芸品。**4** 手績み手織りの麻の生地の販売も行う〈旧 遊 中川本店〉。

MAKERS' NEW STEP

暮らしを支えるメーカーの、新たな発信基地に注目です！

暮らしに欠かせない製品を作り続けるメーカーの、
新しい提案を行うオフィシャルショップが次々にオープンしています。
仕掛け人たちが選ぶ6アイテムとともにその試みを紹介します。

photo_Kohei Omachi (p.78-83), Masanori Kaneshita (p.84-85)
illustration_Yoshifumi Takeda　editor_Yoshinao Yamada

東京｜千駄ヶ谷

THINK OF THINGS

コクヨの定番品が特別仕様で並びます。

カフェ併設の店内には既製品をリデザインしたアイテムやセレクトした商品が並ぶ。学校に並んでいた懐かしの図工用椅子も実はコクヨ製。色や形状を変えて、壁に積まれる。

ディレクター



佐々木 拓

1985年生まれ。多摩美術大学卒業後、コクヨ入社。商品の企画・デザイン、コーポレートブランディング、空間サイン計画など立体と平面を横断する仕事に取り組む。

3 2 1
6 5 4

1 物流や建築資材の樹脂発泡シート製の壁掛けシェルフ《ポスト》A2 16,390円、A1 18,590円。**2** 耐水性の高い特殊な段ボール製のため「プランターカバーにも最適」だというアーカイブボックス《カートン2.0》2,900円。**3** 図工室で使われる椅子をリデザイン。16,060円〜。**4** 日常的なメモを、ホワイトボード加工を施した発色のよい上質紙で楽しめる。《パピエボード》A4 1,200円、A3・B2各1,800円。**5** スタジオのサンプルも販売。**6** 定番の領収書からグラフィックを省略したメモ帳《EX-領収書》S 220円、M 275円。













子どもの頃から大人になった今に至るまで、誰もが触れたことのあるであろう〈コクヨ〉の文房具や事務用品。そんな記憶があるからこそ、同社が運営する〈シンク オブ シングス〉に並ぶオリジナル商品には驚きと発見がある。

たとえば定番事務用品をリデザインした「EX-」シリーズは、それら製品に印字される情報などを漂白することでシンプルなノートに。学校の図工室に並んでいた懐かしの椅子も、色の塗装や特徴を活かしたままにスツールやデスクへと形を変えたモデルに幅を広げる。どれも、よく知っているのにどこか違うというズレで使い方の想像力をかき立ててくれる。

運営やデザインに携わるアートディレクターの佐々木拓さんは「お客様と触れ合い、ものづくりに挑戦する店です。セレクトしたアイテムを含め、新たな解釈を含めた自社製品の数々で新しい生活様式を提示したい」と話す。

昨年末のリニューアルで、製品のユニークさをよりフォーカスする構成に変えた。信頼の品質はそのままに、遊び心ある〈コクヨ〉の新たな挑戦がいま楽しい。

シンク オブ シングス 文房具やオフィス家具で知られる〈コクヨ〉のインハウス・デザインコレクティヴ〈ヨハク デザイン スタジオ〉がプロデュースするショップカフェ。オリジナルプロダクトやセレクトした商品を展開。●東京都渋谷区千駄ヶ谷3−62−1 1F☎03・6447・1113。11時〜19時。水曜休。

宮城｜石巻

ISHINOMAKI HOME BASE

12年目を迎えた工房が家具の使い心地を発信。

「まずは作り、そこから考えることができる」と話すのは、〈石巻工房〉の設立者である建築家の芦沢啓治さん。自身もさまざまな家具メーカーと協業するが〈石巻工房〉は通常の家具ブランドと違って、製作工程がシンプル。だからこそプロトタイプに取り組みやすく、多様なアイデアに挑んできた。その使い心地を知ってもらおうと、念願のショールームを開いた。

東日本大震災をきっかけに立ち上がった〈石巻工房〉も設立12年目。いまやその家具はさまざまな施設で使われ、これまで以上にその魅力を伝えたいとの思いから「みなが集える場所を通じて、家具を体感してもらいたい」と考えるようになったと芦沢さんは言う。ショールームはもちろんだが、宿泊機能を備えるので一晩かけて家具を楽しむこともできる。

今秋にはデザイナーたちとのワークショップから生まれた小物類がラインナップに追加予定。まだまだ進化するブランドの魅力を、石巻の地でしっかり体感したい。

代表

芦沢啓治

1973年東京都生まれ。横浜国立大学建築学科卒業後、設計事務所や金物家具製作工房を経て、2005年独立。2011年に設立した石巻工房を2014年に法人化している。













1 自身の手で組み立てる4種の動物形オブジェ《アニマルキットシリーズ》。各5,060円。**2** 中央のスリットを使い読後の本を紐で縛ることもできる《イセ マガジンラック》19,800円。**3** 秋発売予定の寺田尚樹による靴べら。シンプルで大胆なアイデアに驚かされると芦沢さん。**4** トラフ建築設計事務所による《AAスツール》2脚1セット37,400円。**5** ノームアーキテクツによる《105°ラウンジチェア》212,300円。**6** 秋発売予定の藤城成貴によるサイドテーブル。



イシノマキホームベース　家具雑貨を展示するショールームに加え、宿泊施設、カフェスペースを併設。建築は芦沢啓治建築設計事務所、客室のデザインはトラフ建築設計事務所、寺田尚樹、ドリルデザイン、藤森泰司。●宮城県石巻市渡波栄田91☎0225・25・5082。11時〜17時（土・日10時〜）。火曜休。

ほぼすべてのラインナップを試すことのできるショールーム。サイズカスタムに対応する製品もあるので、実際に試して相談も可。2階は宿泊用客室。そこでも家具を楽しめる。

東京｜富ヶ谷

LOST AND FOUND

洋食器のニッコーが揃えた道具1,200点！

小林和人が選定した、生活を楽しむための雑貨、日用品1,200点超が並ぶ。店内奥は、窯業から始まったメーカーらしく窯をイメージした空間にオリジナルの陶磁器を並べる。

セレクター



小林和人

1975年東京都生まれ。1999年多摩美術大学卒業。タイムレスな道具を扱う〈ラウンダバウト〉〈アウトバウンド〉のオーナー。その優れた見識で、幅広く活躍する。

3 2 1
6 5 4

1 平林奈緒美のグラフィックを施した《リマスタード》から使い勝手のいい一枚として小林さんが選ぶのはオーバルプレート 26 3,850円。**2**〈小泉硝子製作所〉の試薬瓶はサイズも幅広い。**3** 普遍的な佇まいがいいというエンツォ・マーリのデザインによるワインラック18,920円。**4** 平たい形状でハンドルも寝かせられて使い勝手抜群な〈ベルモント〉ケトル1.6ℓ 8,030円、2.8ℓ 8,360円。**5** ドリッピング模様が滑り止めとなる〈セキサカ〉のトレイ《プレイス》B5 2,640円、A4 3,190円、B4 3,960円。**6** ブラシは幅広く揃える。













ショップのアートディレクションに平林奈緒美、店頭に並ぶアイテムの選定に小林和人を起用した代々木公園ほど近くのジェネラルストアが〈ロストアンドファウンド〉だ。

１９０８年創業の老舗洋食器メーカー〈ニッコー〉が仕掛けるこの店は、同社が次なる１００年を見据えるもの。忘れ物保管所の名を冠する店には、キッチン・テーブルアイテム、陶磁器、日用品、園芸品、バス用品などが揃う。

「日用品のみで構成する店だからこそ、商品そのものが店のメッセージとなるように選びました。確かな技術や品質を持ちながら見落とされがちな製品に光を当てることが狙いです」と、小林さん。

オープンから2年を経て、いまや店には１２００超のアイテムが並ぶ。小林さんの視点で選んだ質実剛健な道具は、かゆいところに手が届くデザイン性と機能性を備えたものばかり。用途ごとに姿かたちが違うブラシが無数にあるかと思えば、エンツォ・マーリがデザインしたワインラックの姿も。オンラインでは難しい偶然の発見を楽しめる道具店は、ますますその質を高めている。

ロストアンドファウンド プロユースの洋食器で知られる〈ニッコー〉が、これからの100年を見据えて同社の製品とともに、暮らしにまつわる道具を幅広くセレクトしたジェネラルストア。食にまつわるイベントなども開催する。●東京都渋谷区富ヶ谷1－15－12 ☎03・5454・8925。11時～19時。火曜休。

岐阜｜高山

HIDA 高山店 森と暮らしの編集室

創業103年目に開いた〝森〟のセレクトショップ。

日本でいち早く、家具の産業化に取り組んだ《飛騨産業》。緑豊かな山に囲まれた飛騨は、奈良時代から木工技術で知られた。そこに端を発する技術で数多くのクリエイターとものづくりを行ってきたが、創業100年を機に、アートやクラフトを身近に感じる暮らしを提案するショップを開いた。

ショップには自社の家具に加え、工芸作家のクラフトやアーティストの作品が並ぶ。ここで注目したのは仕事を支える森の恵みだ。

「私たちは森があったからこそ家具を作り始めたのです」と話すのは、デザイン室長の中川輝彦さん。その材を無駄にしたくないと、端材で小物を作り、枝葉でアロマオイルの抽出を行い、木のあらゆる可能性を産業化してきた。その恵みの豊かさを伝えようと、地元のクラフト作家の作品も販売する。

面白いことに、作家には会社の卒業生も少なくない。森を愛する人々のものづくりで、木という素材の魅力を再発見する。そんなショップが飛騨の山間に生まれた。



飛騨産業デザイン室長

中川輝彦

なかがわてるひこ 1965年岐阜県高山市生まれ。2005年イタリア・ミラノで開催された『エンツォ・マーリが取り組む100万の1万倍もの日本の杉の木』展に携わる。













4	1
5	2
6	3

1 デザイナーの貝山伊文紀が自らの手で削り出した《枝の匙》2,530円〜。**2** 彫刻家の三沢厚彦とコラボレーションした家具シリーズ《森羅》。ラウンジチェア484,000円、ラウンジテーブル205,700円。**3** 松尾吉一による、木鳥のアロマオイルスタンド各5,500円。**4** 染色家の柚木沙弥郎によるオリジナル図案を使ったクッション。16,500円。**5** 高山で活動する吹きガラス作家、安土草多の作品。3,080円〜。**6** 原研哉が発表した家具シリーズ《SUWARI》。チェア66,000円など。



ヒダ たかやまてん もりとくらしのへんしゅうしつ　2022年10月オープン。自社の家具展示を中心に、飛騨にゆかりある作家の作品を扱うクラフトマーケット、隈研吾内装のカフェなどで構成。柚木沙弥郎の原画なども展示。●岐阜県高山市名田町1－82－1☎0577・36・1110。10時～18時。水曜・第３木曜休。

隈研吾が設計したカフェを併設。椅子は右から《クマヒダ》ラウンジチェア387,200円、アームチェア363,000円、《シカ》アームチェア110,000円はいずれも隈のデザイン。

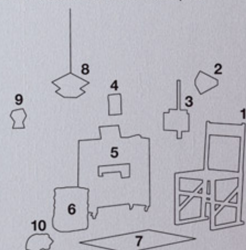
MY FAVORITES

人気スタイリスト3人の偏愛♡ショップ。

デザインの潮流や新しい店の情報に敏感なスタイリストたち。
彼らは最近、どんな店やモノに注目しているのだろう?
3人のプロがマイブームで選んだ、気になるアイテムを極私的にチョイス。

text_Masae Wako

1〜3は〈lagom〉オリジナル。デザインは店主の須長檀(すながだん)。製作は安曇野の木工作家、小原実。**1** ダイニングチェア《guess I'll hang my tears out to dry》77,000円、**2**《ウォールクロック Yジャンクション》15,400円、**3**《ウォールシェルフ 小ボックス》4,400円(以上lagom)。**4** 伊藤眸(ひとみ)の《Pebbles》8,800円。**5** オリジナルの《ブックカート》。55,000円、本1,100円〜。**6** クルミの樹皮を編んだバスケットは渡部萌の作。38,500円。**7**〈山の形〉の麻製玄関マット・M12,375円(以上Zelt Bookstore)。**8** シェードはFDM3Dプリンタで成形。〈新工芸舎〉のtideシリーズより《ソロバン ペンダント》165,000円。**9**《MBCベース》13,200円。**10** テープディスペンサー《丸みのある大きな砂岩のテープカッター》77,000円(以上New Craft Shop)。



THEME

工芸とデザインを繋ぐプロダクト。

STYLIST

中田由美

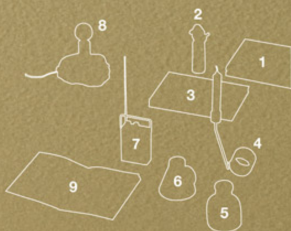
なかたゆみ インテリアスタイリスト。建築や舞台照明を学んだ後、神林千夏に師事。2013年独立。雑誌や広告のほか、家具ブランドの企画展やディスプレイも。

　ものの姿形だけでなく、背景や成り立ちについても深く知ったうえでスタイリングしたい。なので、作り手やデザイナーが運営する店やセレクトに興味があるんです。最近の注目はデザインと工芸を繋ぐプロダクト。例えば京都の〈New Craft Shop〉では、3Dプリンタなどのデジタル技術で、大量生産的な素材を工芸品に昇華させています。東京〈Zelt Bookstore〉の店主は、都市における自然との暮らしを実践。その日常が反映された本のセレクトやプロダクトが魅力です。信州にある〈lagom〉のオーナーは、北欧でも活躍したデザイナー。地元作家や福祉施設などローカルな関わりを大切にしつつ、モダンで機能的なものを作る。その感覚が新鮮で、私自身のもの選びの視点も更新される気がします。

photo_Masaki Ogawa　styling_Yumi Nakata



1〈山の形〉の桐トレイ・S浅、各1,760円。**2** 山形県の伝統工芸「お鷹ぽっぽ」を、絵付けを施さずデザイン。〈山の形〉1,815円。**3** エド・アトキンスの作品集『Drawings of Children』6,820円（以上Zelt Bookstore）。**4,5** は〈lagom〉店主がデザインし、作家が製作したオリジナル。**4** 安曇野の金工作家、金澤知之の銅製キャンドルホルダー7,700円。**5** 吹きガラス作家、東敬恭のグラス。《エルトップ ミルク》7,700円。**6** スウェーデンの陶芸家、ピア・トルネルのキャンドルホルダー9,900円（以上lagom）。**7**〈新工芸舎〉のポータブルラジオ。編みのテクスチャーをスピーカグリルのデザインに採用。33,000円。**8**《段差のある角岩のテーブルランプ》66,000円（以上New Craft Shop）。**9** 伊藤眸の作品集『DOSOJIN』3,300円（Zelt Bookstore）。



長野｜御代田

lagom

ラーゴム　2023年オープン。信州の作家と協業した家具や北欧の工芸品、ヴィンテージを扱う。８月に福祉×医療×デザインのプロジェクト「konst」のギャラリーも。●長野県北佐久郡御代田町馬瀬口1794−1 MMoP内☎090･4642･3930。10時〜17時。水曜休。https://lagom-miyota.com

東京｜足立

Zelt Bookstore

ツェルト ブックストア　2023年オープン。店主は山形発のプロダクトレーベル〈山の形〉も手がける柴山修平と、イラストレーターの伊藤眸。現代を楽しく生きのびるツールとしての書籍と道具を扱う。●東京都足立区本木1−19−4☎03･6555･3925。12時〜19時。不定休。https://ze-lt.com

京都｜亀岡

New Craft Shop

ニュークラフトショップ　2023年６月末に本格オープン。デジタル技術を応用した〝新工芸品〟を提案する〈新工芸舎〉が運営。オリジナルプロダクトのほか国内外の作家による日用品も並ぶ。●京都府亀岡市大井町並河1−14−9☎090･8941･5354。12時〜18時。不定休。@new_craft_house

THEME

用途不定の幾何学デザイン。

STYLIST

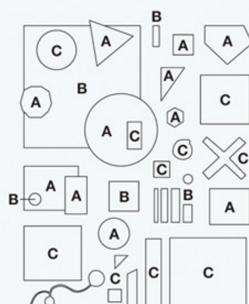
竹内優介

たけうちゆうすけ　建築を学んでいた大学在学中より黒田美津子に師事。2023年に独立。デザイン誌や企業広告、展示会場のインテリアスタイリングを手がける。

　最近おもしろく感じるのは、用途や価値が定まっていないものの中に自分なりの美しさを見出すこと。特に幾何学的なモチーフに惹かれることが多く、部屋にポツンと飾ったり、球体や三角錐などフォルム違いで並べたりするのが楽しいんです。オブジェとして作られた立体も素敵ですが、僕が気になるのは古道具店にある木片や玩具などの幾何学体。京都の〈bild〉では教材模型、愛知の〈plusko〉ではさまざまな砥石、西荻窪の〈poubelle〉では工場で使われていた機械の治具を発見。日常に潜むカタチの多様性に、改めて驚いています。今回はさまざまな色と質感を組み合わせましたが、白やグレーなど単色で飾るのも一興。フォルムだけがくっきりと際立ち、本当に美しい形を見極める目も養われます。



A：bild／三角錐の白い体積模型は高さ21㎝18,000円、緑やオレンジの数理模型4,000円。水色の木箱は8,000円。**B**：plusko／パンチングボード8,250円、赤青黄白緑のプラスチックキューブは60個13,200円。その右は砥石330円〜。**C**：poubelle／右下の青い木型は工場で使われていた治具（W23.5×D22.5㎝）25,000円、隣はリレーのバトン7,000円、緑の球がついたアメリカンクラッカー5,000円。左上の球体陶器55,000円。



C

東京｜西荻窪

poubelle

プベル　店名はゴミ箱を意味するフランス語。もともと建築家を志していたという目利き店主の収集品や、独自に学んだ修復技術で修繕した古物などが並んでいる。店内には写真などのアートも。●東京都杉並区西荻北3−42−5☎090・1540・7133。11時 〜19時30分。 火曜休。 @poubelle0702

B

愛知｜大府

plusko

プラスコ　国内外の古道具を扱うショップ。木製のカラーコインセットや目薬用のペーパーボックス、石を研磨しただけの球体に、触感も質感もさまざまな砥石など、ほかにはないユニークなものが見つかる。●愛知県大府市明成町3−3 04☎090・5102・7583。12時〜18時。アポイント制。 @plusko__

A

京都｜京都

bild

ビルド　日本の古道具を中心に扱う。多様な「形・質感・色」を持つものがインスタレーション的に展示されていて、飾り方の参考になる。パステルカラーなど色のきれいなものも多い。●京都府京都市左京区鹿ヶ谷西寺ノ前町112−102。13時〜19時。土曜・日曜の不定期営業。 @bild_kyoto





アンティークの食器やパッケージがかわいい食料品を、センスのいい空間ごと楽しめる。そんな店が気になります。〈調理室池田〉は、19〜20世紀フランスの白いリム皿や小さめワイングラスなど、ちゃんと日常使いしやすいものが提案されている点が素敵。コンクリート壁の雰囲気ある建物でクラシカルな焼き菓子をイートインできるのもうれしいし、中央卸売市場内という立地もワクワクします（市場の魚で手作りするツナのメルトサンドも最高）。もう１軒は、クマタイチさんが内装やモノ選びを手がける〈SHOPPE〉。築62年の民家を改装した空間は、海外の食料雑貨店のよう。各地の調味料からユニークなソーセージクッションまで、一杯飲みに立ち寄りつつ、お土産に買いたくなるものばかりです。

THEME

デザインのいい食と空間。

STYLIST

飯田珠緒

いいだたまお　モード誌などで活躍するファッションスタイリスト。装いの背景に、好きな音楽や映画やインテリアなど人柄や世界観が感じられるスタイリングで人気。

photo_Taro Mizutani styling_Tamao Iida



神奈川｜たまプラーザ

調理室池田(右ページ)

ちょうりしついけだ　1階は朝食やできたての焼き菓子が人気のカフェ。2階にフランスを中心としたアンティークの器が並ぶ。●神奈川県川崎市宮前区水沢1−1−1 川崎市中央卸売市場 北部市場関連棟45。7時〜13時LO（土〜14時LO）。一般客の市場入場は8時から。水曜・日曜・祝日休。

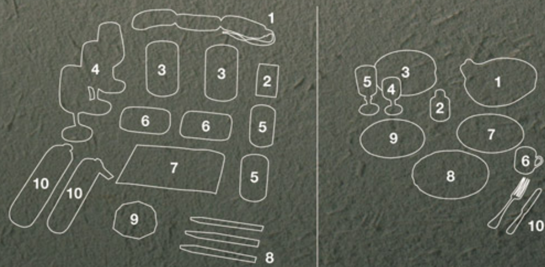
東京｜奥神楽坂

SHOPPE

ショップ　建築家クマタイチによるシェアプロジェクトの一環として2023年5月開店。ワインやソーセージを味わえるほか、産地の文化を伝える食材も買える。●東京都新宿区山吹町345−6 SHAREyamabukicho 1F。15時〜22時（土・日・祝12時〜19時）。火曜・水曜休。◎ @shoppe_tokyo

左ページ〈SHOPPE〉／**1** 食料品をモチーフにした手製の雑貨は、NY在住のアーティスト・松尾由貴のブランド〈YUKI & DAUGHTERS〉。《White Sausage》各40cm 5,390円。**2** 岡山〈吹屋〉の青柚子胡椒《青だるま》。756円。**3** フランス産スープ・ド・ポワソン（右）とビスク・ド・オマール各1,296円。**4** “PPE”のロゴ入りワイングラスH15cm 各2,000円。**5** 北海道根室産クッキー《VOSTOK》。上550円、下650円。**6** フランス産オイルサーディン ピメント風味（右）とサバフィレ・白ワインと香味野菜のマリネ缶。各1,296円。**7** 奄美大島産の黒砂糖432円。**8** ロゴ入り筆ペン各200円。**9** ポルトガル産のサバスパイシーパテ810円。**10**〈YUKI & DAUGHTERS〉の《Hard Salami》（右・5,170円）と《Smoked Salami》（左・5,390円）。

右ページ〈調理室池田〉／**1** 長年使い込まれていい風合いに育ったレシェフリット（フランスのオーブンウェア）。肉やポテトの盛り皿によさそう。W33cm 35,200円。**2** イタリア産エクストラバージンオリーブオイル1,458円。**3** 白シャツのように使い勝手がいい直径21〜22cmのフランス製リム皿。ジアンなど19〜20世紀の窯で焼かれたもの。各6,050円。**4** 19世紀フランスのワイングラス。H11cm 8,800円、**5** H16cm 7,150円。**6** グリザイユカップ。グリザイユとは単色の古典絵画のこと。19,800円。**7** こちらもグリザイユと呼ばれる絵皿。12枚組で物語が描かれるものが多く、そのうちの1枚。φ22cm 11,000円。**8** スコーンサンドをのせたムスティエ花リム皿φ23cm 29,700円。**9** ジアンプレートφ20.5cm 17,600円。**10** 銀製カトラリー各7,700円。



CITY REVITALIZATION

変わる街のキーパーソン。

都市機能の新陳代謝を掲げ、再開発が続く東京の中でも、
“大型施設ありき”の他エリアとは一線を画した街があります。
下北沢と日本橋兜町。そのユニークな街づくりについて聞きました。

photo_MEGUMI　text_Asuka Ochi
illustration_Kenji Oguro　editor_Ai Sakamoto

KEY PERSON

大堀 伸
建築家

おおほりしん　1967年岐阜県生まれ。建築事務所〈GENERAL DESIGN〉主宰。設計を手がけた近作に、宮崎県青島のリゾート施設〈NOT A HOTEL AOSHIMA〉など。

【下北沢】

SHIMOKITAZAWA

街と建築の境界を曖昧にし、誰もが一体になれる場所に。

小田急線の地下化で生まれた街並みに多様な施設が点在し、
土地の文化を引き継ぎつつ“今”という新鮮さを得た下北沢。
そこには街の文脈を生かす開発を叶えるプロセスがありました。



世田谷代田から東北沢までの再開発で、大堀さんは約100m続く、左の〈reload〉と奥の〈マスタードホテル下北沢〉を設計。〈SOLSO〉による植栽も竣工時より随分と成長した。







古着屋や小劇場が密集し、色濃いカルチャーの街として知られる下北沢。その開発の始まりは、小田急線が地下化工事を開始した2004年まで遡る。東北沢駅から下北沢駅、世田谷代田駅まで全長約1・7kmに及ぶ線路跡地を、小田急電鉄が主体となり〈下北線路街〉として整備。22年5月のグランドオープンまでに、〈BONUS TRACK〉〈シモキタエキウエ〉〈reload〉をはじめとする13施設が順次開業し、緑に溢れた街路に沿って、ショップや飲食店のほか、保育園、公園、ホテル、温泉旅館など、色とりどりのスポットが揃った。

また22年には、小田急線と交わる京王井の頭線の高架下に〈ミカン下北〉がオープン。雑多で入り組んだ駅前の風景は一転し、若者から外国人観光客まで多くの人で、今までにない賑わいを見せている。

この計画の中で、21年に開業した〈reload〉と〈マスタードホテル下北沢〉の設計を担当したのが、建築家の大堀伸さんだ。

「下北沢の路地が織り成す街の端々に、店主の顔の見える個人店があり、濃密で多彩なカルチャーが育まれている。事業主の小田急電鉄、運営プロデュースを担当する〈GREENING〉と下北沢にふさわしい商業施設とは何かという議論を重ね、そうした街のカルチャーを継承し、発信していく場所となることを目標にしました。街の文脈を読み解き、何らかの形で計画に反映することも考えていました」

下北沢らしい〝個店街〟を目指し、まずは40㎡ほどの小さなボリュームに分割したキューブを基本の1店舗として、左右の住宅街になじむように配置していく。建物の高さはインパクトを抑えるため低層に抑え、ところどころの隙間から昔ながらの街が顔を覗かせる、複雑な空間を組み上げていった。

「周りの風景を見ながらキューブをずらしたり、重ね合わせたりすることで、間間（あいだあいだ）に用途の定まらない中庭や、路地のような場所ができる。そうしてできた、店舗や共用部分といった境界線を超えた曖昧な部分が、下北沢の街の延長になる。そこでは街に遊びに来た人も地元の人も一体になれる。〈reload〉の空間はひとつの建物として閉じていないので、隙間からベランダの物干しが見えたりしますが、それもネガティブには捉えていません。完全に街と縁を切って独自の世界観を作ることもできましたが、それは最初のコンセプトからしても違うんだろうなと」

建物が完成し、街の特色を引き継ぐような個性的な店が入居し始めると、ふらりと訪れて中庭のベンチでくつろぐ人、緑道で犬の散歩をする人、買い物に来る人と、様々な目的の人が行き交うことができて地域にも喜ばれる、公共的でユニバーサルな空間になった。

「2階建てのホテルも、そこに住んでいるかのように、すぐに外とつながることができる。建物のデザイン自体はシンプルですが、抽象的でミニマルな表現を避けたくて、壁面はザラザラとしたラフなテクスチャーの左官仕上げにしています。この白い壁が次第に古び、植物が成長してなじんでいって、時とともに街に溶け込む場所になって欲しいと思います」







1 本屋や飲食店が広場を囲んで建つ〈BONUS TRACK〉。**2**〈マスタードホテル下北沢〉の入口。誰でも使えるベンチも備えられている。**3** 区立の広場も完成。**4** 京王井の頭線高架下の〈ミカン下北〉。**5** 世田谷代田駅近くに突如現れる温泉旅館〈由縁別邸 代田〉。



遊歩道を散策しながら気になる店をホッピング。

Però下北沢

出会いが広がるワインストア。

気軽に〝飲めて、買える〞ナチュラルワインの角打ち。三軒茶屋の本店同様、造り手の顔が見えるイタリアの生産者のワインを揃えている。4〜6人も立てば満員になるスタンドでは、セラーにある約300種類のうち、常時10本ほどをグラスでオーダーできて、ワイン片手に店主や居合わせたお客さんとの会話も広がる。帰りには気に入ったボトルをお土産に。知識や固定観念に囚われず、訪れる人やワインとの出会いをカジュアルに楽しめる場所だ。

ペロウ しもきたざわ メニューにはつまみも。●東京都世田谷区北沢3−19−20 reload 1−13☎03・6407・8125。15時〜22時（土13時〜、日13時〜19時）。木曜休。



3



1



2

1 こぢんまりとした店内。右にセラーがある。**2** ボトルは抜栓料440円。グラス800円〜。**3** 左から「Carussin Asinoi Barbera d'Asti」3,300円、「Podere Pian di Meta Vecchia Toscana Bianco Trebbiano」4,070円、「Vodopivec Origine」8,250円。



1



2

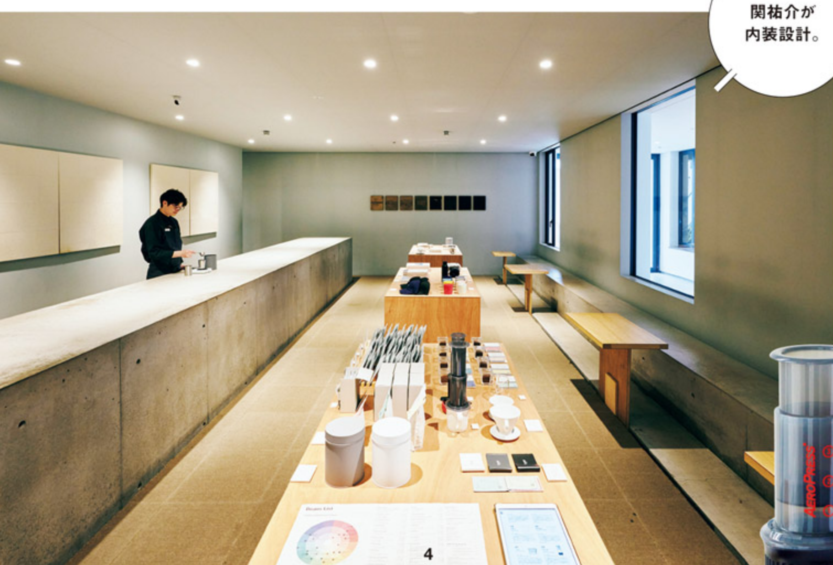
セカイクラス reload

上質な暮らしに寄り添う、世界の生活雑貨。

神奈川の倉庫型店舗を拠点に〝世界を旅するように 世界中と繋がり 豊かな世界で暮らす〞をコンセプトに、家具や暮らしのプロダクトを紹介。膨大な商品の中から下北沢店では、再開発で生まれた遊歩道を日々歩いている人々の生活をイメージした商品を厳選している。海外の台所用品やラグ、希少なヴィンテージに加え、作家モノの器やカトラリー、陶器のシェードなど、日本の文化や手仕事を発信する商品も幅広く集め、外国人観光客にも好評だ。

セカイクラス リロード **1** 内観。**2** 収納棚としても便利な独製のギャレーボックス56,000円。●東京都世田谷区北沢3−19−20 reload 1−12☎03・6407・0707。11時〜19時。無休。

関祐介が内装設計。



4



5



3



2



1

OGAWA COFFEE LABORATORY 下北沢

コーヒーのメソッドを学べる体験型サロン。

創業70年を超える京都の〈小川珈琲〉のフラグシップショップで、体験型のビーンズサロン。焼く、挽く、淹れるというおいしいコーヒーのためのノウハウを、バリスタが直々に伝授してくれる実験室のようなショップだ。豆を選び、グラインダーやケトル、ドリッパーなど約40種類から組み合わせた好みの器具で、コツを教えてもらいながらコーヒーを落とすひとときは、貴重な学びの時間。自分が選んだ道具でバリスタに淹れてもらう1杯も贅沢だ。

1 販売もしているオリジナルキャニスター。購入した豆を最終利用日から1年間キープできるサービスも。**2**《ハウスブレンド京都》700円。**3** 1組につき1名のバリスタがつく。**4** コーヒーにまつわるグッズの販売も。**5** コンパクトに持ち運べるエアロプレスGO8,580円。

オガワコーヒーラボラトリー しもきたざわ 器具使用料300円、バリスタ抽出料400円。●東京都世田谷区北沢3−19−20 reload 1−1☎03・6407・0194。9時〜19時30分LO。無休。






プロダクトは
12アイテム。




APFR TOKYO

ブランドの香りと世界観に浸れる直営店。

藁や籾殻を混ぜ込んだ壁、土壁を彫り込んだ陳列棚など、アジアや中東のイメージをちりばめた空間は、情緒たっぷり。心地よい香りに満たされている。ここは日本発のフレグランスブランド〈アポテーケフレグランス〉の世界観を体現する初の直営店。これまでセレクトショップなどでしか手に取れなかったブランドのすべての商品と香りが試せる唯一の空間だ。日々の暮らしに繊細な彩りを添えるユニセックスな香りを探しに、訪れる人が絶えない。

エーピーエフアール トーキョー　お香やキャンドルなどを約40種類の香りから選べる。●東京都世田谷区北沢3―19―20 reload 1―5☎03・5738・8641。11時～20時。不定休。



1 テイスティングは、ガラス作家・小澄正雄のテスターグラスで。2 店内。3 リードディフューザー8,800円。4 ラックやドアノブに掛けるクローゼットタグ1,760円。

発酵デパートメント

各地を訪れて集めた、発酵食品が一堂に。

オーナーで発酵デザイナーの小倉ヒラクさんが、日本各地の発酵の現場を訪ねて吟味した、これぞという醤油や酒、納豆、味噌などの発酵食品が500点以上。大手スーパーなどでは手に入らない小規模な作り手による調味料、聞きなじみのないローカルな食材、手作りの納豆キットなどのマニアックな商品も。併設のレストランで提供する食事や飲み物、店内の本棚もすべて発酵をテーマにしていて、興味のある人にとって聖地のような場になっている。

はっこうデパートメント　発酵にまつわるイベントなども随時開催している。●東京都世田谷区代田2―36―15 BONUS TRACK 1F。11時～20時（飲食16時LO）。不定休。





本屋 B&B

本との偶然の出会いを叶える新刊書店。

1 スタッフセレクトの本が並ぶ。2 新刊を持ち運ぶのにぴったりのオリジナルトート1,430円。3〈B&B〉発行、よしもとばなな著『下北沢について』。



〝ブック＆ビール〟に由来する店名通り、ビールを片手に読書を楽しみながら本と出会える、街の新刊書店。大型書店やネット書店のようにあらゆる本の中から目的の１冊を見つけるのでなく、オススメを揃えたユニークな並びの書棚から、偶然に思いがけない本を手にできる奇跡に溢れている。店内では本にまつわる雑貨なども扱うほか、ほぼ毎日夜に、著者や編集者を招いたトークイベントも開催。本との接点を作り、本を開く機会を増やしてくれる。

ほんや ビーアンドビー　●東京都世田谷区代田2―36―15 BONUS TRACK 2F☎03・6450・8272。12時～21時（土・日・祝11時～）※日により変動。HPで要確認。無休。





オリジナルの
ワインをどうぞ。




1 外観。2 発酵商品が並ぶ。3〈八百屋 半吾兵衛〉のザワークラウト600円。4 店長の福島三千代さん。5 左から〈チーズスタンド〉のさけるモッツァレラ1,160円～、〈仁井田本家〉の純米原酒2,200円、〈ろくろ舎〉の酒器5,500円。



【日本橋兜町】

NIHONBASHIKABUTOCHO



小さな店同士の化学反応で
街全体が大きく変わる。

日本初の銀行が誕生した地として知られる日本橋兜町に、数年前からイノベーティブな店が続々とオープンしている。金融街が訪れたい街へと変化した、その背景を聞きました。

大山さんが手がけた中で最大規模の店舗となる〈BANK〉にて。手前がベーカリー〈bank〉、奥がビストロ〈yen〉。銀行だったころの面影を残した空間には金庫跡もある。







明治初期に銀行が発祥し、金融の街として栄えた日本橋兜町。今も東京証券取引所は残るが、1999年に株券売買立会場が閉鎖されてからは訪れる人が減り、徐々に活気を失っていった。再び街が動き始めたのは、2020年のこと。歴史的な建造物をリノベーションし、ホテルに飲食店やバーを併設したマイクロ複合施設〈K5〉を中心にして、周辺に古い建物を生かした5つの飲食店がオープンすると、少しずつ兜町の空気が変わりだす。21年に〈KABUTO ONE〉、さらに22年末には〈BANK〉〈Keshiki〉と、新たな複合施設が誕生し、兜町は瞬く間にわざわざ足を運びたい街へと変貌する。この開発を支えたキーパーソンの一人が、パティシエの大山恵介さん。兜町に自身のパティスリー〈ease〉とチョコレートとアイスクリームのショップ〈teal〉を構え、〈BANK〉のプロデュースにも携わる。

「最初に街を訪れた時はすれ違う人も少なくて、この場所で開店するのは絶対に無理だと思いました。ただ、もともと個人的にルーツのあった日本橋に出店したかったのと、ポートランドなどでの店を主体にした街づくりの実例を聞いて、やってみようかなと思ったんです」

いわゆる大型商業施設による開発ではなく、個性あふれる小規模店舗によって、街の面白さを育てる。再開発は、地元の平和不動産による「日本橋兜町・茅場町再活性化プロジェクト」の一環として、ブランディングや編集を手がける〈メディアサーフ〉が、ユニークな店や人を誘致するかたちで進められた。その一人として招かれたのが大山さんだった。

「当時は街を変えたいという意識からではなくて、〈ease〉の近くの物件がたまたま空いていたので、フランス修業時代の同僚を誘ってビストロの〈Neki〉と同時オープンすることにしたんです。コロナ禍でのスタートは厳しかったですが、周囲に他の店もできるにつれて、訪れる人の雰囲気が変わっていくのを感じましたね。〈BANK〉は前々からパン屋をやりたくて借りた物件で、それだけでは広すぎたので、ビストロやカフェ、インテリアショップ、花屋など、〈ease〉というブランドに共感してくれる人に価値を感じてもらえるようなものを集めました。自分が目指す世界観を伝えてきた結果が、今につながっていると思います」

魅力的な店に引き寄せられるようにしてまた新しく店ができ、互いが共振するように街が出来上がっていく。そうしてマイクロなコンテンツが響き合っているのが兜町なのだ。今後も地域の活性化に向けて様々な計画が進んでいるというが、大山さんが思い描いているのはどのような街なのだろうか。

「兜町はひとつの街の中で2〜3店舗を回遊して楽しむような場所。だから、新しい店ができればできるほど、それぞれの店のファンも増えていくんですよね。とりあえず渋谷に行くか、というように誰でもふらっと訪れる街と違って、ここに何をしに行くというのがより明確なのだと思います。これからも兜町ならではの世界観を味わいたいという、目的のある人を呼ぶ街にできればいいですね」

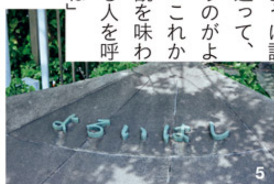




KEY PERSON

大山恵介
パティシエ

おおやまけいすけ 1986年埼玉県生まれ。国内外のパティスリーやレストランを経て、2020年に自身の店〈ease〉を開店。21年〈teal〉、22年〈BANK〉をプロデュース。





1 兜町のシンボル、東京証券取引所。前身となる東京株式取引所は1878年に設立。**2** 兜町開発の先駆けとなった〈K5〉。**3** 現みずほ銀行の壁面に銀行発祥の地碑が残る。**4** 路地裏には木造建築を改築したワインショップ、クラフトビール店が。**5** 日本橋川にかかる鎧橋。

街に馴染む小さな店々を
回遊したくなる場所へ。





1 パンは奥の厨房で作ってすぐにカウンターへ。2 オリジナルの熟成発酵バターを使ったクロワッサン400円。

新旧の雑貨をセレクト!



BANK

食から始まる、上質なライフスタイルを提案。

〈ease〉の世界観を五感で感じられる店として、大山さんが監修した食の複合ショップ。1階に焼きたてのパンが並ぶベーカリー〈bank〉と、パンをおいしく食べることをテーマにしたビストロ〈yen〉。地下には個性的で愛着が湧く食器や雑貨、オリジナル家具などを揃えるカフェ〈Coffee bar & shop coin〉に、ドライをメインとするフラワーショップ〈Flowers fête〉を併設。重厚な空間の中で上質な器や花に囲まれて、豊かな時を過ごせる。

バンク 銀行に関連する名前を持つ4つの店舗が集結。●東京都中央区日本橋兜町6ー7兜町第7平和ビル1F・B1。火曜・水曜休。Bakery bank☎050・3593・0834。11時〜18時／Bistro yen☎050・3595・0835。11時30分〜14時、18時〜21時30分／Coffee bar & shop coin☎050・3635・0836。11時〜21時30分／Flowers fête 11時〜18時。









3 オリーブオイル100%のオリジナルキャンドル7,150円。4 河合竜彦のプレート各6,930円。共に〈coin〉。5〈fête〉の花器。大2,300円、小2,000円。6 雑貨店と一体になったカフェ。7〈fête〉には花専用のドライルームも。8 正面には樹齢1,000年のオリーブの木が。9 ビストロ。

ease

本物を追求した
スイーツを気軽に。

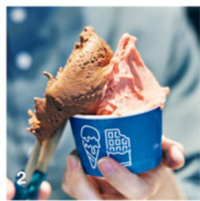




1 白あんを練り込んだフィナンシェ各297円。2 100年前の柱がむき出しの店内。中央のテーブルに焼き菓子、奥にケーキのショーケースが。3 生菓子は見た目も華やか。

大山さんがシェフパティシエを務めるパティスリーには、宝石のように美しいケーキや焼き菓子を求めて、開店を前に人々が集まってくる。広々としたオープンキッチンを備えた活気のある店内で、できたてにこだわって作られるスイーツは、繊細さが持ち味。ひとつひとつの素材の特徴を引き出すユニークな組み合わせ、全体の香りや食感にも妥協をしていない。店名には、その味をカジュアルに、身近に楽しんでほしいという思いが込められている。

イーズ 店内にはカウンターのイートインスペースも。シックなグリーンの外観を目印に。●東京都中央区日本橋兜町9ー1☎03・6231・1681。11時〜18時。水曜休。


2


1


3

1 外観のアーチは渋沢栄一邸時代のデザインを踏襲。2 アマゾンカカオとあまおう＆柚子のジェラート750円。3 チョコレートクッキーとカモのクッキー缶4,200円。

teal

スイーツの天才2人のアイデアの結晶。

大山さんと日本トップクラスのショコラティエ・眞砂翔平さんがタッグを組んだチョコレートとアイスクリームのショップ。希少なアマゾンカカオを使ったシグネチャーと組み合わせたあまおう＆柚子のジェラートに、オリーブオイルをかけて酸味を和らげるなど、2人の閃きが端々に生きる。パッケージも贅沢なチョコバーやクッキーはプレゼントにも。ここはかつて渋沢栄一の邸宅があった場所の跡地でもあり、外観のアーチはその名残を残している。

ティール　店名は青緑の意。兜町の水の都のイメージと、鴨の羽の色に由来している。●東京都中央区日本橋兜町1−10 日証館1F☎03・6661・7568。11時〜18時。水曜休。

どぶろくは MADE IN兜町!


1




2


3

平和どぶろく兜町醸造所

酒にゆかりの地で原始のどぶろくを。

和歌山県海南市の酒蔵〈平和酒造〉による、どぶろくのブルワリーパブ。兜町に江戸時代、兵庫の灘や京都の伏見から酒が到着する船着き場があり、酒にゆかりのある場所だったことがここでの出店のきっかけになった。カウンターでは、店内で醸造したどぶろくのほか、〈平和酒造〉の日本酒《紀土》や《平和クラフト》の生ビールもタップで楽しめて気に入ったら購入も可能。和歌山名産のしらすや山椒を使ったメニューなどつまみも豊富に揃える。

1 珍しい黒豆どぶろく3,300円。店内では、醸造したてを味わえる。2 木のぬくもりが心地いい店内。天井の照明は発酵をイメージ。3〈平和酒造〉の商品をラインナップ。

へいわどぶろくかぶとちょうじょうぞうじょ　〈平和酒造〉初で唯一のコンセプトショップ。●東京都中央区日本橋兜町8−5☎03・6264・9457。13時〜22時30分。無休。

中央区 日本橋兜町 1 Chuo-ku Nihonbashi kabutocho 1


4


3


2


1

1,2 造園会社Yardworksのグリーンショップ〈MOTH〉。3〈Somewhere in Tokyo〉によるTシャツの販売も。4〈AA〉で開催された〈K5〉のデザインを監修したスウェーデンのClaesson Koivisto Runeの展示。5〈Pony Pasta〉の店内。

変わる兜町の景色を体感。


5

Keshiki

兜町カルチャーの今を伝える複合施設。

1階にグリーンショップ〈MOTH〉とパスタレストラン〈Pony Pasta〉、ワークショップとポップアップのスペース〈Tangible Studio〉、地下に多目的スペースの〈AA〉を備えるマイクロ複合施設。小さいが強いコンテンツが集まるここには兜町の開発に携わる〈メディアサーフ〉のオフィスもあり、日々移りゆく兜町の“景色”を映し出す拠点にもなっている。ここで起こるクリエイティブな出来事に耳を澄ますことで、街を体感できる場所だ。

けしき　各施設がシームレスにつながり、兜町の情報発信地として案内所のような役割も果たしている。●東京都中央区日本橋兜町6−5。不定休。MOTH 11時〜14時、15時〜18時。／Pony Pasta 11時30分〜14時、18時〜21時LO（手打ち生パスタは売り切れ次第終了）Instagram @ponypastatokyo／AA Instagram @aa_kabutocho（不定期オープン）。

LOCAL FOOD

地方色に焦点を当てた
新・日本の食文化の発信基地。

その土地の特徴を活かし、その土地の優れた食材を見つけ、
ストーリーとともに発信する。食の分野でも、
個性溢れるユニークなショップが地方に続々登場！

食にまつわるアプローチは器からも。今後は古物の器や道具なども販売が予定されている。取材時に棚に並んでいたのは濱田庄司（右中段）や河井寛次郎、ルーシー・リーらの作品。



京都｜京都

YOLOs

原田マハがプロデュースするゼネラルストアが京都に登場！

photo_Yoshiko Watanabe　text_Mako Yamato
editor_Kazumi Yamamoto

ヨロズ　2022年７月オープン。原田マハが監修するアート＆クラフト展覧会『YOLOs art focus #2 小西真奈〜In My Life〜』が開催中（〜７月30日）。テラス席でワインを楽しむこともできる。●京都府京都市中京区蛸薬師通烏丸西入ル橋弁慶町228−101☎075・252・5900。11時〜19時。月曜休、不定休。

右から原田さん、高岩さん、森本さん。原田さんが清水寺を舞台に開催したアート展以来の付き合い。３人は「全員が食いしん坊。バイヤーで、フードキュレーター」。







1〈木山〉香ノ実寄セ１缶2,160円。日本料理のコースの最後にお薄と共に供されていた、オレンジピールやクルミを使った焼き菓子を特別に仕立ててもらったもの。余韻に山椒が残り、お酒との相性もいい。毎週金曜の入荷。2〈食堂おがわ〉脳天逆落し柚子胡椒１瓶1,200円。3〈中野酢〉純米酢、フランス〈ユイルリー・ボジョレーズ〉のビネガーなど、国籍を超えたものが並ぶ。

「小説『異邦人』のために京都通いを始めて十数年。深くコミットするうち、リアル洛中の物件で何かやらない？ と声がかかって。ここは橋弁慶山という祇園祭の山鉾町。憧れの洛中に店を開くなんて、すごいチャンスだ」と小説家の原田マハさん。そこにパチッとはまったのが「食いしん坊な私がおいしいと思ったものを、みんなとシェアできたら」という気持ち。かくして店長の森本達平さん、アートプロデューサーの高岩シュンさんら5人の食いしん坊仲間に声をかけ、食のセレクトショップが誕生したのは2022年7月のこと。

店頭に並ぶのは日本料理〈木山〉が特別に作る焼き菓子や、京都きっての予約困難店〈食堂おがわ〉の柚子胡椒など、知る人ぞ知る京の味。全国の有名レストランで愛用される岡山〈吉田牧場〉のチーズ、滋賀〈WABARA〉のバラの花びら茶など、直接生産者から手に入れる品も多い。作り手の情熱が伝わってくるものが揃う。

「おいしいことは重要だけど、味だけで選ぶのとはまた違います」と店長の森本さん。関わる全員がおいしいと思うものを提案し、扱うことのできる商品を決めていく。「ここに並んでいるものは猛者と呼んでます」と笑う原田さん。

「私が物語の書き手ということもあり、ストーリーのあるプロダクトを大切に」。調味料から乳製品、菓子、ワインなどセレクトされた商品には、聞くほどに心くすぐられ、誰かに贈るときには伝えたくなるストーリーがある。新たな世界を開いてくれる口福の空間だ。







4 洛中カヌレ２個1,000円。5 YOLOsバタトーセット1,000円。北白川〈ベイカリー白川〉の食パンに〈ボルディエ〉のバターをたっぷり。HPにはエッセイ「よろずうまいもん！」を連載中。バタトーストについて書いた回もあり、必読。6 購入したワインなどは表のテラス席で楽しむことも可能。



「店名はYou Only Live Onceの略語。人生一度きり、食事は1日3回。その恵みの瞬間に、おいしいものがあってほしいと」と原田さん。武者小路実篤の絵が店のコンセプトを語る。

滋賀｜長浜

湖のスコーレ

琵琶湖のほとりで
現代の発酵文化を伝える。

photo_Yoshiko Watanabe　text_Mako Yamato
editor_Kazumi Yamamoto

うみのすこーれ　2021年12月オープン。湖国に受け継がれる発酵を中心に、暮らしのなかの学びに出会える空間。施設内で製造されるチーズや糀、味噌等は購入もできる他、製造見学・体験や喫茶室でも楽しめる。●滋賀県長浜市元浜町13－29☎0749・53・3401。11時～18時（喫茶室～17時／フード16時LO）。火曜休。

〈ハッピー太郎醸造所〉で造られるどぶろくは、定番のほか限定で苺や薄荷（はっか）もある。ラベルは切り絵作家・早川鉄兵によるもの。写真の苺のどぶろくは2,420円。



1 料理道具から食器、ファッションまで幅広いラインナップ。〈大與〉の和ろうそく、信楽で作陶する古谷朱里の器、淡水パールなど、滋賀ならではのものも。**2** 信楽〈NOTA&design〉による《SCHOLE POT》S16,500円、L19,800円。**3** 新刊の選書は彦根に店を構える〈MITTS FINE BOOK STORE〉。

琵琶湖で獲れる魚と米とを発酵させ作る郷土料理・鮒ずし。豊かな湖の水に育まれた米から造られる日本酒や味噌、醤油。今も発酵文化が根づく滋賀県に登場した〈湖のスコーレ〉は、発酵を軸に生活の中の学びを体験する場だ。湖を「うみ」と呼ぶのは、親しみを込めて琵琶湖をそう呼ぶ地元の方々に倣って。スコーレはギリシャ語で学校の意味。施設をプロデュースする奈良〈くるみの木〉の石村由起子によって名づけられた。

ユニークなのは、生活道具や雑貨が揃う「ストア」や本とリソグラフ印刷が用意された「図書印刷室」に加え、糀（こうじ）や味噌、どぶろくを醸造する「醸造所」、チーズを製造する「チーズ製造室・熟成庫」が併設されていること。「醸造所」には醸造家・池島幸太郎さんが営む〈ハッピー太郎醸造所〉が入り、糀から味噌や甘酒、どぶろくまでを店内で製造する。タイミングがよければ造る様子を見ることができる糀は、滋賀で自然循環農法にて育てられた米を使い、完熟するまで丁寧に育てたもの。「チーズ製造室」では竜王町〈古株牧場〉から届く搾りたての生乳を使ったチーズ作りが日々行われている。白味噌とチーズを合わせた「みそフロマージュ」など、両者の出会いから生まれた商品も人気だ。「喫茶室」では発酵食を味わうことで学び、「体験教室」では味噌やチーズ作りのワークショップや料理教室が開催される。

時代の暮らしに寄り添うべく、味わいやデザインで進化した発酵。そんな現代の知恵が詰まった店だ。



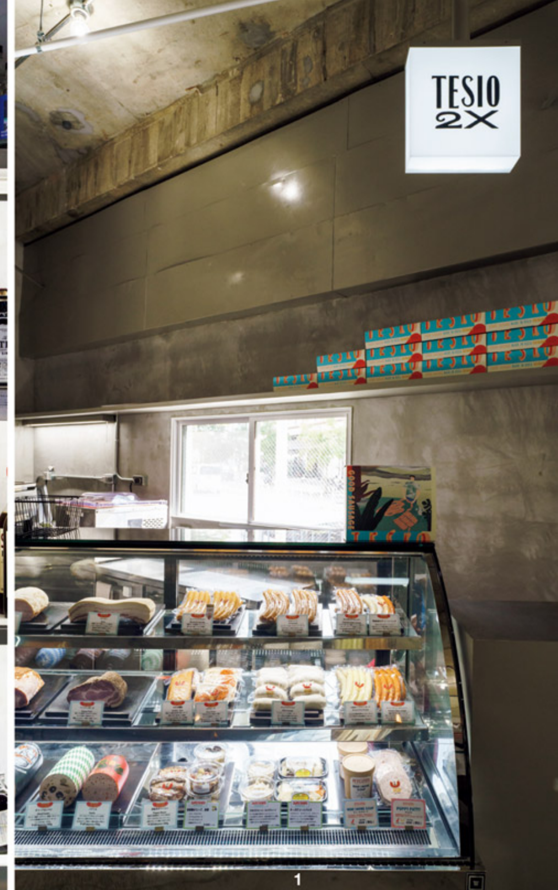




4「チーズ製造室」では竹炭を表面にまぶした竹炭フロマージュ（ホール）1,210円、（熟成ホール）1,400円や、モッツァレラ580円／60g、カチョカバロなどが作られている。**5** 糀の生育具合を確かめる池島さん。糀室の向こうに見えるのは「ストア」。**6**「喫茶室」のメニューから、完熟糀とフロマージュブラン、クリームチーズを使った米糀チーズケーキ580円。







1 県産の豚肉を使い本格ドイツ製法にこだわる〈TESIO〉の味がその場で体験できる〈TESIO 2×〉。**2** 酒類のほか、日本茶や紅茶、コーヒー等を扱う〈PANTRY〉。沖縄発のクラフトチョコレート〈TIMELESS CHOCOLATE〉もコーナー展開する。**3** 現代作家の器が並ぶ〈GALLERY〉。沖縄の若手作家、今村能章、高江洲尚平とオリジナル酒器も制作中。

沖縄｜那覇

LIQUID THE STORE

現代の〝共同売店所〟を舞台に人と人を「飲む」でつなぐ。

photo_Wataru Oshiro　text_Akari Matsuura
editor_Kazumi Yamamoto

沖縄の言葉で「マチグヮー」と呼ばれる市場文化が息づく那覇市壺屋。この界隈に新たな活気を呼び込む個性派の1店が、〝飲む〟にまつわる専門店〈LIQUID THE STORE〉だ。

ミニマムな空間は角打ちカウンター〈STAND〉を中心に、〝飲む〟に絡めた商品を扱う〈PANTRY〉、飲むための道具が並ぶ〈GALLERY〉、自然派ワイン専用の〈CELLAR〉の4つの要素で構成。店内に出店する県内屈指の手作りハム＆ソーセージ店〈TESIO〉の2号店〈TESIO 2×（テシオニカケル）〉は、〝最高の飲み合わせ〟を提案する。

「わかりやすく言うと『日本の良いものや文化を沖縄から発信する』というテーマを〝飲む〟ことを軸に作った店です。2017年に開業した前身〈LIQUID〉からコンセプトは変わっていませんが、ここではモノを売るだけでなく、実際に体験し、交流する場作りがしたかった」と店主の村上純司さん。生産者や飲食店を巻き込んだテイスティングイベントも積極的に開催し、「作り手と自由に交流できる共同売店所のような場にもしていきたい」と言う。

自社レーベル〈アイランズビバレッジ〉では泡盛ベースのクラフトジンを開発。老舗泡盛蔵と離島8島の黒糖を使った国産ラムのディレクションに携わるなど、沖縄食材の可能性に光をあてる新しい飲料の開発にも力を注ぐ。「沖縄だからこそ叶う美味しい体験を提供したい。〝飲む〟をきっかけに、人とモノ、人と人をもっとつなげていきたいですね」







4 ラディコン《ピノグリ2015》グラス1,100円と〈TESIO 2×〉自家製ハム盛り合わせ1,100円。**5** 左から、今帰仁村〈Atelier cafe bar 誠平〉のチャイシロップ《MR.CHAI》1,188円。沖縄県産の無農薬レモンや野草などを融合したオリジナルクラフトジン《O LEMON GIN》6,600円、〈TIMELESS CHOCOLATE〉の《Candied Cacao》880円。**6** 酒器や茶器も評判。



リキッド・ザ・ストア　沖縄を拠点に活動する村上純司さんが、2017年にオープンした店を2021年にリニューアル。ユニークな土地の形状を生かしたミニマムな空間。奥の〈CELLAR〉には自然派ワインも充実する。●沖縄県那覇市壺屋1−1−21　1F☎098・988・3607。13時〜20時。火曜〜木曜休。

無駄を削ぎ落としたシャープな空間に、ピーター・アイビーの照明が温かみを添える。店舗設計は建築家クマタイチと内村綾乃（A studio）が担当した。

CREATOR'S EYE

クリエイターの世界観を堪能するショップ。

職人自らが作品を紹介するギャラリーショップや、デザイナー自身のオリジナルアイテムが並ぶ店。クリエイターの世界観を、最も美しい形で伝える3つの空間。

photo_Satoshi Nagare (p.108-109), Ikuya Sasaki (p.110-111), Masaki Ogawa (p.112-113)
text_Masae Wako (p.108-109, p.112-113), Yoshinao Yamada (p.110-111)



長野｜御代田

SAMNICON by SyuRo

サムニコン バイ シュロ 2023年5月オープン。店名は仕事と生活を示す「SAM（作務）」と、今を大切に生きることを示す「NICON（而今）」を合わせた造語。店内の什器には土地から出たカラマツ材も利用。●長野県北佐久郡御代田町塩野482－10☎050・1288・9340。営業日、時間は@samnicon_miyota。

CREATOR'S EYE 01

宇南山加子

「五感に響く日用の美」を次世代に向けて提案。

東京・台東区鳥越の人気店〈SyuRo〉のデザイナーとして、素材を生かしたオリジナル商品を生み出してきた宇南山加子。次世代に向けて、より豊かな暮らし方を提案すべく、新たなギャラリーショップ〈SAMNICON by SyuRo〉をオープンした。場所は自然豊かな長野県の御代田。店の前には畑や池や川もあって、清々しい気持ちで商品と向き合える。宇南山とともに空間を作り上げたのは、デザイナーの松岡智之。店内には、松岡が日本各地の家具メーカーと協業した家具のほか、〈SyuRo〉のオブジェやモダンな指物の箱も並ぶ。丁寧に作られた家具や生活道具は使う人の五感を磨き、日常に潤いをもたらすはず。

うなやまますこ　デザイナー／スタイリスト。1999年〈SyuRo〉創業。台東区鳥越にアトリエとショップを構える。下町の工場や全国の職人とともに、素材を生かしたものづくりを展開。日本の技術を広く伝え続ける。日常と非日常、温かみとカッコよさなど、相対する感覚の狭間にあるものを提案。

3　真鍮の角缶

山形の工場で作る角缶は、二つ並べた／重ねた時に美しく見える形。真鍮板を折り込んで成形し、角に丸みを出した。上／W10×D20×H5cm 4,950円、下／W12.5×D22×H6cm 5,500円。

2　SyuRoスタンドランプ

「置くことで周囲の空気感まで美しくする、オブジェのような照明を目指しました」と宇南山。東京の金属職人との協業。右／銅φ5×H18.5cm 60,500円、左／真鍮φ7×H21.5cm 60,500円。

1　銅の丸缶

東京の缶職人と作る〈SyuRo〉のシグネチャー。凹凸のない美しいフォルムは高い職人技によるもの。日本茶や紅茶は約160g、コーヒー豆は約80g入る。φ7.5×H8cm 4,180円（6月変更予定）。

6　炻器ディーププレート

三重県四日市で作られる炻器（ストーンウェア）。釉薬はわずかにグレーがかった白。立ち上がりのある形は日常の器として使いやすく、重ねた姿も美しい。S／φ18×H3.5cm 4,180円など。

5　SyuRo 指物小箱

釘を使わず木を組み上げる指物の桐箱は、縁にだけナラ材をあしらい、モダンに仕上げたデザイン。洋でもあり和でもある。S／W22.5×D15×H5.2cm 9,900円。M／13,200円、L／24,200円。

4　SyuRo真鍮オブジェ

江戸時代、台東区鳥越には天文台があり、天文計算器が置かれていた。葛飾北斎の浮世絵《鳥越の不二》にも描かれたその計算器をモチーフに、オリジナル製作。球体直径15cm 9,625円。

9　ミッタリ 01 チェア

ミッタリは3人を表す古語。松岡が椅子職人、家具屋店主と製作。販売も3人の拠点のみで。フレームはナラを鉄媒染で黒染め。座面は籐張り。W56.4×D51.2×H76・SH42cm 187,000円〜。

8　トロム ソファ

座面が低く奥行きが深め。まどろむ場と心地いい景色を作るソファはオリジナル。張り地は〈クヴァドラ〉。ユニット式で写真は片アーム2人掛け。W180×D98×H64・SH36cm 825,000円。

7　fog glass

毎日のコップとしてもデザートなどの器としても活躍するオリジナルのグラス。霧のように柔らかなスモークガラスの質感も特徴だ。M／φ8×H6.2cm 2,090円、L／φ8.5×H8.7cm 2,200円。

9

CREATOR'S EYE 02

井藤昌志

オーバルボックスも希少な家具も全種揃う。

わずか４坪と思えぬ充実ぶり！「〈IFUJI〉の商品すべてが揃う、小さくても愛されるキヨスクのような店を目指しました」と木工家の井藤昌志は言う。井藤による工芸ブランド〈IFUJI〉の東京初となる直営店。代表作のオーバルボックスは、ほとんどのサイズや色形が揃うほか、自分だけの１点もオーダーできる。草木染の経年変化や、店名の由来でもあるスワロウテイル（曲木の繋ぎ部）の話など、オーバルボックスの魅力に浸れるのもこの店ならではだ。オンラインでは買えない家具が並ぶ点も貴重。「修繕や染め直しにも対応します。工芸は大切に使えば生涯の伴侶になる。この店はその喜びを伝える窓口です」

いふじまさし　1966年岐阜県生まれ。高校生の時、アメリカのシェーカー教徒が作るシェーカーボックスに衝撃を受け、木工家を志す。2003年独立、2009年に長野県松本市に工房を移す。自身の作品のほか、自らセレクトした手仕事を扱う〈LABORATORIO〉も開店。2021年より工芸ブランド〈IFUJI〉の名で活動。



1 OVAL BOX TYPE-D

18〜19世紀後半のシェーカー教徒の手仕事をベースに、１点ずつ手作りするオーバルボックス。サイドテーブルとしても使える新作。上／H29.5cm 93,500円、下／H40.5cm 176,000円。

2 FRAMED MIRROR FL

「鏡は額装すれば部屋のアクセントにもなる」と井藤。額は国産カエデを天然染料で染色した草木染。H170×W60cm スタンド型・鏡込み 90,200円。壁掛けタイプもあり。受注製作。

3 TOWEL RACK

開くと自立する軽やかなタオル掛け。折り畳むとコンパクトになり、壁に掛けることも可能。家具類は受注製作。M：W75×H110cm ナラ 50,600円、L：W75×H160cm サクラ 71,500円。

4 THREE LEGGED STOOL

片手で持てるほど軽量＆小ぶりの３本脚スツール。手前は三度黒染、奥は草木染。長く使い続けることで染めの下から木地が現れ、味わいある風合いに育つ。φ24×H43cm 各46,200円。

5 NEW R STOOL

座面がアール状で座り心地のいいスツール。着物の黒染めに使われている技法「三度黒」で染色。「三度」とは多数の意味。十数回の工程を重ねて染め上げる。W45×D28×SH42cm 80,300円。



4 OVAL BOX TYPE-D SPECIAL WOOD

定番のチェリー材（上）などのほか、直営店限定色の素材もオーダーできる。下は落ち着きのある雰囲気が魅力のスペシャルなウォルナット材。W20.4×D15×H15.8cm 共に17,600円。

3 OVAL BOX HAT

帽子ケースにヒントを得て考案した、円筒形に近い蓋付きオーバルボックス。W36×D36×H25.8cm。上／チェリー材のナチュラル 69,300円、下／国産カエデ材の三度黒 88,000円。

2 OVAL BOX CARRIER / OVAL BOX FIXED CARRIER

右２種類はワンハンドルで持ち手が畳める型（写真は２つ重ねている）。C6S 草木染 W28×D18.7×H6.5cm 22,880円など。左は固定ハンドル型。C6S 三度黒 22,880円。すべて直営店限定品。

1 OVAL BOX RIM-CARRIER

深型オーバルボックスに固定ハンドルが付いたもの。中に容器を入れて花を飾ってもいい。W25×D14×H19.8cm 手前はナチュラル 24,200円、奥は草木染 31,900円。共に直営店限定品。

7 OVAL BOX MEMORIAL

ペット用の骨壺が入るボックス。「家族が過ごす日常空間に置いておける。一人一人のために作りたいので受注製作です」。３サイズ。２号 W８×D7.2×H9.5cm ナチュラル 12,100円など。

6 OVAL BOX TYPE-EXD

ボトル類を入れるのにいい蓋付きの深型タイプは直営店限定品。上２点は共にカエデ材の草木染。上／２号 W13.5×D10×H15.7cm 18,700円　下／４号 W21.5×D15.5×H20.8cm 29,700円。

5 OVAL BOX TYPE-SL

カトラリーや文房具入れなどに便利な〝細長〟型も直営店限定品。上から2SL W15×D7.7×H6.1cm 11,000円、4SL W25×D12.6×H10cm 19,800円、5SL W30×D15.2×H11.7cm 24,200円。

東京｜稲荷町

IFUJI the box tailor

イフジ ザ ボックス テイラー　2022年春、ものづくりの町・台東区にオープン。皿やトレイなどテーブルウェアも揃う。６月24、25日にはメンテナンスのワークショップを開催。●東京都台東区松が谷2−15−8 ROOST BLDG 1F☎03･5246･3345。12時〜18時。火曜・水曜休（祝日の場合は営業）、年末年始休。

photo_Masaki Ogawa　text_Masae Wako

CREATOR'S EYE 03

内田 悠

山間の工房から生まれる木工を、その地で体験。

周辺には雄大な自然が広がり、他に視界を遮るものはない。北海道のほぼ中央で札幌や新千歳空港からもアクセスのよい三笠市郊外の山あいに工房を構えるのが木工作家の内田悠だ。工房に併設するギャラリーカフェ〈Mitsuki〉には、内田、そして彼と親交のある作家の器が並ぶ。「みな同世代で、自宅で愛用する作家ばかり。どこか自作と相通ずるものを感じ、紹介したいと考えました」と、内田は言う。自宅も隣接し、ここでは「暮らしの提案もしたい」と家具も置く。内田の素材はいずれも道産材の木。素材の温もりとシャープなフォルムを持つ現代的な木の器が生まれる風景に身を置いて、その魅力に触れたい。

うちだゆう 1985年北海道生まれ。岩見沢市役所職員として働くなかで木工を志し、都内のレストラン勤務を経て、岐阜県高山市の木工職人養成所〈森林たくみ塾〉に学ぶ。2015年より北海道札幌市を拠点に製作活動を始め、17年に地元である三笠市に工房を構える。



1 内田悠 カフェテーブル

フレンチミッドセンチュリーを作り上げたルネ・ガブリエルやジャン・プルーヴェを尊敬するという内田。その家具は直線的でいて、両者の影響をそこはかとなく感じさせる。143,000円。

2 内田悠 ダイニングチェア

オーク材のシャープなフレームに、幅広なラタンの背、クッション張りの座面で座りやすさを求めた椅子。カフェでゆっくりお茶を楽しみながら、その心地よさを試してほしい。110,000円。

3 内田悠 ラウンドテーブル

これまで個展に限って発表してきたという家具がカフェやギャラリーに並ぶ。ベンチやチェストなども展示されており、隣の工房で端正に作られた家具は魅力的。直径120cm 363,000円。

1 **蠣﨑マコト**
ハヅリ浅鉢

特に親しい間柄という蠣﨑のキレのある美しさは人柄にも通じると内田。シャープな表情だが手馴染みよく、技術を感じるとも。端正で温かみを感じる姿は内田にも通じる。φ23cm 14,300円。

2 **内田悠**
盆

蠣﨑の浅鉢と好相性な内田の盆はイタヤカエデを鉄媒染で仕上げたもの。シャープなリムが現代的な表情を持つ。ガラスコーティングで仕上げられており使い勝手もよい。φ30cm 23,100円。

3 **成田周平**
大皿

ロクロではなく手びねりで成形し、削りや磨き、漆の塗布などで完成する器に、「手跡と柔らかなフォルム、加工による独特の表情には偏愛したい魅力があります」と内田。φ33cm 25,300円。

4 **内田悠**
丸皿

ぷっくりと厚みあるニレ材の丸皿は思わず撫でたい魅力を持つ。内田は特徴ある木の表情を大胆に取り込むことも多く、シンプルなフォルムゆえに魅力が引き立つ。φ27cm。34,100円。

5 **内田悠**
ダイニングテーブル

こちらは90×180cmの大ぶりなテーブル。安定感がありながらディテールの妙でシャープな印象を兼ね備える。363,000円。背景に見えるチェストやベンチなど展示品はすべて購入可。

6 **SŌK（鈴木絵里加）**
豆皿

美しい色合いとテクスチャーを特徴とする器に「現代の暮らしにすっと溶け込み、食卓に彩りを加えてくれる」と内田。使い勝手のいい小さなサイズが特におすすめ。φ11cm 各1,980円。

7 **内田悠**
盆

北海道を代表するローカルな木材、イタヤカエデを鉄媒染で仕上げた盆。木目とともに取り入れるのが節の姿。節や欠けを形状に取り込みながら、それを個性に昇華。φ30cm 30,800円。

8 **岩崎龍二**
花器 椿

内田が「美しい釉薬の表情に心を奪われます」と評する花器。色とともに、卓越した陶芸技術による流麗なフォルムもまた生活を豊かにしてくれるものだと言葉を繋ぐ。H14cm 11,000円。



北海道｜三笠
緑月-Mitsuki-

みつき　2021年12月オープン。工房の横に併設されたギャラリー兼カフェ。内田自らがデザインと一部工事を手がけた。内田の器を常時揃えるほか、他では常設していない家具を扱う。またギャラリーでは内田と親交のある作家を扱う。●北海道三笠市川内839。11時〜17時。日曜〜火曜休。gallery_mitsuki

SHOP OF FAVORITISM

オーナーの個性豊かな審美眼が光るショップたち。

国籍、ジャンル、用途を問わず、チャーミングな品々を集める
オーナーの偏愛っぷりが突き抜けたショップを訪ねました。
店主自身が欲しすぎて売りたくないモノも多数!?

東京｜高円寺

MOGI Folk Art

レジェンドバイヤーの“今”が見える、民藝とアートを探しに。

photo_Keisuke Fukamizu, Satoshi Nagare (item)
styling_Yusuke Takeuchi (item), text_Sawako Akune

モギ フォークアート　2022年10月オープン。店名の「MOGI」は北村さんのお母様の旧姓。外国人でも覚えやすい響きから決めたそう。店内は元からあった段差を生かした、奥に長いつくり。●東京都杉並区高円寺南3－45－12☎080・8058・1761。12時～19時。火曜・水曜休。@mogi_folk_art

エリスさんが着ている「KŌENJI」ロゴのTシャツはショップオリジナルシームレスで肩がすとんと落ちたシルエットが格好いい。シーズンごとに異なるカラーで展開する。

「何かを流行らせたいとやったことはないですね」。そう微笑むテリー・エリスさんと北村恵子さん。1980年代からロンドンを拠点にバイヤーとして活躍してきた二人。立ち上げから携わったBEAMSのレーベル〈フェニカ〉では、北欧デザインや日本の民藝をはじめ、世界の手仕事の魅力を広めてきた功労者なのだから、その言葉には驚く。「それより、〝見すごされているけれどとてもいいもの〟に光を当てたい気持ちが強いです」

そんな二人が満を持してオープンしたのが、高円寺の商店街を少しそれた小道沿いにある〈MOGI Folk Art〉だ。奥に細長い店内は、一部はロンドンで暮らした自宅の雰囲気を再現したもの。居心地のいい空間に、国内外のさまざまなクラフトやヴィンテージが並ぶ。大半のクラフトは、二人がよく知る作家や生産者と丁寧に対面で話し合いを重ね、「納期も設けずに（笑）」気長に待って作り上げたもの。〝本当にいいもの〟に光を当てる二人の試みは、このショップでより濃密に自由に続いていく。

**かのイームズ邸に並んだ
こけしをオリジナルで。**

かつてイームズ邸にもあったという、宮城県白石町〈鎌田こけし屋〉の弥治郎系こけし。カラフルなラスタカラーなどに色を指定した別注品。左／5,500円、右／4,400円。





**伝統文様をアレンジした
小鹿田焼の別注平皿。**

器の品揃えは圧巻！　窯元や作家を熟知する二人ならではの別注品が揃う。大分県の小鹿田焼の大皿は、周囲の円をより自由に描いてとオーダーしたもの。φ21cm。4,400円。

**やちむんの技術と
北海道の土で作る一枚。**



えもいわれぬ風合いの絵付の平皿は、北海道で作陶する臼田季布の〈ソロソロ窯〉から。沖縄でやちむんを学んだ作家の魅力を引き出した一品。φ16cm。6,000円。

**要注目の木工作家、
牧野弘樹の漆器。**

静岡県藤枝市を拠点に活動する牧野弘樹。木地から漆がけまですべて一人で行う作家による漆器は、手への馴染みも素晴らしく、二人が熱い期待を寄せる作家の一人。36,300円。



1 出西窯、益子焼など各地の器が勢ぞろい。**2** レトロモダンな容貌のこけしは佐藤正廣作、13,200円。紙製の鳥は李朝時代のもの。**3** 中央のマスクは、マリ共和国ドゴン族が葬儀の際に着けたもの。110,000円。**4** 李朝の棚の上にあるのは沖縄の酒器「嘉瓶（ゆしびん）」の形をランプベースにしたオリジナル。44,000円。



**色を楽しむ!
別注バッグ&シューズ。**

色などを伝えてカスタムした、使い勝手のよさそうなオリジナルアイテム。《BAG'n'NOUN×MOGIスペシャルトート》13,200円。《MOGI×moonstar MGB》12,100円。





**1年がかりでカスタムした
松本民芸家具のチェア。**

二人が1年がかりで長野県松本市に通い、英国のウィンザーチェアをベースにサイズ感、素材、色まで別注した松本民芸家具のロッキングチェア。《MOGI Rocker》242,000円。

ユージェネラルストア　2023年1月オープン。1階の空間から隣の美容室を通って地階スペースに至るプランニングもユニーク。●東京都渋谷区西原2−35−1 プランエール代々幡105。営業日・時間はインスタグラムのハイライトから確認を。営業日以外もアポイント制で来店可。◎@u_generalstore

東京｜幡ヶ谷

u; generalstore

部屋の雰囲気を変える存在感たっぷりの一点ものを発掘。

photo_Satoshi Nagare　styling_Yusuke Takeuchi (item)
text_Sawako Akune



1



2



3





ネコやイヌの置物に、美しい色合いのガラスの器、元はお酒の入っていたユニークな瓶……。部屋にひとつあるだけで雰囲気をがらりと変えてくれるようなアイテムが見つかる〈u; generalstore〉。インテリアデザイナーの外薗慎平さんと、アパレル出身の北村秀悟さんが各地で買い付けた一点もののヴィンテージ雑貨を中心に揃える、幡ヶ谷駅そばの新店だ。美容室やショップのプロジェクトを手がけることの多い外薗さん。空間だけでなく、そこに置くモノなどもトータルで依頼されるケースが少なくないことから、このショップのオープンに至ったと話す。

「"ジェネラルストア"を名乗っているので、非日常になりすぎないモノが多いのかな……？ シュッとしすぎていないモノには惹かれます。品揃えはその時々の仕入れと自分たちの好みに左右されるので、今は花瓶などが多いけれど、これからまた変わっていくはず」

東南アジアや南米にも興味津々という二人。時間が経つにつれ、ショップはまた違う顔を見せてくれるはずだ。

上／赤茶色のタイルでつくった棚が印象的な1階店内。下／北村さんが好きで「つい集めてしまう」という動物モチーフのアイテム。



4

1

置く場所で表情を変えるフラワーベース。

メタリックな水色からピンクへのグラデーションが美しい大ぶりのガラスベース。光の当たり方で表情がかわる。《metallic gradation vase》17,600円。

2

花がなくとも美しい一輪挿し。

すっとした佇まいが魅力的なフラワーベースは、花がないときでもオブジェとしても存在感のあるアイテム。部屋の彩りに。《clear blue vase》14,800円。

3

おじさんの顔で本を押さえる…!

ヒゲ面のおじさんを縦半分に割った形のブックエンド。本を挟んで立てておけば、見るたびにくすっと笑える。妙な愛着の湧きそうな一品。《man bookend》7,400円。

4

一周回って新しい昭和レトロなオブジェ。

高さ30㎝ほどの木彫りの猫。レトロなオブジェも、このお店にあると新鮮に。花器や壺と一緒にドアの前などに置いておいてもいい。《big cat wood carving》22,770円。



2

東京｜池尻大橋

OFS.TOKYO

KIGIのカルチャー発信地が移転でパワーアップ。

photo_Satoshi Nagare　styling_Yusuke Takeuchi (item)
text_Sawako Akune



1

1

モダンな信楽焼のテーブルウェア。

KIGIと琵琶湖周辺の職人たちによるプロダクトブランド〈KIKOF〉の、“Lake of Grace” シリーズ。《DEAR T.I.》カップアンドソーサー9,460円、スプーン3,003円。

2

正面と側面で印象が変わるアイウェア。

「KIGI」がディレクションを行うプロダクトレーベル〈ASSEMBLE DISASSEMBLE〉のアイウェア。植原さんも着用。《TWO FACE TF_R5 カラーレンズ》52,800円。

3

オリジナルラベルのナチュラルワイン。

おすすめはアルゼンチン産の２本。右／《カノプス - マルベック・デ・セド 2021》6,820円、左／《エスカラ・ウマナ - リヴェラ・ベキニョール 2021》7,260円。

4

薗部悦子による美しいジュエリーたち。

ジュエリー類は主に渡邉さんがセレクト。〈Etsuko Sonobe〉リング。右から／シンセティックルビー143,000円、クリソプレーズ242,000円、アクアマリン330,000円。





右／元は歯医者だったという空間をリノベーション。植原さんがリードして空間デザインを行った。左／通りからも見える ディスプレイ。



3



4

植原亮輔と渡邉良重によるクリエイティブユニット「KIGI」と志を同じくする仲間の運営で、白金で7年間営業してきた〈OUR FAVOURITE SHOP〉が、移転オープンした〈OFS.TOKYO〉。246号線そばの静かな通り。ギャラリーとショップ、角打ちバーカウンターのある店に通りかかる人々も足を止める。

「僕らが普段手がけるグラフィックは、どうしてもエンドユーザーの反応を感じにくい面があるんです。その点ショップは、反応がとてもリアル。店をやっていなかったら出会わなかったであろう人との出会いがあったり、思わぬ仕事が生まれたり……。本業とは全く違う面白さを感じています」

今回の移転で、ギャラリーがより展示しやすい空間になったのは大きな変化。「展示にはさらに力を入れたいですね」と植原さん。ジャンルの境界を超え、アート・デザイン・工芸・ファッション・音楽など、さまざまなカルチャーを発信していくという。長くデザインの最前線にいる二人が見せてくれる世界を心待ちにしたい。

オーエフエス ドット トーキョー　2023年３月移転オープン。白金のショップから引き継がれたインテリアを探すのも楽しい！　ギャラリーでの最新展示はHPなどで確認を。●東京都世田谷区池尻3−7−3☎03・6677・0575。12時〜20時。火曜・水曜休。http://ofs.tokyo/ofs-ikejiri

東京｜銀座

FEELSEEN

パリ、東京、NYのエッセンスが詰まった隠れ家。

photo_Satoshi Nagare　styling_Yusuke Takeuchi (item)
text_Sawako Akune



フィールシーン　2022年５月オープン。築約60年の建物の設計を手がけたのは、松田平田設計の創設者の一人でもある建築家・平田重雄。階段の手すりの意匠など、建築好きはディテールにも注目を！　神戸に同名の姉妹店もあり。●東京都中央区銀座3−12−7☎03・6260・6335。12時〜19時。無休。

「蒐集家の部屋」をテーマにした２階で。非売品ながらアスティエ・ド・ヴィラットの初期作品も見られる。日本舞踊の稽古場だった頃の床板や障子は当時のまま残した。



アスティエ・ド・ヴィラットのコラボコレクション。

アスティエ・ド・ヴィラットと、日本人アーティスト、節子・クロソフスカ・ド・ローラのコラボ。左／《ボウル オン スタンド》69,300円。右／《キャットベース》68,200円。

役目を終えた大木が部屋を照らす優しい明かりに。

樹齢約200年になる大木の切り株から作られたランプシェード。幼い頃から遊んでいた森で気になったものを収集してきたフランス人アーティストの作。253,000円。



フランスの思い出を手描きした一枚。

マルト・デムランのセレクトによる、フランス人セラミックアーティスト・サマンサのアートプレート。フランスでの思い出のシーンがハンドペイントで描かれている。27,500円。







大人気アーティストのペーパーフラワー。

薄紙やクレープペーパーで作る花や植物が知られるNYの女性アーティスト、リヴィア・チェティによるペーパーフラワー13,200円。セラミックベース50,600円。

驚きのモチーフに愛着が湧くクッション。

つややかなシルクベルベットに手刺繍を施したロブスター型のクッションは、ドイツ人デザイナー、アンケ・ドレッチェルによるもの。53,900円。





3



2

1 右２つの照明はフランス人アーティスト、ジュリー・ランソンの作。**2** マルト・デムランが手がける１階は、南仏らしいカラフルな空間。フランスのテキスタイルブランド〈レ・トゥーリスト〉はカーテンのほか小物も豊富。**3** NYのアーティスト、ジョン・デリアンによるデコパージュ・トレイ。



カラフルで全部欲しい！オリジナルテーブルウェア。

マルト・デムランがデザインし、日本の工房で手作りする《ラ・キュイジーヌ・ド・マルト》シリーズ。右から／小皿3,080円、ボウル3,300円、オーバル皿4,950円。

歌舞伎座の裏路地に建つ、築60年になる小ぶりの4階建ての建物。各階のベランダでは植物が元気に葉を揺らし、見るからに居心地のよさそうなここが、H.P.FRANCEの創業者である村松孝尚さんがプロデュースする〈FEELSEEN〉だ。

「心にピタッとくるものに出会ったとき、英語で"I feel seen（見透かされてる）"っていう表現をするんです。このショップはそういう場所。本当の自分の心に突き刺さるものに出会ってほしいなと」

日本舞踊の師匠の住居兼稽古場だったという建築の風情を可能な限り残した店内。南フランス拠点のマルト・デムランがバイイングを手がける1階、アスティエ・ド・ヴィラットの器も揃う2階、天然素材のベッドリネンや服、グラスなどが並ぶ3階、そして展示ごとに雰囲気の変わっていく4階のギャラリーと、フロアごとに異なるテーマで展開する。国境や時代を横断する品揃えは、長らく世界を見渡しながら審美眼や人脈を培ってきた村松さんが背後にいるからこそ。誰にとっても、自分の"好き！"が刺激される場だ。

東京｜蔵前

道具屋nobori

蔵前エリアを牽引する一店のセレクトが充実した最新形。

photo_Masanori Kaneshita, Satoshi Nagare (item)
styling_Yusuke Takeuchi (item)　text_Sawako Akune



2



1

1

キッチンにちょうどいいぽこぽこフリンジラグ。

多ジャンルのアイテムを再構築する〈amabro〉による、フリンジが編み込みされたコットンラグ。ポコポコとした編み目の手触りが心地いい。4,070円。

2

木地の老舗によるデザインライン。

石川県輪島市の〈四十沢木材工芸〉とデザイナー大治将典のコラボによる「KITO」の木の器。右／小皿松（大）4,950円、左／輪花盆（中）9,900円。

3

ディテールまで美しい竹口要の器たち。

滋賀県で作陶する陶芸家・竹口要の器も豊富に揃う。右から《ラトン蓋付ピッチャーLo象牙色》31,900円、《リエブレカップ S &ソーサー（深）SS象牙色》12,760円。

4

〝白より白い〟最高級の磁器。

ノリタケの中でも最高峰とされる「ダイヤモンドコレクション」シリーズのカップ＆ソーサー。背筋を伸ばして使いたくなる逸品。カップ＆ソーサー6,600円。





右／インテリアは毛さんのパートナー陳程さんが指揮をとり、スタッフ全員で手がける。左／シリーズで揃えたくなるグラスウェア。1,760円〜。



3



4

カフェ〈from afar〉、洋菓子店〈菓子屋シノノメ〉をはじめ、蔵前エリアでバラエティ豊かな7つの飲食店やショップを営む毛宣恵（マオ・シュエンホェイ）さん。彼女が手がける最新の店がこちらの〈道具屋nobori〉。同エリアからの移転で、元々この場所にあったウィメンズアパレル中心のライフスタイルショップ〈文月〉と合併してオープンした一店だ。グレーと飴色を基調としたしっとりとした印象のインテリアの中、グラスや作家ものの陶磁器、カトラリーなどの生活用品から、アパレルグッズ、ジュエリーまで幅広いジャンルのアイテムが並ぶ。特にテーブルウェア類は、デザインもよくてリーズナブルな、日常生活に取り入れやすいアイテム揃いだ。

「自分たちが欲しい物をという軸はブレていません。リサーチや買い付けを各ジャンルが得意なスタッフに任せるようになってきたぶん、自分だけでは出会えなかったセレクトができるのはうれしい」と毛さん。注目のエリアで確実にムーブメントを作ってきた彼女。新店でも、さらに多くの人々を惹きつけていくはずだ。

どうぐやノボリ　2023年3月移転オープン。ジュエリーや器など、さまざまなジャンルの作家によるポップアップも不定期に行う。営業時間やイベント等の詳細はインスタグラムにて。●東京都台東区寿3−7−1 寿町フラワーホーム1F。11時〜18時。水曜休。@douguya_nobori

東京｜松ノ木

waffle house

用途がわからなくてもいい、アノニマスな名品がずらり。

photo_Kenya Abe, Satoshi Nagare (item)
styling_Yusuke Takeuchi (item)　text_Kentaro Wada (GINGRICH)



ワッフルハウス　2019年オープン。欧米のアイテムを中心に、最近は日本の骨董や工芸品の取り扱いも開始。そばを流れる善福寺川を横目に、散策途中に立ち寄るのもいい。●東京都杉並区松ノ木2－15－9。11時～15時（最終入店～14時）。不定休。@wafflehouse_tokyo、wafflehouse_women









秘密基地のような扉を開けると、奥に長い空間が開ける〈ワッフルハウス〉。2019年、高円寺駅前で古着屋〈ロスコー〉を営む多田勝也さんと、長年服飾関係の仕事に就いてきた宏美さん夫妻が杉並区松ノ木にオープンしたこちらでは、家具や器、置き物は勝也さん、洋服やアクセサリーは宏美さんのセレクトによるヴィンテージアイテムが揃う。

「明確なコンセプトをもって物を選んでいるわけではなく、純粋に自分たちが欲しいと思ったものを買い付けています。〝必ず売れるもの〟という基準では選んでいないから、お店に長く置いているうちに愛着が湧くこともある。手を離れると少し寂しい気持ちになったりしますね（笑）」

重厚な作りのアンティーク家具からポップなキーホルダー、はたまた用途不明の工芸品まで、アメリカやヨーロッパ各地で買い付けたアイテムは、年代もジャンルも千差万別。二人の審美眼にかなった品々が整然とディスプレイされた店内は、さながらヴィンテージアイテムの博物館だ。

上／隅々まで商品が並ぶ店内。何を手に取っても多田夫妻が朗らかに案内してくれる。下／小物がディスプレイされたキャビネット。

4

馬のために作られた重量級ブランケット。

1900年代初頭のアメリカで馬の背にかけていた厚手のブランケット。この生地特有のチェックとストライプを組み合わせた柄が面白いと勝也さん。各49,800円。

3

ヘタウマな顔つきの木彫りキリスト像。

手彫りの柔らかな表情が印象的なキリスト像は、ベルギーで手に入れたもの。「宗教色が強いヨーロッパならではの品。柔和な表情がお気に入りです」。各9,000円。

2

ポップカルチャー炸裂のコカ・コーラバッグ。

1970年代のアメリカで作られた、全面コカ・コーラの王冠でできたハンドバッグ。「開業当時から置いていて、愛着があるアイテム」と話す勝也さん。19,800円。

1

小物愛あふれるガラスの小さなボタン。

宏美さんがイギリスで見つけた1940年代のガラス製ボタン。細かなヒビを入れる加工がラメのような光沢を生む。宏美さんの小物愛を象徴する一品。各2,000円。

東京｜千駄木

FUN again

掘り出す楽しみを教えてくれるセレクト型リサイクルショップ。

photo_Masanori Kaneshita, Satoshi Nagare (item)
styling_Yusuke Takeuchi (item)　text_Sawako Akune



使い道がわからないからうれしいラスト。

ラスト＝靴の木型にアーティストの村上周が自由にドローイングを施した〈FUN again〉オリジナルアイテム。オブジェやウェイトなど使い方は自由自在！　22,000円。



ピンクの有孔ボードのウォール奥にあるレジスペースは、かつての喫茶店のキッチン部分。高島さん自身が大好きというグラフィックのいいレコードもたっぷり見つかる。

町歩きの人々で賑わう谷根千エリア。高島大輔さんと中山良子さんが営む〈FUN again〉があるのは、喧騒を少し離れた不忍通り沿い。かつては地元の人々の集う名喫茶だった空間に生まれた、家具・インテリア雑貨中心の〝リサイクルショップ〟だ。高島さんが話す。

「誰かにとって不要になったものが、次の誰かにとってはまた、日々に小さな楽しみや幸せをもたらしてくれるものになる。リサイクルショップのそういうところが元から大好きだったんです。店名にもその思いを込めました」

あくまで〝リサイクル〟ショップにしたかった、と高島さん。「何かを見つけて買って帰れる方が絶対うれしいから」と、あえて価格を手頃めに設定しているのも、リサイクルショップへの愛ならではのことだ。オープンから1年が過ぎ、週末の営業日には開店前から列ができることも少なくない。その分商品のサイクルも早く、ラインナップは週ごとにかなり変わる。〝掘り出す〟楽しみを求めて何度でも出かけたくなる店だ。



日本の家にやっぱりなじむ、民藝の花瓶。

民藝の名品に囲まれて育ったという中山さん。そのため店内には民藝の名品も見つかる。濱田庄司に師事、その後名を馳せた益子の陶芸家・島岡達三の弟子の作。32,000円。

**ドロシー・ハフナー
デザインのローゼンタール。**

高島さんが特に好きというドロシー・ハフナーデザインのローゼンタールのティーセット。器は1980〜90年代の日本で使われたものが中心。右／34,000円、左／6,500円。







**1点あるだけで部屋が変わる
グラフィック作品。**

グラフィックも好きという高島さん。リトグラフやペインティングなども多数展示販売する。こちらは岡本信治郎がゴッホの自画像を描いた1969年の作品。額装済み55,000円。



ファンアゲイン　2022年４月オープン。平日は買い付けにしっかりと時間を割きたいからと、現在店舗営業は週末のみ。来店客優先で、インスタグラムのDMからの通販にも対応している。●東京都文京区千駄木3−48−2。土曜11時〜19時、日曜12時〜18時のみオープン。@funagain_sendagi

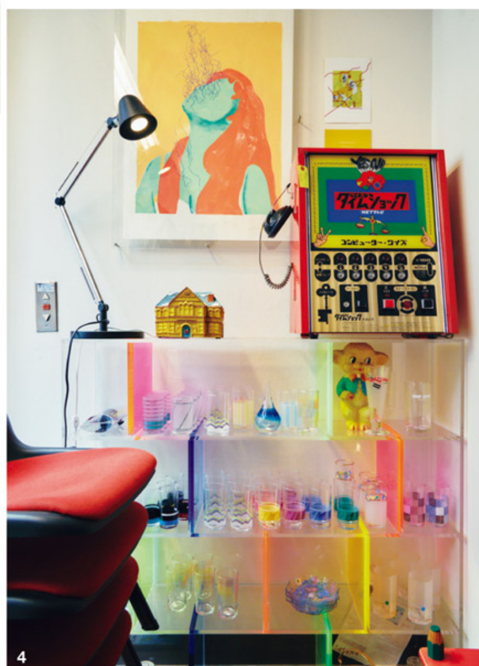
1 有孔ボードを使ったディスプレイ。そのまま自室のインテリアに取り入れたくなる。**2** 百戦錬磨のリサイクルショップのオーナーたちに混ざり、関東近圏の数か所のせりで仕入れてくる。椅子は力を入れて探すもののひとつ。**3** 民藝や土産物がディスプレイされたコーナー。**4** 印象的なアクリルの棚が彩る一角。スタイルミックスのお手本のような空間。





**ゆるめの絵付けが
ジワる有田焼。**

1960年代頃のものと思われる有田焼の小皿。「このゆる〜いタッチの絵付けに惹かれて仕入れたものです」と高島さん。絵柄違いで数点が揃う。1,800円。





**検索しても出てこない
1970年代のワゴン。**

「独特なキャスター、上の扉が開きすぎないように付けられたボールチェーン…すべてが素敵」と高島さん。「生産国を検索しても出てこなくて余計にときめきます」。36,000円。

ととん　2022年９月オープン。老舗家具店を母体とする資源循環の複合施設。アップサイクルの家具やサステナブルなアイテムを扱うサーキュラーショップ、リペア・DIYスペース、コワーキングフロアなどで構成。●富山県富山市問屋町1－9－7☎076・471・0565。10時30分〜18時（キッチン８時〜）。不定休。

富山｜富山

トトン

アップサイクルな家具をトレジャーハンティング！

photo_Masanori Kaneshita, Keiko Nakajima (2), ©yes (3)
text_Yoshinao Yamada



1



2



3





社会が課題とする環境への取り組み。そんな難しいテーマだからこそ楽しく向き合うことで持続可能性への考えを促すのが、富山の体験型複合施設〈トトン〉だ。

家具販売会社を母体とすることから、新しい家具の販売時に回収した古い家具をどうやって循環させるかという課題から始まったと責任者の増山武さん。店頭で二次流通する家具はクリーニングや修繕を行うのはもちろんだが、「時代の変化とともに廃棄されやすくなったデザインの家具も多い」ため、それらは時に大胆な加工のアップサイクルで再生。さらに家具を持ち込んで、自らリペアやDIYを行えるスペースも用意する。多くの家具を長く使うために、さまざまなアプローチを行う。

施設内のコワーキングフロアには、より大胆に加工された家具が並ぶ。施設運営にも携わるチームによるブランド〈イエス〉がカラーアクリルを使って再生した古家具、回収した家具のパーツを再構成した家具などもあり、これらも購入可能。地域に根ざして未来を考えるショップに注目したい。

上／名作家具も入り交じる、玉石混交なサーキュラーショップの家具コーナーで宝探しを。下／建物は建築家の大谷幸夫によるもの。



4

1 塗装や張り替えなどでアップサイクルした家具。

回収した家具は修繕やユニークなアイデアでアップサイクルすることで再販売を行う。こちらはレザー張りの椅子にグラデーション塗装を施し再生した一脚。28,000円。

2 パラグライダー生地をバッグに再利用。

役割を終えたパラグライダーの生地をバッグに再生させるブランド〈ホズバッグ〉のトートバッグ。再利用素材ゆえ、個体ごとに表情が異なる。左5,940円、右5,060円。

3 ポップに再生した〈イエス〉の和箪笥。

日本の伝統的な家具をアップサイクルする〈イエス〉は施設運営にも関わるチームによるブランド。補強修繕部分にアクリル板を使い、印象を一新。99,000円。

4 補修パーツを藍染めした廃棄予定の椅子。

東京のデザインブランド〈アオ.〉と共同開発した椅子。廃棄予定の椅子を補修し、塗装を剥離したあとにパーツの一部を藍染めした。座面は新規取り付け。110,000円。

新会員プログラム

BRUTUS
Casa iD

【カーサiD】

会員数
2万名
突破!

登録すると、会員限定の3大特典が手に入ります。
しかも無料。今すぐ、登録を!



【プレゼントの一例】《イームズ エレファント》!

特典 1

特別な体験ができる
スペシャル・イベントにご招待!

巨匠デザイナーのアトリエ訪問や美術展特別ご招待など

特典 2

編集部厳選、とっておきの
プレゼントが当たる!

話題の家電やライフスタイルホテルの宿泊券など

特典 3

発売日に編集部から
メールマガジンをお届け!

詳しくはcasabrutus.comへアクセス!



KARL LAGERFELD A LINE OF BEAUTY

photo_GION
text_Mika Yoshida & David G. Imber

カール・ラガーフェルドと安藤忠雄が対話する空間。

〈メトロポリタン美術館〉でスタートしたカール・ラガーフェルドの特別展。
会場デザインを手がけたのは、盟友・安藤忠雄でした。
曲線と直線でラガーフェルドの〝ラインの美〞を表現した注目の展示を巡ります。





カール・ラガーフェルド ア・ライン・オブ・ビューティ

KARL LAGERFELD: A LINE OF BEAUTY
（〜2023年7月16日）

The Metropolitan Museum of Art
Exhibition Design by Tadao Ando

ラガーフェルドが65年にわたりファッション界に刻んだ業績を伝える『ア・ライン・オブ・ビューティ』展。アーカイブ衣装やスケッチ、映像など約200点の展示品が。会場デザインは安藤忠雄。キュレーターはアンドリュー・ボルトン。●〈The Metropolitan Museum of Art〉1000 5th Ave., New York☎(1)212・535・7710。本展は10時〜17時（金・土・日〜21時）。水曜休。入館料30ドル。



右に見える曲線の壁には女性的な作品が並び、直線を描く左の壁には男性的な作品が。中央で高らかにそびえるのはシャネルの2018年春夏ウェディングアンサンブル。タキシードの上下にケープとスカートが融合する、ジェンダーを突き抜けたクリエイションだ。

曲線と直線で表現されたラガーフェルドの世界。






上／マッシブな構造体が優美な曲線を描く。「風刺」がテーマの部屋にはシュルレアリスム的「だまし絵」の衣装が。下／右は装飾／構造、左ではフローラル／幾何学を対比する。

稀代のファッションデザイナー、カール・ラガーフェルドの大いなる足跡を伝える『ア・ライン・オブ・ビューティ』展が、〈メトロポリタン美術館コスチューム・インスティテュート〉で始まった。空間デザインを手がけたのは、安藤忠雄。2019年にラガーフェルドが81歳で逝去するまでのおよそ30年もの間、厚い親交を結んできた盟友だ。

本展の会場に足を踏み入れると、デザイン画をスケッチし続ける手の動きを撮影した映像が目の前に広がる。頭上から流れるのは、紙の上を勢いよく走るペンの音。ラガーフェルドは生前、膨大なデザイン画を遺している。先鋭的な時代感覚やスピード感と、伝統への敬意といった相反する方向性が絶妙に同居するラガーフェルド。安藤は、この圧倒的な線画の重なりこそが彼の豊かな人間性を雄弁に物語ると述べている。その表現にあたって安藤はダイナミックな曲線と、リジッドな直線が重ね合わさる空間を生み出した。先ほどの映像に向かうと、右手の壁にS字曲線が直線へ巻き付くような図形が現れる。このモチーフこそが『ラインの美』展を貫く主題だ。

続いてラガーフェルドのデスクが登場。その上に積み重なるのは建築やデザインに関する本や雑誌、使いかけのパステルや手紙、スケッチや描き損じの紙。創造のインスピレーションや思考のプロセスまでもが生々しく伝わってくるようだ。そしていよいよ現れるのが、シャネルやフェンディ、クロエや自分自身のブランド、カール・ラガーフェルドで生み出してきた多種多様な作品群。いずれの部屋も、











1 会場に入ると、スピーディにスケッチし続ける手元の映像が現れる。**2** ラガーフェルドの声が流れるデジタルインスタレーション。**3**「未来的」と対になる「歴史的」セクションの展示品。**4** デスクの再現展示には安藤特集の建築雑誌も。壁には本人が着用したローブが。壁の合間からは別の空間が見え隠れする。

2　1
4　3

左右の壁で衣装のテーマを対比する。たとえばフェミニン／マスキュリン、ロマンティック／ミリタリー、ロココ／クラシック、具象／抽象、フローラル／幾何学模様など。そしてロマンティック／ミリタリーを例にとると、ロマンティックな衣装は曲線の壁に、ミリタリーは直線の壁に展示される。両者の真ん中には、ロマンティックとミリタリーを同時に内包し、昇華させた作品が高く掲げられている。対極にある異なる個性が互いにぶつかりながら補い合い、中央で美が炸裂するのである。

会場では、ジャンルや雰囲気の異なる音楽がエリアごとに流れている。選曲を手がけたのはランウェイや広告でラガーフェルドとよく組んでいたサウンドクリエイター、ミシェル・ゴベール。かと思うと、ある閉じたスペースからはラガーフェルドの笑い声が聞こえてくる……？　これは3か国語を操る彼が、言語によって人格が少し変わるという会話の中、ちょっとした言い間違いで笑ってしまった音声や映像が複数のiPhoneから流れる作品だ。英国の作家ベイリー・ウォルシュのインスタレーションである。

さて会場で歩みを進めていると、そこかしこに潜む「隙間」から、別の空間が思いがけず覗き見えるという意外な驚きも。同じ空間でも違う場所から目に飛び込むことで、初めて見るような新鮮さを覚えてしまう。これも本人をよく知っていた安藤ならではの、ラガーフェルドらしい「ウィット」の演出か。順路を何度巡っても新発見でわくわくさせられるこの展覧会、ラガーフェルドが訪れたら、さて一体何と言っただろう？





入口で出迎える直線と曲線は、古代ローマの神メルクリウスの「杖」にも通じる。スリットの内側から光が輝く、神聖な美のライン。

ラガーフェルドという人物を空間としてデザインすること。

文・安藤忠雄

ラガーフェルドと知り合ったのは1990年前後、ちょうど〈ヴィトラ・セミナーハウス〉など、海外での仕事が始まった頃です。最初に挨拶したのは、パリで何かの会合の時だったかな。その後、大阪の事務所に直筆の手紙が届いたんです。「住宅を設計して欲しい」と。それで、リヴ・ゴーシュの自宅を訪ねることになったんです。大きな石造りのお屋敷で、インテリアはアンティークのフランス家具で統一されていました。それで「ちょっとイメージが違うのでは」とも思ったのですが、数時間一緒に過ごして、そんな疑念は吹き飛びました。

ラガーフェルドが熱っぽい口調で語ったのは「…自分は時代と共に変わりゆくファッションの世界で、一過性のモノをつくっている。…対して、あなた方建築家の仕事は、時代に抗って、永遠の世界に挑んでいる。だから、私は建築を愛し、建築家を尊敬している…」と、こんな話だったと思います。彼がいかに多言語に堪能でも私は大阪弁しか話しませんから（笑）。直接のコミュニケーションは出来ない訳ですが、強い情熱、パワーみたいなものは凄く伝わってきましたね。それに応えようとする私の気持ちも通じたみたいで、すっかり意気投合しましたよ。以来、海の向こうの友人として、親しい関係を続けることとなったわけです。住宅は残念ながら、実現しませんでした。敷地を変えて二回計画して、ラガーフェルドもとても気に入ってくれていたのですが。

ラガーフェルドといえば、書店を構えて自ら出版も行うくらい、本好きで知られていますよね。確かに、自宅の壁面はほぼすべて、びっしりと書籍の詰まった本棚で覆われていました。先鋭的な時代感覚、スピード感が重視されるファッション界の旗手たる彼のイメージと、ゆっくりとした「本」のイメージ、その組み合わせを最初は意外に思ったのですが、むしろ、そういった二面性がラガーフェルドという才能の本質だったのかなと、今は思います。カメラをもって少年のように無邪気な顔を見せているかと思えば、老いた哲学者のような思慮深く憂いに満ちた表情を浮かべてみたり、クリエイティブなデザイナーである一方で、非常に戦略的なブランドの経営者であったり――。

今回の展示デザインでは、そんな多義的で奥深い、ラガーフェルドという人間とその作品の魅力を空間として表現することを目標としました。手がかりは彼の遺した膨大なデザイン画。それとキュレーターのアンドリューが投げかけてくれた「自由な曲線と厳格な直線」という主題。そうして考えたのが、ダイナミックにうねる曲線を描く壁と、場を切り裂くように走る直線の壁の組み合わせによる展示空間です。流れるような曲線の壁がアクティブで自由奔放な彼の一面を象徴し、直線の壁は、理知的で静謐さを好む、また別の一面を象徴する。この二極のぶつかり合い、重なり合いの中に生まれる緊張と解放の連続。その狭間にそれぞれに異なる個性の作品がポツポツと浮かび上がって見える。ラガーフェルドらしい遊び心も織り込みながら、20世紀最高のデザイナーに相応しい空間をつくりたかった。白とグレーが基調のモノトーンで、色は使っていません。インスタレーションはあくまで背景、主役は作品ですから。





右／ラガーフェルドが創設したパリの書店〈7L〉とのコラボも。ファッションや建築、ランドスケープの書籍以外に、愛用した銀色の手袋なども購入可。中／衣装と共にスケッチ画も展示。左／本展の模型。S字曲線と直線で構成されているのがわかる。



GUCCI ARTLAB

photo_Yuji Ono　styling_Fabio Pravato　hair_Miki Masue　make-up_Tadatoshi Horikoshi
coordination_Kiyoe Sakamoto　text_Kyoko Matsumoto

グッチの伝統と革新を支える〈グッチ アートラボ〉を橋本愛と訪ねました。

グッチのルーツであるイタリア・フィレンツェ郊外に佇む、
伝統技術の継承と新たな挑戦や実験を行う〈グッチ アートラボ〉。
グッチの真髄が詰まったこの研究所を特別に見学することができました。

PLACE

Gucci ArtLab

レザーグッズやシューズのプロトタイプとサンプルの製作、新素材やパッケージの研究開発を行う。サステナビリティにも注力し、伝統技術の継承などを目的としたトレーニングを提供する「Gucci Ecole de L'Amour」も。

PRODUCTS

GUCCI BAMBOO 1947

第二次世界大戦後、良質なレザーやメタルが手に入りにくい時代にフィレンツェの職人たちが当時日本から仕入れた竹をハンドルにあしらったことから歴史が始まる。多くのセレブリティに愛されるアイコンバッグ。

バッグ《グッチ バンブー 1947》550,000円、シルクサテン素材のクラシカルなボウタイブラウス159,500円（参考価格）、ツイードワイドパンツ330,000円、ホースビット付きパンプス118,800円（以上グッチ／グッチ ジャパン クライアントサービス☎0120・99・2177）。

《グッチ バンブー 1947》に宿るクラフツマンシップを橋本愛が体験。

MAISON DE L'AMOUR

MAISON DE L'AMOUR

GUCCI BAMBOO 1947

BAMBOO

【バンブー】

熟練の職人が作りだす、唯一無二のバンブーハンドル。









1 勢いよく上がる炎とそれを操る熟練の技を目の前に、橋本さんも真剣な表情。**2** 同じものが一つとしてない天然のバンブー。熱しても元に戻ろうと反発するため、専用の鉄枠にはめて何度も形づけていく。**3** バンブーに艶と強度を与える特別な液。塗布すればするほど深みのある色になる。**4** 仕上がり具合の確認も大切な工程。

第二次世界大戦が終わった直後の1947年。バッグ作りに欠かせない良質なレザーや金属類が不足していた時代に、グッチのフィレンツェの職人たちが目をつけたのがしなやかさと頑丈さを併せ持つ日本の竹、バンブー。創設者のグッチオ・グッチが彼らのアイデアを取り入れ、瞬く間に世界中のセレブリティを魅了し、一躍ブランドを象徴するデザインとなった。

今回、橋本愛さんと訪れたイタリア・フィレンツェにある〈グッチ アートラボ〉には、バンブーだけを扱う研究室「バンブールーム」がある。ここでは、形、長さ、色など、さまざまなバンブーのサンプルが作られている。

その作業は、まず選別された天然の竹を火で熱することから始まる。「火を近づけすぎると燃えてしまうし、離しすぎると曲げられない。頼るのは、経験による自分の勘だけです」と語るのはこの道31年というベテランの職人。丁寧にゆっくりと少しずつ、優しく手で曲げられたバンブーを、今度は色づけのために再び火にかける。この素材には浅い色合いを、この形には濃いものを。クリエイティブ・ディレクターからのリクエストは毎回多岐にわたるという。それに絶妙な火加減と力加減で応えていく職人技は、ただただ圧巻だ。

色づけが終わると次はバンブーに艶と強度を与える作業に入る。ここではバンブーに艶と強度を与える、誕生時から変わらない特別な液を丁寧に叩くように塗布。その後専用のオーブン窯に入れ乾燥させたのち、裁断をしてようやくハンドルが完成する。

ブラウス231,000円、コート357,000円、バッグ396,000円（以上グッチ／グッチ ジャパン クライアントサービス☎0120・99・2177）

CUT & STICK

【裁断と接着】

76年間変わることのない型紙と木型、そして伝統の技。









1「サルパ」と呼ばれる、レザーと再生紙を混ぜて圧縮した補強芯を大理石の台の上で裁断する。2 1947年当時から変わらないピンク色の型紙を使用。3 木型にはめ合わせ、形を整えながら立体的に組み立てていく。4「サルパ」とレザーを貼り合わせボディの土台が完成。職人のあまりの手際の良さに橋本さんも思わず「すごい」と一言。

さまざまな機械が並ぶ、真っ白で無機質な空間。所々に置いてある色鮮やかなピンク色の収納箱が印象的なオープンスペース、その名も"サローネ"の一角で、バッグの組み立ては行われている。

まず職人が取り出したのは、デビュー以来変わっていないという《グッチ バンブー 1947》の型紙だ。形もさることながら、このピンク色も1947年当時から変わらないブランドアイデンティティの一つだ。先ほど述べた収納箱のピンクも実はこの型紙の色をイメージしている。

《グッチ バンブー 1947》の丸みを帯びた流線形のフォルムを生み出す型紙は、やはり独特な形をしている。それをレザーと再生紙を混ぜて圧縮した「サルパ」と呼ばれる補強芯の上にのせ、手際よく裁断を行う作業が始まる。

「この作業は必ず大理石の上で行います。少しでも作業台が浮き沈みすると、美しい形には決してなりません」とベテランの職人。

裁断を終えた「サルパ」にレザーのトリムを接着。バッグの四隅にあるカーブに皺が寄らないように接着していくのは気を使う作業だ。また一発で芯の中心を見極め、左右対称に木型に「サルパ」を合わせていくのは簡単そうに見えてかなり難しいテクニックだという。

「素早く正確に。一つ一つの作業を完璧にこなしていく職人の方の手腕にただ感動しました」と語る橋本さん。

何より驚かされたのは、これらすべての工程を、接着剤が乾ききってしまうまでの10分間で終わらせてしまうという匠の技だ。

SEW

【縫製】

最後の仕上げは、アルティジャーニ（職人）の美しい手縫いで。






1 慎重に丁寧に、経験豊かな職人でもカーブ部分は細心の注意を払う。**2** あまり見慣れない、立ちながら使うタイプのミシンはカーブも難なく縫い進められる。**3** 職人によるハンドステッチを終えたバッグ。ステッチのあまりの美しさに橋本さんもうっとり。**4** ハンドル付けもやはり手作業。金具を強く締めすぎると竹が割れてしまう。

土台の接合が終わると、バッグの強度をより高めるために、縫製を行う。《グッチ バンブー 1947》の縫製には、立ちながら操るミシンを使用。湾曲部分を一気に縫い進めることができる。たとえ同じ型のバッグを作る時でも、素材によって使うミシンを変える。形や素材、それぞれの特性を見極めるのも職人の大事な仕事なのだ。

ミシンでの縫製を終えると、バッグの正面のフラップとバンブーのクロージャーをつける作業に移る。クロージャーの裏にはスチール製のメタルを当てて強度を高め、フラップ部分の緩やかな膨らみには、「サルパ」とは異なる中芯を貼り合わせる。この芯もバッグの強度を高める目的で使われているが、同時にこのバッグ独特の、丸みを帯びた優美なフォルムを生み出しているからユニークだ。

ボディの最終仕上げは、アウトラインの手縫い作業。手縫いを施すことで強度が一層増すだけでなく、バッグ自体の美しさが断然変わってくる。そしてバンブーのハンドルを手作業で取り付けて《グッチ バンブー 1947》がようやく完成。ちなみに朝から晩まで、何人もの職人が絶えず作業をしたと仮定しても、1つのバッグが完成するまでに最低でも1日といくらかの時間が必要だという。

時間をかけ、丹精込めて作られるバッグ。卓越した職人技はもちろん、その伝統を次世代へと継承するための人材教育、革新のための研究と開発など、〈グッチ〉が掲げているブランドアイデンティティのすべてがこのバッグには包み込まれていた。

完成したバッグに職人の体温を感じることができました。

建物の中に足を踏み入れると、まるで美術館のように整然とした美しい作業スペースが並ぶ広大な空間に驚きました。

訪れたスペースすべてがそれぞれに興味深く、そこで目にした数々の職人技の素晴らしさに感銘を受けました。特に《グッチ バンブー 1947》の最後の工程であるハンドステッチは深く印象に残っています。職人の方が手縫いで仕上げているのを目の当たりにし、バッグ一つ一つに職人の体温を感じられるようになり、またそれぞれのバッグに表情があることに気づきました。

一つのものを手間暇かけて丹念に作り上げる。グッチの歴史を物語る職人技とそれを未来へつなげる姿勢。そんなブランドの信念を体感できた素敵な時間でした。

――――― 橋本 愛



はしもとあい 1996年生まれ。2010年『Give and Go』でデビュー。2012年映画『桐島、部活やめるってよ』では、日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。写真、コラム、ファッションなど多方面で幅広く活躍している。

VEUVE CLICQUOT
LA GRANDE DAME 2015
× PAOLA PARONETTO

太陽のように明るい色彩をまとった ヴーヴ・クリコ《ラ・グランダム 2015》。

ヴーヴ・クリコの最高峰のシャンパーニュ《ラ・グランダム》が、
〝色彩の巨匠〞と謳われるイタリアの現代アーティスト、パオラ・パロネットとコラボレーション。
特別なデザインの《ラ・グランダム 2015》が誕生しました。

text_Housekeeper



ヴーヴ・クリコ《ラ・グランダム 2015》×パオラ・パロネット

エレガントな風味でありながら、新鮮なミネラル感とジャスミンなどの花の香りが漂い、フルーティーな香りへと変化。ブレンドはピノノワール90%、シャルドネ10%。750mℓ 29,370円。全国の主要百貨店ほかで取り扱い。







1 スペシャルボックス製作の背景には、パオラが培った独自のペーパークレイの技術がある。粘土にセルロースファイバーを混ぜることにより、軽く、耐久性のあるオブジェを生み出した。**2** 86色の中から6色がボックスに使用された。**3** 自身の代名詞とも言える段ボールをモチーフにしたペーパークレイ《Cartocci》シリーズのアプローチを本プロジェクトに起用した。

18世紀にフランス・ランスで創業した〈ヴーヴ・クリコ〉。27歳の若さで亡き夫から事業を引き継いだマダム・クリコが発展させた、シャンパーニュを代表する老舗メゾンだ。選ばれたグラン・クリュ畑のブドウから美しく繊細なシャンパーニュを作り出す〈ヴーヴ・クリコ〉は、シャンパーニュ カテゴリーを超えた「ラグジュアリー・ブランド」として人々の生活に彩りを与えてきた。そして〈ヴーヴ・クリコ〉の中でも「ラ・グランダム（偉大なる女性）」と呼ばれたマダム・クリコへのオマージュを込めて作られる最高峰のシャンパーニュが《ラ・グランダム》だ。

このたび誕生した《ラ・グランダム 2015》は、マダム・クリコがかつて描いたビジョンに忠実に、90％のピノノワールと10％のシャルドネで構成されている。ピノノワール90％というのはとてもチャレンジングな試みで、それを成り立たせるのがブドウの産地だ。歴史的グラン・クリュであるヴェルゼネ、ヴェルジー、アンボネ、アイ、アヴィズなどで栽培されたブドウを使用。暑い年となった2015年を表現するような、カラフルで明るい、チャーミングなヴィンテージに仕上がった。

《ラ・グランダム 2015》のギフトボックスは〝色彩の巨匠〟と謳われるイタリアの現代アーティスト、パオラ・パロネットとコラボレーション。パオラは自然からインスピレーションを受け、オリジナルのカラーパレット86色中から太陽のように明るい6色のスペシャルギフトボックスを作成した。

「ヴーヴ・クリコとのコラボレーションにより新しい世界を切り開くことができました。マダム・クリコの太陽のような明るさと大胆さを融合させたヴィンテージシャンパーニュに添える作品を彼女へのオマージュとして捧げることができ光栄です」（パオラ）。マダム・クリコとパオラ・パロネット、二人の〝偉大なる女性〟のコラボレーションは《ラ・グランダム》に新しい色を与えている。

EVENT REPORT

和歌山の〈ヴィラ アイーダ〉と協働し繰り広げられた美食の宴。

《ラ・グランダム》は「グラン・クリュのブドウにはグラン・クリュの野菜を」というマダム・クリコの信念のもと、「ガーデン・ガストロノミー」という美食体験を提唱している。2023年５月末に開催された「ラ・グランダム 2015 POP-UPガーデンラウンジ」は、和歌山県の〝予約が取れないレストラン〟として名高い〈ヴィラ アイーダ〉小林寛司シェフが《ラ・グランダム 2015》のペアリング料理を考案。ガーデン・ガストロノミーの先駆けである小林シェフの料理と最高峰のシャンパーニュが共鳴して作り出す特別な３日間は、パオラ・パロネットの世界観を表現した色彩豊かな空間で行われ、大盛況のうちに終了した。







1〈ヴィラ アイーダ〉小林寛司シェフ。「《ラ・グランダム 2015》の繊細で華やかなイメージからインスピレーションを受けて考えました」。**2** ホワイトアスパラをメイン素材にした一品。**3** クレイを混ぜた塩窯で焼き上げた軍鶏に根セロリ、ふきのとうを添えた。

Discover Architecture Tour

櫻井翔の

ケンチクを学ぶ旅。

嵐の櫻井翔さんが、自ら日本全国の気になる建築まで足を運び、その魅力や驚き、感動を誌面でリポートします。

さくらいしょう １９８2年生まれ。99年に「嵐」のメンバーとしてデビュー。ドラマや映画のほか報道番組『news zero』のキャスターも務める。テレビ番組『1億３０００万人のSHOWチャンネル』『櫻井・有吉THE夜会』が好評放送中。

車寄せを兼ねるピロティ。床は御影石の小叩き仕上げで、屋根のない部分のみ玉石敷き。穴なしとあり２種のテラコッタを積み上げた格子状の壁の向こうに中庭が広がる。

vol.135

繊維の町の盛況を今に伝える丹下健三の初期作〈墨会館〉。

愛知県唯一の丹下作品、かつ国の登録有形文化財である建築が、耐震補強・改修工事を経て、2014年、生涯学習施設として再生。〝隠れた名作〟とも評されるモダニズム建築を堪能しました。

photo_Takemi Yabuki (W)　styling_Nao Ishikawa
hair & make-up_Yoshinori Takeuchi
cooperation_Yoshikuni Shirai
text_Ai Sakamoto







1 事務室棟2階のテラス。**2** 田中さんから説明を受ける櫻井さん。**3** 集会室棟ロビーから中庭を見る。正面に事務室棟、右手にピロティがある。**4** 壁上部に設けられたスリットから自然光を取り込む。天井には不燃加工した木材を使用。**5** 手すりと踏み板にケヤキが用いられた階段。







愛知県北西部に位置する一宮市は、日本最大の毛織物産地・尾州の中心をなす町。1950年代、織機がガチャンと動くたびに万の金が儲かるとのたとえから〝ガチャマン〟と呼ばれた好景気に沸いた土地でもある。繊維の染色整理加工を営む艶金興業の本社屋〈墨会館（旧・墨記念館）〉は、そんな好況を象徴するように1957年竣工。社長の名字、墨から命名された。

設計を担当したのは当時、人気急上昇中の丹下健三。丹下作品8作目となる櫻井さんも、「これまで訪れた丹下さんの建築の中で最も竣工年が古いんですね。コンクリート打ち放しということもあり、〈香川県庁舎〉（2011年7月号で取材）を思い出します」と振り返る。

原設計の意図を汲んだ改修を行う。

〈墨会館〉が建つのは、直角台形をした敷地。織機の音が鳴り響く工場に囲まれ、トラックの往来も激しかったことから、防音対策として周囲に壁を巡らせている。内部は、2階建ての事務室棟と平屋の集会室棟、2棟をつなぐピロティがあり、それらがコの字形に中庭を囲む構成だ。

「2本の梁からなるダブルビームの大梁やコンクリート打ち放しなど、丹下さんの初期作品における特徴が色濃く見られることから、2008年に国の登録有形文化財に指定。一宮市が取得した後に改修工事を施し、14年から小信中島連区の公民館として活用しています」と同市生涯学習課の田中純一さんが教えてくれた。

改修には、丹下都市建築設計も監修として参加。特徴的なのはピロティの耐震補強だ。構造である4本のコンクリート柱の周囲を5cm削った後に補強用の鉄筋で巻き、厚さ10cmのコンクリートを増し打ちする「巻き立て補強」を採用し、オリジナルに近い意匠を保っている。これには櫻井さんも驚きを隠せない。

「他の柱や壁同様、表面に杉板型枠による木目も施されていて、とても自然なので気づきませんでした。中庭との間にある、この格子状の壁も、テラコッタを一部積み直したとか。よく見ると、柱の面と床の目地が揃っていてすごい！」

外に閉じ、内に開く建築。

「まずはホールに行ってみましょうか」

田中さんの声に促され、生涯学習セン

訪れた場所
墨会館
Sumi Memorial Hall

1957年竣工・2014年改修。設計：丹下健三。会議室や調理実習室などを有する公民館と、生涯学習センターの2つの機能を持つ。建築や改修に関する資料などの展示もあり。●愛知県一宮市小信中島南九反11－1☎0586･62･5150。見学時間：10時～12時、13時～16時。公民館棟1階と集会室棟を自由に見学できる（2階と使用中のエリアは不可、1組5名まで）。https://sumikaikan.jp

設計した人
丹下健三
Kenzo Tange

1913年大阪府生まれ。38年東京帝国大学（現・東京大学）工学部建築科を卒業後、前川國男建築設計事務所入所。46年～74年東京大学で教鞭を執り、槇文彦、磯崎新、谷口吉生らを輩出する。61年丹下健三＋都市・建築設計研究所開設。建築と同様、都市計画にも力を注ぐ。代表作に〈広島ピースセンター〉〈香川県庁舎〉〈国立代々木競技場〉など。プリツカー賞など受賞多数。2005年没。


やや内側に傾いた外壁は、寒水石洗い出し。ガーゴイル（外壁から突き出した雨樋）が特徴的だ。

ターとして活用されている集会室棟へ。180名まで収容できる集会室は2層吹き抜けになっている。かつては用途に合わせて、天井照明の高さやロビーとつながるパーティションを電動で操作。中庭に面したロビーのスチールサッシも開閉可能で、集会室から中庭までを開け放ち、ガーデンパーティを催していたという。

「壁に囲まれた外観の閉鎖的なイメージから一転、内部はこんなに明るくて開放的なんだ！　天窓や壁の上部に設けられたスリットから自然光が入るのも印象的。周囲の音や視線を遮りつつ、中庭から風や光を取り込む、この心地よさは訪れてみないとわかりませんね」と櫻井さん。

一方、田中さんは「これはあくまでも伝聞ですが……」と前置きしたうえで、次のように話してくれた。

「施主であった墨敏夫社長は、5という数字に思い入れが強く、その希望を汲んだ丹下さんが、庭に置く石や木の数（木は現在2本）、さらには階段やテラコッタの段数を5にしたと言われています」

これには、さすがの櫻井さんもビックリ。「建築家のプライドみたいなものを感じます」と目を丸くしていた。

日本の伝統をコンクリートで表現。

最後は、1階部分を公民館に転用した事務室棟へと向かう。ホワイエで建築や改修工事に関する展示や、スチールサッシに組み込まれた雪見障子のような樹脂板を見学すると、通常は一般公開されていない2階へ特別に案内してくれた。

「ここにあるのは、かつての会長室と社長室、会議室。各室を取り囲むテラスには和風建築に見られる勾欄（手すり）が設置され、屋根の軒裏には垂木（棟木から軒桁に渡して屋根を支える木）を思わせる片持ち梁がリズミカルに配されています。日本の伝統建築をコンクリートで表現しているんですよ」と田中さん。

周囲に広がる街並みをテラスから眺めながら、「すごく忙しい時期だったにもかかわらず、意欲的にいろいろなことに挑戦している丹下さんの強い情熱を感じますね」と櫻井さんも感心する。

「70年近く前に、このモダンな建築が建てられたのはもちろん、それが動態保存されていることがすごい。今も昔も、〈墨会館〉はこの地域の人たちにとって〝誇れる建築〟なんでしょうね」

Sho’s Report

繊維の町に暮らす人々の〝誇り〟を感じました。



話の中に何度も出てきた「ガチャマン」という言葉をはじめ、終始興味深い取材でした。竣工時、コンクリート打ち放しを初めて見た人が「いつ完成するんだろう？」と言ったという逸話からもわかるように、壁を使った表現や和の意匠もかなり攻めた印象です。これまで見てきた丹下建築に比べるとスケールは小さいけれど、建築家の熱量は半端じゃない。訪れてわかったのは、日本の繊維業を担ってきたという町の人たちの自負が形になった建築だということ。それは登録有形文化財としての価値を超えているんだと思います。

ジャケット374,000円（予定価格）、Tシャツ48,400円、デニムパンツ97,900円（予定価格）、シューズ104,500円（以上DOLCE&GABBANA／ドルチェ＆ガッバーナ ジャパン☎03·6833·6099）。


1

1 樹脂板で雪見障子風に仕上げた事務室棟ホワイエの開口部。2 信楽焼の大判タイルを使った壁も見どころ。3 柱の幅に合わせて2本の梁が延びるダブルビーム。4 丹下がデザインした成形合板の家具を〈天童木工〉が復刻。5 会長室の造作家具。欄間のような上部はガラス張り。


2


3


4


5



集会室の舞台に腰かける櫻井さん。今は使えなくなったスクリーンが奥に見える。「設備が電動で動かせたり、スクリーンがあったりと、艶金興業の先進性が感じられますね」

古今東西

かしゆか商店

店主兼バイヤーの「Perfume」・かしゆかが毎号買い付け。日本各地の伝統工芸の「粋」を集めたバーチャルショップ。



Buying No.62

NIKKO GETA

【日光下駄】

下駄でもあり草履でもある
古くて新しい履物。



日常を少し贅沢にするもの。日本の風土が感じられるもの。そんな手仕事を探して全国を巡り続ける、店主・かしゆか。今回出会ったのは、栃木県日光市の伝統工芸「日光下駄」。日光東照宮に詣でるために考えられた、草履型の履物です。



CRAFTED IN JAPAN

photo_Keisuke Fukamizu
hair & make-up_Masako Osuga　editor_Masae Wako



約35年前、伝統技の後継者不足を知ってこの道に入ったという山本政史さんの工房で。コットンの足袋ソックスと合わせて日光下駄を履いたかしゆか店主。「足に当たる部分が柔らかくて気持ちいい！　安定感もありますね」

かしゆか　音楽ユニットPerfumeメンバー。８月は『SONICMANIA / SUMMER SONIC』などに出演。NHK『謎解き！ヒミツの至宝さん』MCも。栃木・大谷石地下採掘場跡の異次元空間が好き。@kashiyuka.pfm_000003







右上／伝統工芸士の山本政史さんと。右下／経糸は麻紐。昔はいぐさを使っていたが、丈夫にするため改良。左／緯糸は細く割いた真竹の皮。右手で編み、左手で押さえる。

「日光下駄は下駄でもあり草履でもある。日光東照宮へ参拝する人のために生まれたものなんですよ」

と話す山本政史さん。長年にわたってこの履物を作り続けている、日光下駄唯一の伝統工芸士です。

「江戸時代、神社仏閣の境内に入る際は、格式ある草履を履くのが決まり。下駄ではダメだったんです。ところが日光のお寺は坂道が多く、冬は雪も降るので草履では具合が悪い。そこで、坂道や雪道でも歩ける台木を草履の下に縫い合わせた〝御免(ごめん)下駄〟が生まれました。明治時代になって台木の形をさらに改良したのが、庶民にも愛用される〝日光下駄〟です」

その台木に使われるのは、軽くて固い日本の桐。今の人が履いても歩きやすく丈夫な素材です。

「草履表(ぞうりおもて)の材料には吸湿性の高い真竹の表皮を使い、鼻緒の中に詰めるのは無農薬のもち米の藁(わら)。素足で履くことも多いので、安全なものを使いたいんです」

そんな山本さんが見せてくださったのは、草履表を編む工程。まずは太い麻紐を道具にセットして、ベースになる経糸(たていと)にします。一方の緯糸(よこいと)は、真竹の皮をいぶして細く割(さ)いたもの。右手の指先で竹皮の両端を丸めながら編み進めつつ、左手の指先を複雑に上げ下げして、編んだ部分をしっかり押さえます。時折、草履表を台木にあてているのは、シルエットが揃っているかどうかを確認するためです。

「草履のカーブが歪んでいたり小さかったりすると、下の台木が見えてしまう。その場合は、最終段階まで編んでいたとしても、ほどいて編み直します。これをするか







右／踵の部分は鎚で叩いて平らにする。左上／山本さんが改良した独自の形。裏に薄いゴムを張って滑りにくくした。左下／「染色した竹の皮もきれい！」とかしゆか店主。

どうかが技量というもの。ちゃんとやれば良い下駄になる。いい加減に作ればそれなりのものになる。作り手の心もちが反映されるのが、手仕事の面白いところです」

編みあげた草履表は、踵（かかと）の部分を金鎚（かなづち）で叩いて平らにしてから、長さ10㎝の太針に通した麻糸で台木に縫い付けます。縫い目が編みの中に隠れるよう調整したり、草履が浮いてこないよう、台木の踵部分が少し窪ませてあったり、細かい配慮もすべて履く人のため。

今回買い付けたのは、台木の高さを抑えてソールの面積を増やしたタイプ。安定感があって歩きやすいし、何より足裏への当たりがとても柔らかいんです。伝統の技を使いながら進化させた、古くて新しい履物。素足でも気持ちいいし、カラフルな靴下と合わせて普段履きにしてもかわいいですよね。



日光下駄

作／山本政史

左（p.144も）／竹の表皮で編んだ草履表は、夏涼しく、冬温かい。女性用。26,400円〜。サイズや鼻緒の色などはオーダー可能。右／草履表に、県内の染色家が染めた竹皮を使ったもの。●やまもとまさし／栃木県日光市川室23－4☎0288・21・8966。



MIRACLE CLOSET No.200

今春、東京駅八重洲口前にオープンした〈ブルガリ ホテル 東京〉。
大都会を一望する45階ワンフロアを占めるルーフトップバーには、
イタリアのクラフツマンシップが息づくラグジュアリーな空間が広がる。

fashion director_Tomoki Sukezane

photo_Junji Hata
hair_hiro TSUKUI (Perle management)　make-up_yUKI (yUKI TAKESHIMA／MØ)
model_Thomas (CDU), Sia (WIZARD)　editor_Akane Maekawa



ブルガリ ホテル 東京／ブルガリ バー

〈ブルガリ ホテルズ & リゾーツ〉が世界に展開する８番目のホテルとして東京にオープン。ホテルは〈東京ミッドタウン八重洲〉の40階から45階に位置し、約400㎡を誇るスイートルームを含む全98室を有する。設計デザインは、〈ACPV アーキテクツ アントニオ・チッテリオ・パトリシア・ヴィエル〉が担当。ホテル全体を通し、イタリアのクラフツマンシップに日本の伝統を融合させたモダンな空間が広がる。45階のルーフトップを占めるのは、東京を一望できる広いガーデンテラスを備える〈ブルガリ バー〉。イタリアの庭園に佇むあずま屋をイメージしたというバーは、屋内外をガラスでシームレスにつなぐ開放感のあるデザイン。イタリアのビザッツァ社に特注したガラスモザイクがバーカウンターの壁面を彩り、チッテリオが手がける〈フレックスフォルム〉の家具とともに、地中海の優雅でリラックスしたムードを演出する。●東京都中央区八重洲2−2−1☎03・6262・3333。ブルガリ バー：12時〜24時。https://www.bulgarihotels.com/ja_JP/tokyo

上品さと力強さが共存するサンローランのモノトーンスタイル。パワーショルダーや流れるようなラインが今季を特徴づける。前見開き／メンズ：ジャケット418,000円、シャツ198,000円、パンツ170,500円、ブーツ181,500円。ウィメンズ：ドレス803,000円※参考価格、シューズ148,500円。右ページ／トップ286,000円、パンツ286,000円。左ページ／コート561,000円（以上サンローラン バイ アンソニー・ヴァカレロ／サンローラン クライアントサービス☎0120・95・2746）。





MILAN DESIGN WEEK 2023 SPECIAL REPORT

ミラノ・デザインウィーク2023 スペシャルリポート!

世界最大規模のインテリアとデザインの祭典が今年も開催された。
実に4年ぶりの4月開催であり、例年以上に賑わった本展。
注目のブランドのデザインニュースをいち早くリポートします。



SPECIAL REPORT 01

LOUIS VUITTON

各国の著名デザイナーと協働し、"旅"を新解釈したデザインが集結。

ミラノ屈指の瀟洒な建築、パラッツォ・セルベローニを舞台に、「オブジェ・ノマド コレクション」の新作、《パビリオン・ノマド》、そしてマーク・ニューソンとのコラボが初披露されました。

photo_Francesco Dolfo
text_Housekeeper

中庭に建てられたパビリオンでは、メゾンのアイコンであるトランクを、マーク・ニューソンが新たに解釈した《キャビネット・オブ・キュリオシティーズ by マーク・ニューソン》が初登場。

カラー展開は全3種類。こちらはレッド、グリーン、ブルーのトリコロールが印象的な構成。レザーキューブは取り外し可能で、使い手の好みでパーソナライズな組み合わせが楽しめる。世界40個限定。

CABINET OF CURIOSITIES
by MARC NEWSON

マーク・ニューソンの新しいトランクが発表されました。





長年にわたるコラボレーションを育む、ルイ・ヴィトンとマーク・ニューソン。2023年のミラノ・デザインウィークで発表したのは、メゾンのアイコンであるトランクを再解釈した《キャビネット・オブ・キュリオシティーズ by マーク・ニューソン》だ。

モノグラムで覆われたハードな外装は従来のトランクだが、その目的はトラベルアイテムの収納と保護ではなく、使い手が旅の思い出や好きなオブジェを配置できる、可動式のディスプレイケース！

トランク内部には3サイズ、19個のレザーキューブが収納され、さらにキューブは取り外しが可能なので、コンビネーションはなんと1000通り以上、ユーザーはパーソナルな組み合わせを楽しめる。また、トランクとして初めて180度の開閉を可能にした。

ところで、「キャビネット・オブ・キュリオシティーズ」は日本語で「驚異の部屋」と訳され、そもそもは15世紀ヨーロッパに始まった世界各地の珍品を集めて陳列した部屋を意味する。博物館の前身ともいえるものの、学術的というより驚異や好奇心によって収集された品々が陳列されていた。

そう考えると、ニューソンがこの《キャビネット・オブ・キュリオシティーズ》に見立てた、ルイ・ヴィトンの伝統とサヴォアフェール（匠の技）が凝縮した新しいトランクは、部屋の中の小部屋であり小宇宙のようなもの。そこに現代のプライベートな世界観をディスプレイできる、となると高揚感がマックスに上がることは間違いなさそうだ。

中庭に出現した有機体のような《パビリオン・ノマド》。「マルク・フォルヌ／ザベリーメニー」のデザインで、1,600枚を超える極薄のアルマイトシートを複雑に組み合わせて形成された。

Pavilion Nomad
by MARC FORNES

重厚な建築の中に現れた有機的なパビリオン。



《パビリオン・ノマド》は、ルイ・ヴィトンによる恒例の展示の一つ。2013年から、シャルロット・ペリアンの〈限りなく水に近い家〉（1934年考案）、マッティ・スーロネンのUFO住宅〈フトゥロ・ハウス〉（1968）、坂茂の〈紙の仮設スタジオ〉（2004）など、過去と現在をつなぐノマディックな建築を再現してきた。

そして今年、歴史的建築の中庭に出現したのは、サンゴのような、はたまた自立するバブルのようなインスタレーション。この構造体、一部は1㎜以下の薄さにまで軽量化した1600枚を超えるアルマイトシートを複雑に組み合わせて形成したもの。まさに移動式と呼ぶにふさわしい《パビリオン・ノマド》であり、ルイ・ヴィトンの最新ビジョンだ。内部は、孔から差し込む光のパターンが時間とともに変化する、内と外が混ざり合う美しい空間だ。

プロジェクトを手がけたのは、サイトスペシフィックな構造物の数々を手がける、ニューヨーク拠点のオフィス「マルク・フォルヌ／ザベリーメニー」。オフィスを率いるフランス人、マルク・フォルヌは、建築の皮膚、支持体、形、そして経験を一つのシステムに統合する構造体をデザインすることで世界的に注目される。

会期中には、アトリエ・オイによるライブワークショップのほか、新書『ルイ・ヴィトン スキン』の発表、「オブジェ・ノマド」のデザイナーによるトークイベントが開催された。まさに、生きた《パビリオン・ノマド》としての存在感を示したのである。

ルイ・ヴィトンが「オブジェ・ノマド コレクション」をスタートした当初からのパートナー、アトリエ・オイの3人。頭上には南米に生息する鳥から発想を得た新作モビール《ケツァール》が舞う。

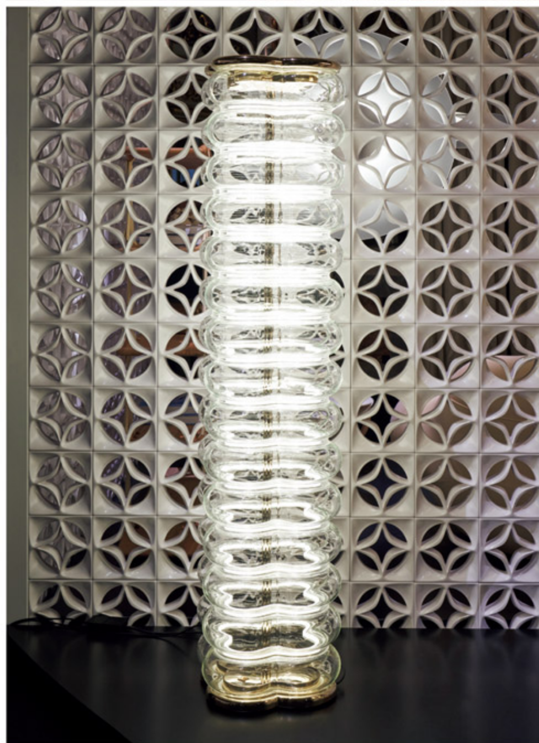
OBJETS NOMADES

〝旅〟の概念を覆す、人気デザイナーの新作が続々。











2　1
4　3

1
Spiral Chandelier / Atelier Oï

シャンパンカラーのメタルリングの構造に、両面でカラーが異なるレザーストラップをツイストし36本をあしらったシャンデリア。中国・成都のルイ・ヴィトンストア内レストラン〈ザ・ホール〉のためのシャンデリアを、高さ1.2mにコンパクト化し、住宅用にアレンジしたモデル。カラーは３色展開。

2
Cocoon / Campana Brothers

揺れる繭のようなシートに身を任せ、リラックスした時を過ごすためのハンギングチェア《コクーン》。これまでシックな装いだった《コクーン》に今回、外装とクッションをシルバーカラーのミラーモザイクで覆ったディスコボールバージョンが登場！　ハンギングチェアのまったく新たな楽しみ方を提案した。

3
Bounce Armchair / Raw Edges

平面を３次元オブジェへと変換する、というロー・エッジズらしいコンセプトを、流れるようなフォルムへ昇華させた《ビンダ・アームチェア》。レザーのボディ、ベルベットのシート、コントラストカラーのパイピングでアクセントを効かせたアームチェアはまるで機能する彫刻作品。５つのカラーコンビネーションで展開。

4
Flower Tower / Atelier Biagetti

イタリア製の透明な吹きガラスのトーテムが、光のオンオフを問わず存在感を放つフロアランプ《フラワー・タワー》。ガラスの形状は、ルイ・ヴィトンのモノグラム・フラワーへのオマージュ。ガラスの凹部に仕込まれた特殊なリングが、トップから降りてくるLEDの光を捉え拡散し、ガラスに浮遊感を与える。

〈ルイ・ヴィトン〉が2012年のミラノデザインウィークで、「オブジェ・ノマド コレクション」のデビューを飾ってから11年。これまで、気鋭のデザイナーらと数々のコラボレーションを実現し、そのコレクションは現在60点以上にのぼる。

そして今年、11点の新作が発表され、うち最多となる4点のプロジェクトを手がけたのがスイス、ラ・ヌーヴヴィル拠点のアトリエ・オイだ。主宰の3人に新作のコンセプトについて聞いた。

「南米の鳥からインスピレーションを得た新作のモビール《ケツァール》に代表されるように、僕らのデザインにとって自然、季節は大切なファクターです」

パトリック・レイモンが語ると、オーレル・エビがこう続ける。

「自然は多彩なポリクロームの世界で、単色と見える色にもグラデーションがあって随時変化する。僕たちはオブジェに動きや変化、つまりキネティックな効果をもたらしたかった。これを《スパイラル・シャンデリア》にも応用しています。視覚に動きのエフェクトをもたらす裏表2色のレザーをツイストすることで、光と色彩のゆらぎが生まれたんです」。

アトリエ・オイは、素材の潜在力とプロジェクトのストーリーを深く掘り下げる手法で知られ、それは「小さなオブジェから建築プロジェクトまで」徹底している。

今回、ルイ・ヴィトンのレザーというマテリアルを媒体に、自然、動き、光と影をもたらすことに成功したのが、アトリエ・オイの「オブジェ・ノマド」なのだ。

SPECIAL REPORT 02

DIOR

フィリップ・スタルクによる新しい「メダリオンチェア」の誕生。

「ディオール バイ スタルク」第2弾の新作アームチェア《ムッシュ ディオール》がミラノでお披露目! メゾンが愛する「メダリオンチェア」の最先端の姿とは。

photo_Francesco Dolfo
text_Housekeeper

光、音響、ミラー効果など、幻想的なステージで宙を舞うチェア《ミス ディオール》。インスタレーションを手がけたのは、注目のサウンドアート集団「サウンドウォーク・コレクティヴ」。



新作《ムッシュ ディオール》のプレゼンテーション。再生可能なアルミニウムによるミニマルを極めた構造と、クチュールのエッセンスが凝縮するクッションが融合したエレガントなコレクション。

ディオール メゾン新作プレゼンテーションの舞台は、ミラノの中心に佇む18世紀の館、パラッツォ・チッテリオ。新緑が眩しい中庭から会場へ入ると内部は一気に暗転。やがて宙を舞う椅子と光と音響のステージが始まる。軽やかなチェアは、フィリップ・スタルクとの初のコラボレーションによって2022年にお披露目された《ミス ディオール》だ。

今年の主役となる新作は、ステージ奥に置かれていた。クチュールのエッセンスを放つファブリックを導入したアームチェア《ムッシュ ディオール》だ。本作もまた創設者、クリスチャン・ディオールが愛したルイ16世様式の「メダリオンチェア」の再解釈である。会場でスタルクはこう語る。

「〝ミス〟は、最先端の技術で極限のミニマルと軽やかさを追求したチェア。一方、新作には重力を与え、人間的な肉づけをしました。2つは、補完し合う壮大なデュアリティ（二重性）なのです」

クラフツマンシップと最先端技術の融合の理想の形、それが《ムッシュ ディオール》なのだ。





2　1

1 特設会場で、新作《ムッシュ ディオール》について語るフィリップ・スタルク。**2** チェアのアルミニウム構造は、ポリッシュ、またはラッカー仕上げ。ファブリックはブークレファブリックや、フランスの伝統的な「トワル ドゥ ジュイ」などでの展開を予定。



SPECIAL REPORT 03

HERMÈS

素材本来の魅力を追求するエルメスのホームコレクション。

2023年、エルメスが提案したのは、
エッセンシャルでアルカイックな美しさ。
それを支えるのはやはり一流のクラフツマンシップでした。

photo_Francesco Dolfo　text_Housekeeper

エルメスのホームコレクション発表の舞台は、ブレラ地区にあるかつてのペタンク競技場「ラ・ペロータ」。その会場構成が、ジオメトリックな鉄筋とコンクリートによる粗削りなデザインであるのには訳がある。「華美な装いに対するアンチテーゼ」、「粗く無骨なものに宿る美しさ」がエルメスの新作ホームコレクションのテーマであり、明快で素朴な「アルカイズム」を表現したオブジェのコレクションを目指したからだ。

会場正面を飾るのは、ピエール・シャルパンによるラグ《コルデリ》シリーズ。エルメスらしい乗馬のモチーフをシャルパンが抽象化し、ジオメトリックパターンに仕上げた。一見シンプルながら、寄りでラグを観察すれば、リネン地にコットンのコルデリ（紐）の








手刺繍が一面に施され、そのクラフツマンシップに圧倒される。

家具では、セシリエ・マンツが無垢材の力強いフレームに一枚のレザーシートを軽やかに吊ったアームチェア《アンセル・ドゥ・エルメス》を発表。また、ジャスパー・モリソンがエルメスのアーカイブを紐解き、1930年代の革張りの椅子をリデザインした《コンセルヴァトワール》も注目に値する試みだ。

さらにブロンズとレザーを組み合わせたオブジェの粗削りな強さを感じさせる仕上げに至るまで……。それぞれの素材本来の魅力を、エッセンシャルなフォルムによって最大に引き出したのが今年のコレクション。その魅力を裏づけるのは、エルメスが誇るクラフツマンシップがもたらすディテールなのである。

3 2 / 5 4 / 6 | 1

1 粗削りな鉄筋とコンクリートで構成した会場。**2, 3** ピエール・シャルパンによるラグ《コルデリ・パルクール》と《コルデリ・アルソン》。乗馬をモチーフにした全4種。**4** ハッリ・コスキネンによる吹きガラスのテーブルランプ《スフル・ドゥ・エルメス》。**5** ポーセリンのテーブルウェア《ソー・エルメス》は、ジョシェン・ギャルネールによるデザイン。**6** ジャスパー・モリソンがエルメスの1930年代の椅子をリデザインした《コンセルヴァトワール》。

SPECIAL REPORT 04

LOEWE

伝統的な〝スティックチェア〟を 職人が美しく精巧にカスタマイズ。

今年ロエベが注目したのは伝統的なスティックチェア。
木工の椅子と編み職人とのコラボレーションによる、
「LOEWE Chairs」コレクションは、すべて垂涎の一点もの！

photo_Francesco Dolfo
text_Housekeeper

パラッツォ・イシンバルディの中庭で開催された『LOEWE Chairs』展。素朴な椅子に編み込んだマテリアル、カラーとのコントラストが独創的。正面奥はサーマルブランケットを編んだ作品。





ロエベのクリエイティブディレクター、ジョナサン・アンダーソンが今年フィーチャーしたのは、スティックの背もたれが特徴的な、ウェールズ地方の素朴な木工椅子、スティックチェア。

　このスティックチェアをキャンバスに、世界の職人たちが編み装飾を施したコレクションが「LOEWE Chairs」。いずれも一点もの、という貴重な作品だ。

　スティックチェアはヴィンテージと現代の工房で製作された計30脚。編みには、ロエベと親和性の高いレザーやラフィアのほか、シアリングやフェルト、光を反射するサーマルブランケットなど、意外性のあるマテリアルも導入した独創的なものだ。加えて20世紀初頭のアメリカで発案された、メタル構造に籐代わりに紙紐を編んだ椅子《ロイドルーム》8脚も発表した。クラフトへの情熱が深いアンダーソンは語る。

「過去と現在を融合し、デザインを別の視点から考えること。量産品と対照的に、ある物が目的を持って誰かの手で作られていることを知ることが大切なんです」

3 2 1
6 5 4

1 手作業でキノコ模様を施したフェルトをスティックに巻いた一脚。**2** 背もたれ全体をラフィアで編み、先端を花開かせたような装飾が見事。**3** ブラックのウールでスティックをカバーした椅子は3本脚。**4** 現代イギリスの工房で製作したスティックチェアにはボリューミーなクッションをプラス。**5** 細いバイカラーの革紐をスティックに編み込んだ作品。**6** 革紐をスティックと脚に編み込んだ、ユニークなプロポーションの作品。









右／ティム・ウォーカーの写真撮影風景。左／〈レオナルド・ダ・ヴィンチ記念国立科学技術博物館〉で行われたインスタレーション。革とそれを裁断する道具、職人の工程などをユーモラスに表現した。



SPECIAL REPORT 05

TOD'S

ティム・ウォーカーが切り取るトッズのクラフツマンシップ。

世界的に著名な写真家、ティム・ウォーカーとコラボレーション。メイド・イン・イタリーの伝統と職人技を讃えるビジュアル作品とインスタレーションが発表されました。

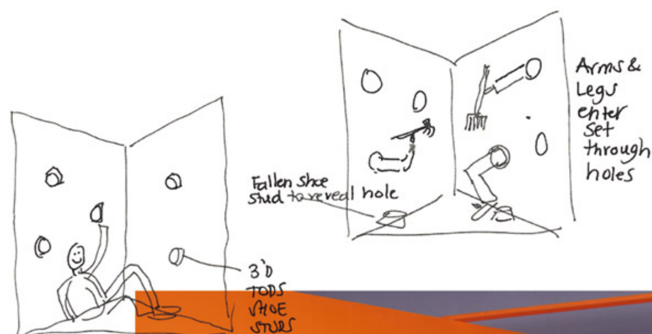
text_Housekeeper

イタリアのデッラ・ヴァッレ家が20世紀初頭にシューズの製造を始めたことからスタートしたトッズ。ハンドメイド、そしてメイド・イン・イタリーのクオリティの高さを創業当時から現在まで受け継ぎ、ものづくりを続けている。

そんなトッズは写真家ティム・ウォーカーと協働し、「アート・オブ・クラフツマンシップ」を発表。ブランドのアイコンである《ティーアイ バッグ》《ゴンミーニ》《バレリーナ バブル》などの製作過程や、製品、職人の道具、革の裁断やステッチなどの重要な工程を、ウォーカーがビジュアルアートに昇華した。ウォーカーは、職人の技術が製品に込められる瞬間を見つめるため、セットデザイナーとともにトッズの工房に滞在したという。

「デジタル化が進み、機械やロボットで多くのものが工業的に作られるようになった今、クラフツマンシップの価値はますます貴重になっています。熟練した職人の手で生み出された製品は独特の質感があり、他とは一線を画す美しさがある。私がトッズで出会った人々や彼らの経験が、作品の真のインスピレーションとなりました」

トッズの品質と伝統をユーモラスかつ前衛的な手法で表現した作品は、現代的な工業製品に親しむ若者たちをはじめ、多くの世代の心に響いたに違いない。そして時代を超えて受け継がれる職人の技術と、人の手で作るものの価値を改めて認識させてくれた。





上／ティム・ウォーカーによる作品のラフスケッチ。下／作品には職人の道具を巨大化したり、〈トッズ〉のシューズのソールを想起させるセットを作成。このセットは実際に展示された。


木型を持つ男性やブラッシング作業のブラシ、スプール（糸巻き）などのツール。ティム・ウォーカーが工房に滞在し、職人を見つめて生まれた、クラフツマンシップへのリスペクトに満ちた作品。


裁断や縫製、ハンマーを使った目打ちなどの実際の作業がインスタレーションとして披露された。熟練を重ねた職人たちの無駄がなく美しい動きに、多くのゲストたちが足を止めて見守った。

SPECIAL REPORT 06

BOTTEGA VENETA

創造の力強さを引き出す、ガエタノ・ペッシェの幻想世界。

キャリア初となるバッグデザインを手がけたガエタノ・ペッシェ。こだわりのインスタレーションにクリエーションの真意が込められている。

photo_Sohei Oya
text_Hisashi Ikai

ガエタノ・ペッシェとのコラボレーションにより、モンテナポレオーネの店舗で没入型インスタレーション「Vieni a Vedere／会いに来て」を発表したボッテガ・ヴェネタ。ペッシェは樹脂とファブリックを用いて、店の中に洞窟のような幻想的な空間を再現。緩やかにうねり、奥へと続く道を進んでいくと、壁の凹みにペッシェがデザインした2つのバッグが現れる。

一つは生まれ育ったイタリアの小さな街、エステの山々の姿をイントレチャートで表した《My Dear Mountains》。そしてもう一つは、アメリカの広大な草原を意識した《My Dear Prairies》。ともにペッシェが手がけたスケッチをもとに、〈ボッテガ・ヴェネタ〉の職人が仕上げた希少な限定モデルだ。

洞窟や壁画は、有史以前の人類の暮らしと芸術の象徴でもあり、ペッシェはこの展示によって人間の本質的な創造の力を示しているとも考えられる。壁画を辿り、さまざまに想像力を働かせながら迷路のような空間を進んでいく。この仕掛けに来場者たちが多様な反応を見せる様子も印象的だった。



草原をイメージしたバッグ《My Dear Prairies》。微細にトーンの異なる7色のカーフ＆ラムレザーを細く切り、緻密に編み込むことで、野原に生い茂る植物の豊かな生命力を表している。

SPECIAL REPORT 07

DOLCE&GABBANA

若きデザインの才能をイタリアのものづくりで支援。

次世代に高度なクリエーションの機会を与え、新しい表現を導き出す〈ドルチェ&ガッバーナ〉の「GenD-Generation Designers」とは。

photo_Sohei Oya
text_Hisashi Ikai

デザイナーの感性と匠たちの卓越したものづくりの技を掛け合わせることで、無限の可能性が見出され、デザインはさらに進化し続ける。こうした考えのもと、才気溢れる次世代のクリエイターのポテンシャルを引き出すべく、ドルチェ&ガッバーナが行う意欲的なプロジェクトが「GenD-Generation Designers」だ。

本プロジェクトでは、世界各国から若手のデザイナー&アーティストを招聘。ムラーノガラス、シチリアのマヨルカ焼き、テラコッタやかご編みの職人、琺瑯など、イタリアを代表する伝統的なものづくりの職人や工房とマッチングさせながら、未知の表現を追求していった。イタリア誌『The Good Life Italia』のエディトリアルディレクターとして活躍するフェデリカ・サラをキュレーターに迎え、今年ミラノで発表した最新のコレクションには、イタリアのアントニオ・アリコ、レバノン出身のサヤール&ガリベ、ロンドンを活動拠点にするリオ・コバヤシ、韓国の陶芸家、イ・アリュンなど、10名の多彩な顔ぶれが参加。自由で活力に満ちた表現が会場を埋め尽くしていた。

屋上スペースで、レモンの木を守るために建てられた温室をモチーフにした作品《LIMONAIA a Milano》を展開したアントニオ・アリコ。新鮮なレモンの色をまとった多様な形態のオブジェが並ぶ。

SPECIAL REPORT 08

YASUTA
Veneered Surfaces & Design

自然と人間の関係を見つめ直し、手仕事の美しさを讃える。

ウィリアム・モリスの小説『News from Nowhere』に近未来の社会のあり方を重ね合わせることで、新しい暮らしのデザインが見えてくる。

photo_Francesco Dolfo
text_Housekeeper



19世紀後半にイギリスの思想家ウィリアム・モリスが書いた『News from Nowhere』。産業革命後に起きた労働の分断化や人間と自然との断絶を修復するための社会思想を描いている。安多化粧合板の展示は、この小説を題材にデザインの役割を見つめ直すものだった。

披露されたのは、二人のイタリア在住作家による作品と遠華鏡で見る檸檬の樹の照明インスタレーション。写真家が日本の森を巡り、朝と夜の白樺の木を撮影した《Creation begins with Nothing》は荒廃した土壌に最初に根をつける白樺の生命のエネルギーを称えた作品だ。使い終えた木の靴型に木象嵌を施した《Renaissance》には風神雷神が刻まれ、自然と共に生きる人類の祈りを表現した。そしてユートピアを具象化した一本の檸檬の樹が美しい〝灯り〟として、来場者の笑顔に囲まれていた。

「今、デザインは自然と人間との関係を修復し、そして丁寧な手仕事は労働の喜びを取り戻すための術となる」。多種の木から2つとない製品を生み出す同社の深い思いが表れた展示だった。

望月貴文が木象嵌を施した靴の木型を展示するケースにニシカワヨシエが撮影した白樺の木が映り込む。人間が自然に歩み寄るように見える展示だ。空間内装はミラノ在住の建築家、嶋田宣彦が手がけた。

SPECIAL REPORT 09

CARL HANSEN & SØN

ラウリッツェンの幻の椅子が完璧なディテールで甦る。

〈カール・ハンセン&サン〉のミラノの旗艦店では、北欧モダニズムの建築家、ヴィルヘルム・ラウリッツェンの椅子の製品化はじめ、力の入った新作が並んだ。

photo_Sohei Oya
text_Takahiro Tsuchida

知られざるデザインの遺産を掘り起こすこと。
それもまた現在のインテリアシーンの重要な流れだ。デンマークのカール・ハンセン&サンの新作で注目したいのは、20世紀半ばに活躍した北欧建築界のキーパーソン、ヴィルヘルム・ラウリッツェンの《VLA61 モナークチェア》。ミラノ中心部にあるフラッグシップストアでは、その製造プロセスを見せながら、新しく復刻されるこの椅子のクオリティーを印象づけていた。《VLA61 モナークチェア》は、ある建築プロジェクトのためにラウリッツェンがデザインし、当時10脚のみ製造された。しかし建築が実現しなかったため、多くの人の目に触れることなくコレクターズアイテムとなったものだ。曲線的で複雑な形状のパーツを多用した椅子であり、復刻のハードルは高かったという。そんなフォルムが、心地よさと芸術的な美しさを生み出している。
日本への入荷は2023年内の予定。そのディテールの完成度と、曲線に包まれる座り心地を、ぜひリアルに確かめたい。

完成品とともに製造途中の状態が展示されたヴィルヘルム・ラウリッツェンの《VLA61 モナークチェア》。脚先の真鍮の使い方などにも、ラウリッツェンらしい細やかなセンスが表れている。

SPECIAL REPORT 10

KARIMOKU

サローネなど3つの会場で日本の家具の実力を見せる。

サローネ本会場に展示空間を構えるとともに、ミラノ市内の2か所でも新作を披露した〈カリモク家具〉。多様なプレゼンテーションで木の家具の魅力を伝えた。

photo_Sohei Oya, Francesco Dolfo
text_Takahiro Tsuchida

ミラノ出展を重ねてきた日本のカリモク家具だが、今年は力の入れ方が違った。3会場で5つのコレクションの展示を行ったのだ。まず〈バガッティ・ヴァルセッキ美術館〉では、ザハ・ハディド・デザインと組んだ〈セユン〉を世界に向けてローンチ。これは迫力あるアシンメトリーな曲線が特徴のコレクションで、新たにアームチェアなどが公開された。

〈カリモクニュースタンダード（KNS）〉〈カリモクケーススタディ〉〈マス〉〈石巻工房 by Karimoku〉の4コレクションは、デザインとアートの複合施設〈アッサブ・ワン〉が会場に。デンマークのノーム・アーキテクツの展示構成により、個々のデザインが持つ世界観を伝えた。

ミラノサローネに出展したのは〈カリモクケーススタディ〉。建築家の芦沢啓治が空間を設え、ノーマン・フォスターによる家具などが世界デビューを果たした。

国産家具メーカーとしては空前の規模の展開は、カリモク家具が扱う木の多様な創造性を多くの人々の心に刻んだはずだ。









1〈SEYUN〉の新作アームチェア。**2**〈KNS〉はじめ４コレクションを揃えた複合施設〈アッサブ・ワン〉での展示。自然光あふれる風通しのいい空間だった。**3**〈Karimoku Case Study〉のミラノサローネの展示は構成を芦沢啓治が、スタイリングを中田由美が担当。**4** ルネサンス様式の装飾を凝らしたバガッティ・ヴァルセッキ美術館での〈SEYUN〉の展示。



SPECIAL REPORT 11

MOLTENI&C

エレガントな素材と卓越した技術の美しさを伝える新作コレクション。

ヴィンセント・ヴァン・ドゥイセンがディレクターを務める躍進を続けるイタリアの名門ブランド〈モルテーニ〉が発表した美しい新作を紹介する。

text_Hisashi Ikai

1

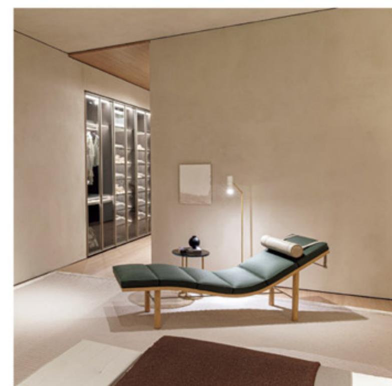
2

1 ヘルツォーク＆ド・ムーロンが手がけた《POLTA VOLTA》。高さ66㎝のラウンジチェア（写真）と高さ71㎝のダイニングチェアの２種が揃う。**2**《TUSCANY》の脚のタイプは写真のオーク＋ステンレスに加え、シックな装いのユーカリ＋真鍮も選ぶことができる。

1934年創業の老舗ブランド〈モルテーニ〉が今年発表した新作で特に注目すべきは、ヘルツォーク&ド・ムーロンと深澤直人による椅子のコレクションだろう。

スイス・バーゼルを拠点に活動するヘルツォーク&ド・ムーロンは、現在〈イスラエル国立図書館〉をエルサレムで建設中。そのために彼らが〈モルテーニ〉とともに製造したのが《POLTA VOLTA》だ。椅子に座るというよりも、椅子にやさしく包まれる感覚を意識しながら、安定感のあるフォルムとゆったりとした座り心地を実現。骨太のフレームと大きく手を広げて座る者を迎え入れるアームレスト、たっぷりとした厚みのある背と座が印象的なこの椅子は、同図書館の閲覧室に大量に納入される予定だ。

一方、深澤直人は典型的な寝椅子に独自の解釈を加え、気品と格式を感じさせる《TUSCANY》を展開。トスカーナに見られる、連続するなだらかな丘陵をイメージ。円柱の脚をH形の極細フレームで支え、軽やかに座面が浮いているように見せている。





SPECIAL REPORT 12

LOUIS POULSEN

様々なパターンをまとった《PH コレクション》が生み出す光。

〈ルイスポールセン〉は二つの会場で新作を発表。
《PH Pale Roseコレクション》の特別展示と、
話題のブランドとのコラボレーションが話題を呼びました。

photo_Sohei Oya
text_Housekeeper





デンマークの照明ブランド、ルイスポールセン。数多くの名作を持つ同社の中でも著名なのはポール・ヘニングセンの《PHシリーズ》だろう。このマスターピースに、柔らかなペールピンクをたたえた《PH Pale Roseコレクション》が誕生。架空のホテル「THE LOUIS」をテーマにしたクリエイティブコンセプトのもと、全コレクションが展示された。

もう一つの注目は年頭に日本に上陸した〈フェンディ カーサ〉とのコラボレーション。《PHアーティチョーク》がフェンディのアイコニックなデザインである「ペカン」のイエロー×ブラウンを纏い、《PH3½-2½フロアランプ》《PH⅔テーブルランプ》なども〝フェンディイエロー〟のガラスシェードで登場した。

ルイスポールセンがポール・ヘニングセンと協働を始めたのは1924年。その翌年にあたる1925年にフェンディが誕生している。約100年後、ブランドの伝統やシグネチャースタイルを融合させて生み出された光は、ミラノで大きな話題を呼んだ。

1 〈フェンディ カーサ ミラノ〉で披露された《PHアーティチョーク》。「ペカン」ストライプとフェンディイエローの2色展開。2〈B&B Italia Design Studio〉の地下に架空のホテル空間が作られ《PH Pale Rose》の展示が行われた。3〈フェンディ カーサ〉の世界観の中、ひと際目を引くコラボレーション。





最先端の工業技術で表現するエレガントなデザイン。加えて、近年ではサステナブルな資源素材の開発が注目を集めるカルテル。ロー・フィエラミラノで開催された展示では「My Kartell」と題された巨大なブースの中、人気デザイナーの新作が多数発表された。

会場は、壁と床の色をグラデーションで変化させることで緩やかにゾーニング。「SOFT IN MY WAY」など展示名が設けられ、多彩な空間を展開した。目を引いたのは、パトリシア・ウルキオラによる新作テーブルとラグで構成された「LIVING MY STYLE」。組み合わせて自由な使い方ができる《Undique Mas》は、より丸みを感じる柔らかなデザインに仕上がった。

フィリップ・スタルクの《Eleganza Missoni》は既存の《Eleganza Ela》と《Eleganza Nia》が〈ミッソーニ〉のジャカード生地を纏い、構造には昨年発表された〈イリー〉のコーヒーカプセルを再生した素材を使用。3社のコラボレーションはデザインとマテリアルへの新たな道筋を感じさせた。

1
2
3

1 パトリシア・ウルキオラの新作を中心に構成した空間。テーブルの上にあるのもウルキオラの新作ベース《Okra》。**2** ミッソーニ、カルテル、イリーの３社が協働して実現した《Eleganza Missoni》。NIAとELAの２パターン展開。**3** こちらもスタルクが手がけた新作チェア《H.H.H.（HER HIGHEST HIGHNESS）》。



SPECIAL REPORT 13

KARTELL

鮮やかな色彩の中に展示された人気デザイナーの新作群。

パトリシア・ウルキオラ、フィリップ・スタルク……。
フィエラ会場で行われた〈カルテル〉の展示は、
例年にも増して名デザイナーの新作が豊富でした。

photo_Sohei Oya
text_Housekeeper







ZWILLING ENFINIGY®
ツヴィリング エンフィニジー

驚くほど滑らかで口当たりのよい仕上がり

刃物メーカーならではの"切れ味"にこだわった特殊形状のブレードで
どんな食材も細かく粉砕。滑らかさが違います。
普段は捨ててしまう野菜や果物の皮や芯、種だって丸ごといただきます。
栄養素もしっかり取りながら、食材本来の美味しさをお楽しみください

ENFINIGY:
From Energy (エナジー) & Infinity (無限)

Designed by Matteo Thun & Antonio Rodriguez



エンフィニジー
パワーブレンダー プロ

6つの自動プログラムで、様々なメニューを
ボタン一つで簡単調理。
加熱調理ができるスープモードでは温かな
スープが出来上がります。

ZWILLING J.A. HENCKELS JAPAN LTD. 0120-75-7155 · www.zwilling.com エンフィニジー    

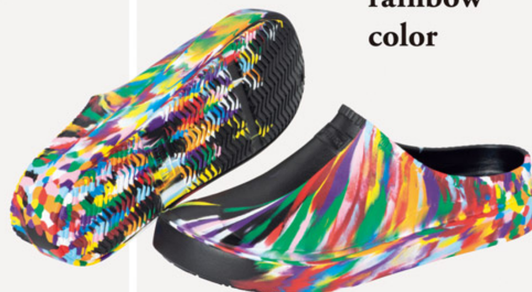
5 best collaboration





3 take it easy

1 rainbow color





6 ready sit go



4 design philosophy

2 like a dress



5.
人気デザイナーとの美しいコラボレーション。

世界的なブランドのプロダクトなどを幅広く手がけるパトリシア・ウルキオラと〈キャバン〉によるコラボ。上質なイタリアンレザーを基調に光沢のあるナイロンなど再解釈されたデザインのオブジェのような美しい曲線やフォルム、シルエットに注目。バッグ右99,000円、左110,000円（キャバン 丸の内店☎03・3286・5105）。

6.
環境にも配慮した5 in 1のベビーチェア。

革新的なベビーカーで知られる〈バガブー〉から子どものためのチェア《バガブー・ジラフ》が登場。瞬時に調整可能なシステムに様々なアクセサリーを加えることで、子どもの成長ステージに対応。環境に優しく、長く使える素材や仕様で、細部までこだわりが光る。39,600円〜（バガブー https://www.bugaboo.com/jp-ja）。

3.
日本茶を〈racu〉に楽しめる《warenai》急須。

日本茶をもっと楽に楽しめる道具をコンセプトにしたティーウェアブランド〈racu〉がローンチ。第1弾となる柴田文江による《warenai》は、耐久性の高いトライタン樹脂を採用することで、日本茶をよりカジュアルに、扱いやすさも兼ね備えた優しいデザインとなっている。4,840円（すすむ屋茶店 https://racu-teaware.com）。

4.
ドイツ照明ブランドから持続可能なもの作りを。

〈Midgard〉より、ステファン・ディーツがデザインした《AYNO Desk S Black》は、グラスファイバーのロッドとコードが生み出すテンションによる高さ調節の機構が特徴。環境への配慮から製品はフラットパックで輸送され、既製部品を利用したことで組み立てや修理も容易だ。50,600円（リヒト https://licht-gallery.com）。

1.
目を引く〈ハンター〉のクロッグ。

ハンドペイント調のレインボーカラーが印象的な〈ハンター〉のクロッグ。世界中で6月末に行われるPride Monthを祝い発売されるこの商品は売り上げのすべてがLGBTQIコミュニティに寄付される予定。これからの季節の足元のワンポイントとしても最適だ。11,550円（ハンタージャパン カスタマーサービス☎0120・563・567）。

2.
イタリアの洗練、〈メリディアーニ〉が上陸。

リラックス感のあるラグジュアリーな家具を展開するイタリアの家具ブランド〈メリディアーニ〉が日本上陸。有機的なラインのソファ《レネ》は、アンドレア・パリシオがデザイン。スタイリングを楽しむ素材ミックスやモジュールのバリエーションが豊富で、個性を発揮できる。2,948,000円〜（南陽オモビト☎03・5413・3274）。

 photo_Keiko Nakajima styling & text_Tomomi Nagayama, Yumi Nakata, Kohta Kawai, Yusuke Takeuchi



日常を彩る上質な暮らし。

リアルスタイルが創造するのは、「本物」という確かな価値。
日本人のひたむきさ、奥ゆかしさ、細やかさ。
そこから発せられる美意識と、絶妙の匙加減。
私たちが心地よいと感じる日本の生活文化や風土を活かし、
手に触れるものから、空間、建築、そして街づくりまで。
そこに息づく、上質なライフスタイルをお届けします。

REAL Style
www.real-style.jp/

REAL Style

本店 TEL 052-323-6262
青山店 TEL 03-6450-6972
名古屋東店 TEL 052-705-8136
帝国ホテルプラザ東京 ショールーム TEL 03-6205-7505
仙台店 TEL 022-711-6260
金沢店 TEL 076-241-9888
ジェイアール名古屋タカシマヤ店 TEL 052-566-1101

REAL Style
一級建築士事務所

・建築設計監理
・リノベーション
・インテリアコーディネート

11.
再生木材で作られたオーガニックなシェルフ。

静岡の〈プラト〉による再生木材の加工技術を生かしたウォールシェルフ《ウェーブ》は清野隆志によるデザイン。曲げたりひねったりとユニークなフォルム。そのまま壁面に飾ってオブジェとしても。形状に合わせて用途や機能の各々の発見を楽しめる余白のあるプロダクトだ。352,000円（ジェネレイトデザイン☎03・6320・5691）。

12.
自転車のベルがモチーフのコンパクトな照明。

スペインのホルヘ・エレーラが〈イデー〉のためにデザインした照明シリーズ《カンパーナ》。空間になじみやすい小ぶりなシェードは、工業的なイメージのある自転車のベルをモチーフとし、エレガントさと機能性を両立。２色展開。《カンパーナ フロア アーム ランプ プラス》59,900円（イデーショップ 自由が丘店☎03・5701・7555）。

9.
色褪せることのないパントンの造形力。

デンマークの〈Verpan〉からヴァーナー・パントンが1973年にデザインした《System1-2-3 Dining Chair Standard》が登場。革新的なＳ字形の構造は、まさにパントンのデザインと言えるものだが、カンティレバー構造によるほどよい弾力性で座り心地にも定評がある。予定定価308,000円（ソルフォルム https://solforme.co.jp）。

10.
忠実に再現された当初のデザイン。

マドリッド、アリゾナ、ギゼの発売当初のディテールがそのまま復刻された〈ビルケンシュトック〉のアニバーサリーセット。それぞれのサンダルに合わせたソックスもセットでスペシャルパッケージのボックス仕様。右25,300円、中25,300円、左29,700円（ビルケンシュトック・ジャパン カスタマーサービス☎0476・50・2626）。

7.
〈スクルツナ〉とリサのユーモラスな動物。

〈スクルツナ〉からリサ・ラーソンの動物たちがフィギュアとなって登場。いずれもころんと手のひらに収まるサイズだ。お気に入りの場所に飾ってそのユーモラスな表情に癒されてほしい。写真は《Cat》Ｈ8.7㎝ 35,200円。他に犬とライオン２種がラインナップされている（コッテ アンド コー☎03・6427・6120）。

8.
経年を楽しみたいアウトドア家具。

アルフレッド・ホーマンによるアウトドアシリーズが〈カール・ハンセン＆サン〉から発売。《AH502》は、チーク材を用いたシンプルで明快な直線に丸みを帯びたディテールがエレガントな組み合わせだ。オプションでクッションもある。67,100円（カール・ハンセン＆サン フラッグシップ・ストア東京☎03・5413・5421）。

11
up
to you

9
futuristic
design

7
SKULTUNA &
Lisa Larson

12
industrial
but elegant

10
anniversary
set

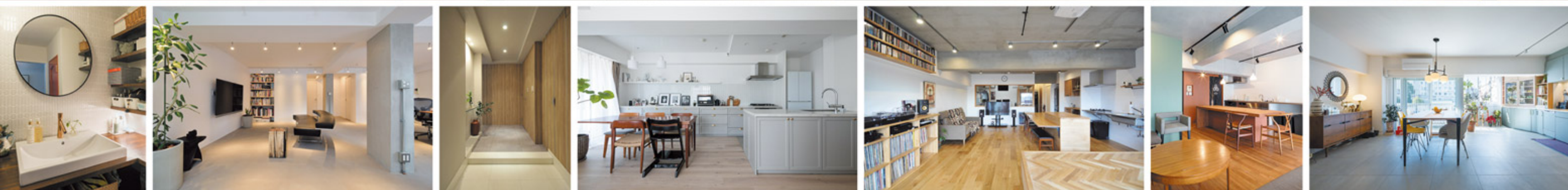
8
nice outdoor
furniture

RENOVATION

住まい探し・デザイン・リノベーション

プロを味方に、リノベーションで理想のライフスタイルを実現する





住まい手の夢や個性を具現化するリノベーション会社

FIND（ファインド）は、東京・横浜・川崎を中心に満足度の高いリノベーションを設計・施工で提案しています。

オリジナリティとデザイン性の高い住まいを希望してお店に訪れる施主様の多くは、「心地よく上質な空間をつくりたい」という理想をお持ちです。年齢層は30代〜60代と幅広くなっており、リノベーションはもちろん、リフォーム、物件売買仲介の相談も受付けていて、打合わせを重ねながら一人ひとりの「想い」や「ストーリー」を大切に、理想の住まいをカタチにしていきます。

リノベーションや住まい探しをお考えの方は、ぜひFINDまでお問い合わせ下さい。



グレーを基調にしたスタイリッシュな空間へリノベーション。インテリアで遊び心をプラスして上質なプランとデコレーションで暮らしを楽しむ住まいが完成いたしました。

FIND（ファインド）**SHOP DATA**





FIND

神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷5-7-4
0120-871-713　☎044-871-7110
営 平日 10:00〜18:00　休 水曜日（祝日は営業）

https://www.a-find.jp

17 genius creation





15 Nordic taste

13 new liberty style







18 resort style

16 classic mood

14 avant-garde aesthetic



17.
垣根を超えた注目のクリエイション。

モノトーンな配色にMFのパッチと黄色の花が組み合わさった〈MONCLER × FRAGMENT〉の新作コレクション。スタジャンの内側には軽量で薄いダウンが施されており素材のバランスが絶妙だ。ストリートでありながらモードな雰囲気が感じ取れる１着。502,700円（モンクレール ジャパン☎0120・938・795）。

15.
北欧テイストのポータブルスピーカー。

〈バング＆オルフセン〉がガムフラテージとコラボレーション。ポータブルスピーカー《Beosound A5》を発表した。ペーパーラフィアを使ったノルディック・ウィーブ色はリゾートで使うバッグのような軽快なデザインだ。他に木のぬくもりを感じるダークオーク色も。149,900円（バング＆オルフセン ジャパン☎0800・600・0206）。

13.
デザインが再評価されるアイコニックなチェア。

1952年、トリノの証券取引所のインテリアとしてデザインされたチェア《STELLAGE 52》をチェコッティ・コレツィオーニが初復刻。ニューリバティ様式の美しいデザインは後の時代に再評価されMoMAのパーマネントコレクションにも加えられている。1,188,000円〜（カッシーナ・イクスシー青山本店☎03・5474・9001）。

18.
夏のリゾートにぴったりのアウトドア家具。

〈カルテル〉からワイヤー素材のアウトドア家具《ハイレイ》が登場。懐かしいリゾート地を思わせる曲線が美しいアームチェアは耐塩害加工が施されているため海に面したテラス使いも可能だ。他にソファやテーブルなどもラインナップする。68,900円、パッドは別売り25,600円（トーヨーキッチンスタイル☎03・6438・1040）。

16.
〈ジェイエムウエストン〉のレザーサンダル。

〈J.M.WESTON〉初となるサンダルが登場。着用時の実用性を考慮しデザインされたラバーパッドを組み合わせたソール、滑らかで柔らかなアッパー素材のバンドが快適な履き心地を演出してくれる。さりげなく描かれたWのステッチがポイントだ。右88,000円、左107,800円（ジェイエムウエストン 青山店☎03・6805・1691）。

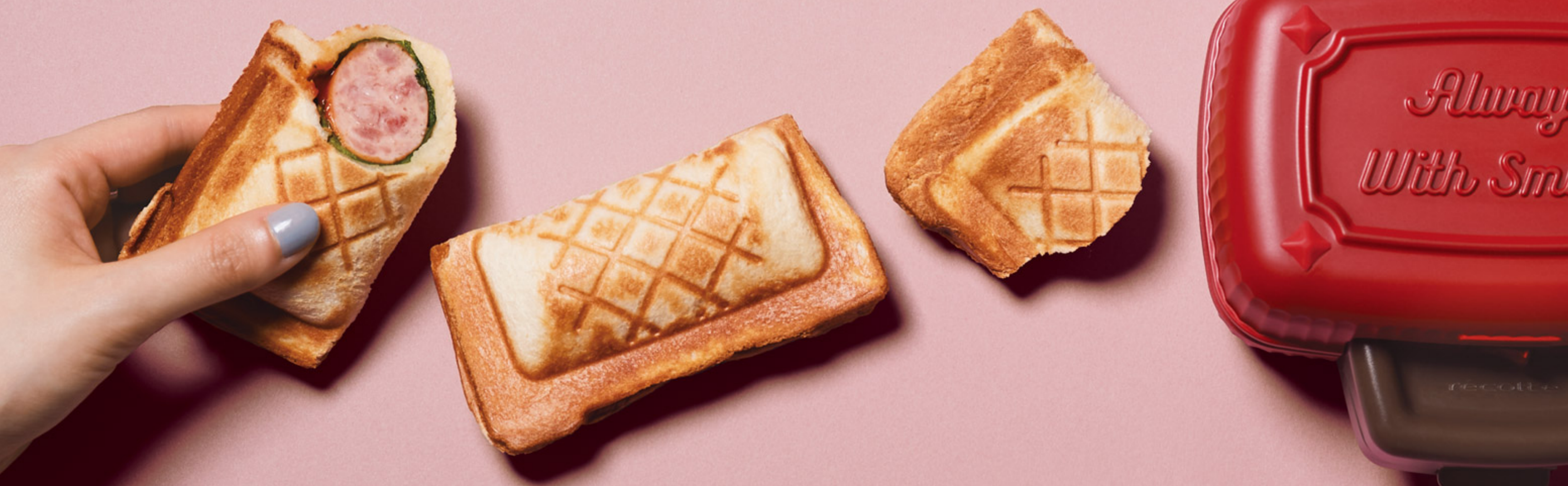
14.
空間に柔らかなタッチを加えるランプ。

５月に青山にショールームがオープンした、デンマークの〈& Tradition〉の新作は、フランスの作家、コレットにちなんで名づけられたテーブルランプ。シェードからベースまでコットンとリネンの混紡生地製。柔らかな素材感が印象的だ。《コレット ATD6》79,200円（アンドトラディション／林物産☎03・5778・3282）。

récolte®

ONE HAND de SAND!

片手でパクッと!
食パン1枚でホットサンドが作れる
プレスサンドメーカー。



＼ ホットケーキミックス・ごはん・パイシートも焼ける! ／



Press Sand Maker Mini
プレスサンドメーカー ミニ

メーカー希望小売価格 ¥4,400(税込)

recolte-jp.com
レコルト総発売元 ウィナーズ株式会社 TEL 03-6804-5538

詳しくはWebへ





獲物

デザイン狩人

長山智美

かりうど

No.178



ながやまともみ　宇宙系インテリアスタイリスト。リアル宇宙服装着体験もございますガチなNASAファン。今の野望はトム・サックスさまのNASA茶碗をGETしてコチラのカーペット上で宇宙茶会を催すコトでございます☆

NASA×moooiの《Mooon Carpet》

おウチリビングで宇宙を満喫☆





NASAが提供してます高解像度の月ビジュアルをカーペット上にリアル再現。巨大なティコクレーターや光の筋が美しいコペルニクスクレーターなどの表情もしっかり鮮明に写されてございます。ムーンカラーは3種をご用意。**1** 玄武岩カラーの《Mooon Basalt》、**2** 乳白系カラーの《Mooon Opal》、**3** マーブル飴色の《Mooon Marble》各668,800円（トーヨーキッチンスタイル☎03・6438・1040）。

オフィシャル宇宙インテリア☆

moooiがNASAとコラボレーション！　4月のミラノサローネで発表されたてホヤホヤ。NASA提供の高解像度の月ビジュアルをmoooiのハイテク技術によりカーペット上にリアル再現しましたてぃう《Mooon Carpet》なんてなホットなお品が早くも日本デビューでございますの。月のカラーは3色展開……あれ？　でも月に色バリなんてあるの？　ていう素朴な疑問が。さっそくぐぐる検索しましたところ、そもそも月は衛星なので自分で光ることはなく、表面の鉱物が太陽光を受けて反射したときにできる色をデジタル処理で画像にしてますとのこと。つまりは見る角度の違い、月表面の鉱物の分布具合によってさまざまな色になるよでございます。角度違いからのカラーバリエとはさすがNASAコラボ。ガチな宇宙ファンにもしっかり対応してますオフィシャル宇宙インテリアかと存じますの。にしましてもNASA、これまでファッションブランドとのコラボてのは聞いてましたけど、ついにインテリア業界にも進出なのでしょか？　よもや次のサローネにはスペースシャトルソファだの宇宙ステーションキャビネットだのサターンロケット照明だのが登場しちゃうのかも!?　ならばやっぱし来年こそはワタクシも頑張ってサローネ行くきゃないのかも!?

　photo_©NASA (left), ©iStock (right)

NEWS STORAGE

Cartier Boutique Renewed at JR Nagoya Takashimaya



© Cartier

『カルティエ ブティック ジェイアール名古屋タカシマヤ』が移転・拡張し、シャンパンカラーが基調の空間に一新。ガラス張りのファサードが明るいエントランス正面のアートウォールには、名古屋城の庭園が金箔と共に描かれる。ジュエリー、ウォッチ、レザーグッズ、アクセサリーやフレグランスが揃う。（カルティエ カスタマー サービスセンター ☎0120･301･757）

SANEI Showroom & Shop WAILEA Midosuji



●大阪市中央区安土町3-5-13 本町ガーデンシティテラス1階 ㊡11時〜19時

『WAILEA 表参道』に続いて『WAILEA 御堂筋』が誕生。リラックスできるバスルームやパウダールームなど水まわり空間の提案を中心に、インテリア、フレグランス、バスグッズ、ケア商品をセレクトしたショールーム&ショップ。既成概念にとらわれず、ライフスタイルに合わせ、水まわり空間を含む自由な空間をトータルで提案する。（WAILEA 御堂筋 ☎06･6265･1961）

"CITIZEN Series 8" 870 Mechanical with Urethane Band



《NA1004-10E》209,000円

モダン・スポーティデザインの機械式時計ブランド〈シチズン シリーズエイト〉。870 Mechanicalに、ウレタンバンドを合わせ、スポーティな魅力をより強調したモデルが登場した。ヘアラインとミラー仕上げを施した2体構造のベゼルが、個性的で力強い表情を演出。直線を活かしたケースがソリッドな魅力を際立たせる。（シチズンお客様時計相談室 ☎0120･78･4807）

Breguet Classique Perpetual Calendar 7327



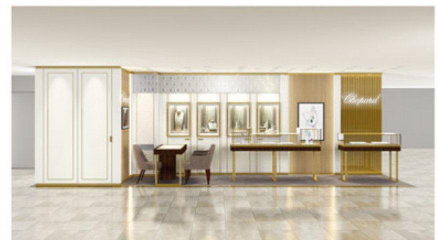
創業者アブラアン-ルイ・ブレゲの発明したパーペチュアルカレンダーモデルに敬意を表し、新たなアレンジを加えたゴールド製モデルが《クラシック》コレクションに加わった。キャリバー502.3.P搭載《クラシック パーペチュアルカレンダー 7327》は18Kホワイトゴールドと18Kローズゴールドの2色。各11,572,000円。（ブレゲ ブティック銀座 ☎03･6254･7211）

sanwacompany Wins iF Design Award 2023



サンワカンパニーが、世界3大デザイン賞のひとつ「iFデザイン賞2023」を受賞。9年連続の受賞となった。受賞企業の過去5年間の累積ポイントから選出される「ワールドデザインインデックス」では、日本ランキングでトップ25、アジアランキングでトップ100にランクイン。写真はカウンター材《ウッドカスタムカウンター》。（サンワカンパニー ☎0120･468･838）

Chopard Boutique Renewed at Matsuzakaya Nagoya



『ショパール ブティック 松坂屋名古屋店』が本館2階に移り、最新コンセプトの直営店に一新した。メゾンのスピリットを体現する新空間でおもてなし。コンテンポラリーでエシカルなクリエイションに、伝統的なウォッチ&ジュエリーメイキングのノウハウと匠の技が息づく。製造工程でサステナブルな素材を採用。（ショパール ブティック 松坂屋名古屋店 ☎052･264･2812）

JOHNNIE WALKER BLACK LABEL 12 YEARS Limited Design 2023



＊IMPACT DATABANK 2022に基づく販売数量

世界No.1＊スコッチウイスキーブランド〈ジョニーウォーカー〉が、《ジョニーウォーカー ブラックラベル 12年 2023年 限定デザイン》を数量限定発売。限定デザインボトルに、音声やテキストのデジタルメッセージを贈れる2次元コードを配置。父の日や大切な方へのギフトに。700mlびん。アルコール分40%。（キリンビール お客様相談室 ☎0120･111･560）

PANERAI "Luminor Due" in Pastel Colors



PAM01309

アーバンでエフォートレスな《ルミノール ドゥエ 38mm》コレクションの新作は、モダンなパステルカラー ダイヤルを採用。二度のポリッシュ仕上げで、上から下へ明暗のグラデーションになっている。パステルライトブルー、パステルグリーン、パウダリーピンクの3色。各色年間500本限定、1,021,900円。パネライ ブティックのみで扱う。（パネライ ☎0120･18･7110）

MONTBLANC Boutique Renewed at Hankyu Men's Osaka



279,400円

6月14日（水）『モンブラン 阪急メンズ大阪店』が一新。筆記具やレザーアイテム、ウォッチなど、ビジネスライフスタイルブランド〈モンブラン〉を楽しめる。記念に、同店限定で新作バッグ《マイスターシュテュック セレクション ソフト 24/7 バッグ ダスティグレー》を先行発売。他に新作筆記具やウォッチの新色も登場。（モンブランお客様サポート ☎0800･333･0102）

photo_Kayoko Aoki





右／上からゴンドチキン65 1,100円、スージプーリとミニひよこ豆カレー900円。左／上からパニプーリ360円、アルティッキチャート880円、タンドーリ ゴビ860円。

レストラン予報 *#115*

RESTAURANT FORECAST

南北インドのストリートフードに心が躍るでしょう。



レストラン予報士
小寺慶子

こでらけいこ 肉を糧に生きる肉食系ライター。趣味は肉旅（ミートリップ）と食べ物回文を考えること。「ねーえ、聞いて！ ステーキえーね♡」（奢られ上手な関西肉食女子）

暑い季節が近づくと無性に恋しくなるスパイス料理。日本でもすっかり市民権を得たインド料理でナマステ！ もとい、呑まして！ という気分のときに訪れたいのが新御茶ノ水にオープンした〈Indian Street Food & Bar GOND〉だ。

東京・八重洲の地区開発によって惜しまれつつ閉店した〈ダバ・インディア〉の新しい試みが、南北インドの屋台のストリートフードやミールスを楽しみながらゆっくりワインやビールを呑める店。

ビビッドな色調に彩られた空間の至るところにインドのモダンアートとして注目を集めるゴンド画が飾られ、キッチンの活気と店内を満たすスパイシーな芳香に、楽しい酒宴への期待が膨らむ。

タマリンドやミントなどを加えた〝魔法の水〟をボール状に揚げた生地に注ぐパニプーリや、アルティッキチャートというインドのピリ辛コロッケ、ヨーグルトでマリネした辛味のチキンは、ハーブ系の爽やかな白やフルーティな赤ワインとも相性抜群。今年は新感覚の〝インド料理呑み〟にハマる人が続出しそうだ。



オープンは５月12日。平日のランチはスナックまたはタンドール料理、カレー３種、ドリンクがつくゴンドスペシャル（1,700円）も。●東京都千代田区神田駿河台3−5−15☎03・3259・2800。11時30分〜15時、17時〜22時（土・日・祝〜15時30分、〜21時30分）。月曜休。

新御茶ノ水
Indian Street Food & Bar
GOND
インディアンストリート フードアンドバー ゴンド

■予算：4,000円から
南北インドのストリートフードのセットも（1,500円／２名から）。ボトルワインは3,000円台から。

■予約：夜は予約が安心
ランチは土日祝を含め、予約不可。ディナーの予約は可能なので、グループ利用の場合はぜひ早めに！

■ドレスコード：カジュアルでOK
カラフルな色調の空間に合わせて鮮やかなカラーの服装で訪れるといっそう気分が盛り上がる。

西 加奈子、石内 都、林のり子…生き方が素敵な人に聞いた、
これまでとこれから、そして大切にしていること。
緒方貞子、石岡瑛子、田部井淳子…自分で人生を切り拓いた、5人の哲学。
あの歳に出合った、大切な映画と本。自分らしい働き方。

特集
あの人は、どう生きてきたのか。

&Premium
THE GUIDE TO A BETTER LIFE

公式ウェブサイト
&Premium.jp

音楽、映画、アート、日用品、
犬、猫、占い…、ベターライフに
役立つ情報、毎日更新中！


LET'S ACCESS!

https://andpremium.jp

マガジンハウス

読むとキゲンが
よくなる雑誌。
『アンド プレミアム』
no.115 2023年7月号
5月19日発売
特別定価：920円（税込）



『アンド プレミアム』
特別編集BOOK
&Flowers
花と緑を愛でる。
好評発売中
定価：1780円（税込）





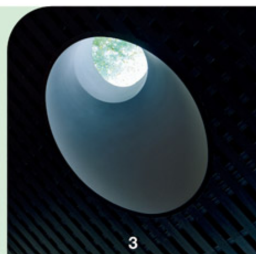
a wall newspaper
Casa BRUTUS / JULY 2023

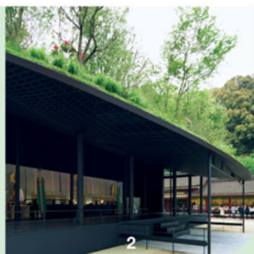
藤本壮介さん、太宰府天満宮に何を建てたのですか？

天満宮の歴史を
未来へ引き継ぐ場所です。

ふじもとそうすけ　建築家。1971年北海道生まれ。近作に、〈House of Music〉〈白井屋ホテル〉など。2025年開催予定の大阪・関西万博 会場デザインプロデューサーも務める。

124年ぶりとなる、太宰府天満宮「御本殿」の大改修に際して建設された「仮殿」と、その設計を行った藤本壮介。今年５月から改修期間の約３年間限定で使用される。



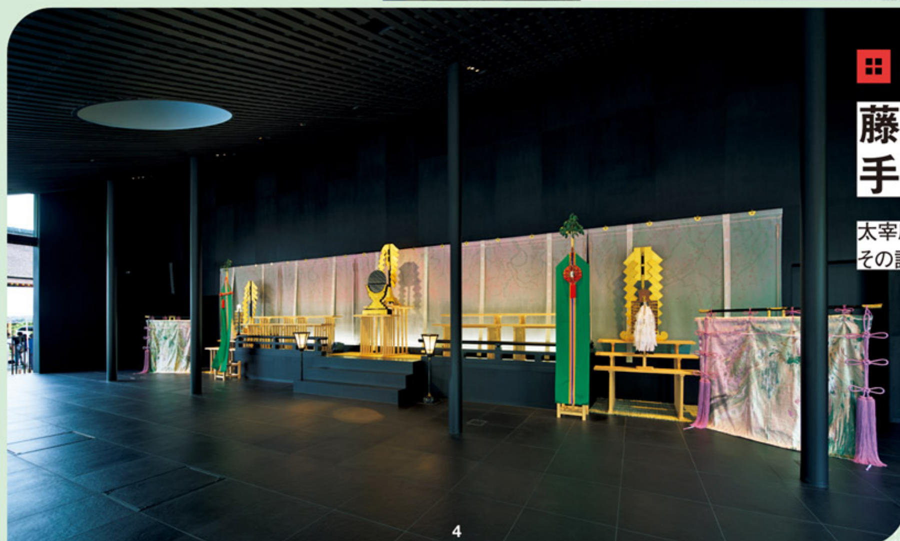






森の屋根によって
境内と調和します。

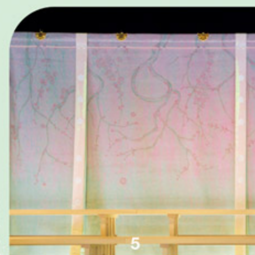
1〈SOLSO〉の協力のもと、40種類以上の植物を植えた。2 植物が軽やかに浮いているように見せるため、屋根の手前部分はカーブさせた。3 仮殿内部にある、森を覗ける天窓。「黒一色の世界に、もう一回緑を持ってきたかったんです」と藤本。4 黒で統一された内部。5 黒河内が手がけた御帳。6 同じく几帳。糸の飛ばしが特徴的な織りは、境内に降り注ぐ〝生命の雨〟をイメージ。



ARCHITECTURE

藤本壮介が太宰府天満宮に手がけた、3年限りの建築。

太宰府天満宮「御本殿」の大改修に合わせ、誕生した「仮殿」。その設計を行った藤本壮介に話を聞きました。





2027年の「菅原道真公1125年太宰府天満宮式年大祭」に合わせ、約3年間におよぶ「御本殿」の大改修を開始した太宰府天満宮。それに合わせ、改修期間中に参拝者を迎え入れる「仮殿」が、藤本壮介の設計によって完成した。仮殿に向かい合い、真っ先に目に入るのは、屋根の上に生い茂る木々だ。その発想は一体どこから来たのだろうか？

「今回、宮司の西高辻信宏さんからオファーをいただいた際、伝統的な神社の形式ではなく、現代建築で仮殿を作りたい、というお話がありました。ただ、1100年以上の歴史がある太宰府天満宮に新たな建物を加えるとなると、どうしても違和感が生まれてしまう。その時に、自然を通してであれば調和することができるのではないかと考えました。天満宮の周辺は緑が豊かで、とても美しい。道真公の〝飛梅伝説〟というお話があるほど、木々を大切にしている場所ですから、それが浮いているように見える屋根を加えることで、見た人にインパクトを与えつつも、周辺の環境に馴染んだ建築にすることができるのではないかと考えました」

緑が印象的な屋根とは対照的に、内部空間はシンプルに統一されている。斎場を彩る、御帳と几帳は〈Mame Kurogouchi〉黒河内真衣子によるデザイン。御帳は太宰府天満宮を象徴する梅の木をモチーフとし全面にあしらい、几帳は紫根と呼ばれる植物や境内で採集した梅と樟の枝を用いた草木染めが施されている。

「森の屋根によって作られる仮殿の内部はあえて黒一色にしています。御本殿は、朱や金色などをふんだんに使用し、とてもきらびやかな印象なのですが、これを現代の建築素材で再現するとなるとなかなか難しい。なので、内部においては建築的な主張は背後に隠し、そこにあるしつらえものによって色や質感を生み出すことにしました。黒河内さんの繊細だけれど存在感のある御帳と几帳が、素晴らしい空間を作ってくれています」

そんな仮殿だが、御本殿の改修が終了する2026年頃には解体に。後にも先にも、これからの3年間でしか見ることができない。

「3年という期間だからこそ、これだけのチャレンジができたのだと思います。永続的に天満宮の中に置かれるとなると、どうしても保守的になってしまいますからね（笑）。平安時代から脈々と続いている歴史の中の一部に、ある種前衛的なこの仮殿を加えられたことを、誇らしく思っています」

屋根の上に植えられた植物は、天満宮の梅林で育てられた梅をはじめ、樟、桜など様々。それらの植物は、解体後は境内に移植される予定だという。太宰府天満宮の歴史を引き継ぎ、未来へ受け継ぐ仮殿。藤本壮介による、期間限定の建築が誕生した。

太宰府天満宮　仮殿への参拝は2026年頃までの予定。●福岡県太宰府市宰府4−7−1☎092・922・8225。6時〜19時。開門、閉門時間は季節により異なる。公式サイト（https://www.dazaifutenmangu.or.jp）で要確認。

ARCHITECTURE

建築の街・前橋に、注目の複合施設が誕生！

現代建築の街に変貌を遂げている群馬・前橋。
平田晃久設計の〈まえばしガレリア〉が新たに加わった。

前橋が建築で注目を集めたきっかけは2018年。中村竜治設計のパスタ店〈GRASSA〉と長坂常設計の和菓子店〈なか又〉が、シャッター街化が進む前橋中央通り商店街にオープン。翌年には隣接地に、現在海鮮丼専門店〈つじ半〉となっている建築が髙濱史子の設計で竣工、20年には〈白井屋ホテル〉が藤本壮介の設計・リノベーションで開業した。

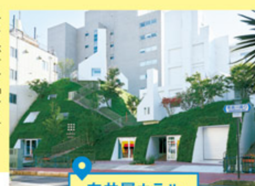
そんな中、この5月にオープンした〈まえばしガレリア〉はギャラリーとレストランと集合住宅が13もの層に分かれて積み重なった、地上4階建ての建築だ。平田晃久に設計を依頼した〈まちの開発舎〉代表の橋本薫は「〈太田市美術館・図書館〉のように、街に開かれた広場のような建築」をオーダーしたという。

「大きな樹冠のように緑化されたボリュームを浮かべ、一本の樹の下に人々が集まるように、人々の自由な活動で満ちた場所をつくりたいと考えました」と、平田は設計意図を説明している。

〝樹冠〟にあたる部分は、2～4階部分のテラスを備えた26戸の分譲レジデンス。その下の1階にはギャラリー、レストラン、屋外空間が入り交じる。「めぶく緑や街の生命力とつながった、生き生きとした建築」という平田の表現は、民間と市が策定した前橋ビジョン「めぶく。」とも呼応する。

前橋では現在も、〈つじ半〉の隣接地に永山祐子設計のカレー店が今夏に、〈白井屋ホテル〉の隣接地にサポーズデザインオフィス設計による商業施設が年末にオープン予定で建設中。また前橋中央通りと白井屋ホテルを結ぶ馬場川通り沿いの公衆トイレが、ジャスパー・モリソンのデザインにより建て替えられる予定となっている。

地元愛に支えられた前橋の現代建築巡りに、何度も通いたくなる。


白井屋ホテル


GRASSA／なか又／つじ半

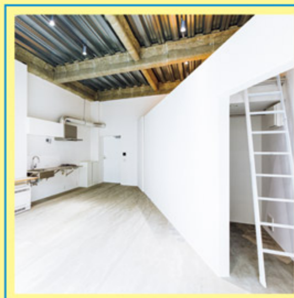
photo_Keisuke Fukamizu

徒歩圏内にまだまだある、前橋の注目現代建築！

前橋の近代化を象徴するレンガが共通のデザイン要素として使用されているのが特徴。広瀬川沿いや馬場川通りもレンガで整備され始めている。

RESIDENCE
【住居】

ワンルーム、ロフト付き、メゾネットの３タイプ全26戸を分譲。光の入り方、アプローチ、外との関係性が各々異なり、全室にテラスとアートを掛ける壁が。





GALLERY 1
【ギャラリー1】

〈タカ・イシイギャラリー 前橋〉が入居。ディノス・チャップマン『ƎVƎIlƎB』展開催中（～7月9日）。☎027・289・3521。11時～19時。月曜・火曜・祝日休。

GALLERY 2
【ギャラリー2】

〈小山登美夫ギャラリー〉〈MAKI Gallery〉〈rin art association〉〈Art Office Shiobara〉が交代で運営。☎070・8926・0960。月曜・火曜・祝日休。





RESTAURANT
【レストラン】

東京の有名店で腕を磨いた石橋和樹シェフがコースを提供。ワインバーを併設。●〈cépages〉18時～24時。水曜休、月２回不定休。@cepages_restaurant

まえばしガレリア 映画館〈ヒカリ座〉、スーパー〈長崎屋〉と営業したのち市有地〈Qのひろば〉となっていた敷地を開発。敷地面積1,241㎡、延床面積2,018㎡。●群馬県前橋市千代田町5−9−1。https://www.towndevelop.jp



南の角からの外観。両ギャラリーの吹き抜けガラスファサードが街に開かれたアートを象徴する。中央の空間がオープンな広場として機能する。



セシリエ・マンツ 1972年生まれ。デンマーク王立芸術アカデミー卒業後、98年コペンハーゲンにスタジオ設立。家具や食器から照明、オーディオまで幅広いプロダクトを手がける一方、彫刻的オブジェも製作。

1



5



4



3



2

TRANSPOSE 発想のめぐり ●〈BaBaBa〉東京都新宿区下落合2−5−15。〜6月30日。11時〜18時。水曜休。無料。https://bababa.jp ●〈maruni tokyo〉東京都中央区東日本橋3−6−13☎03・3667・4021。〜6月30日。11時〜18時。水曜休。無料。https://www.maruni.com/jp



6



7

1 展示をチェックするセシリエ。**2** デンマークと日本で集めた食にまつわる道具を、自らのプロダクトとミックス。**3** 陶芸家の両親と有田に滞在した幼い頃の記憶から、自身の手がけた有田焼作品に至る円環を表現。**4** 職人と協業した木製プロトタイプなどの実験的プロジェクトを展示。**5** 椅子の製作用治具など、アトリエ内の道具や素材が集合。**6**《ENチェア》新色の着想源を展示。**7**《ENチェア》の新色、マットラスティレッド。

DESIGN

セシリエ・マンツの頭の中を、展示を通して覗いてみたら？

デンマークを代表するプロダクトデザイナーの日本初個展が、東京の2会場で開催中。来日した本人にその背景を聞いた。

丸みのあるフォルムや異素材の組み合わせによる、質感のあるデザインを得意とするセシリエ・マンツ。そのインスピレーションの源泉を垣間見ることのできる展示が、高田馬場の〈BaBaBa〉では4テーマ、東日本橋の〈maruni tokyo〉では1テーマと、ゆるやかに連携して開催されている。

「私がどのように物事を見てデザインに反映させているかというテーマに取り組んだのと同時に、日本との関係も個人的には重要な要素です。例えば日本で手に入れた道具を、デンマークでは全く違った用途に使うことを〝オフセット（ずれ）〟と言っているのですが、個展のタイトル『TRANSPOSE（置き換え）』にも通じることではないかと思います」と、セシリエ。

金属、木材、ファブリック、革、石など見た目も感触も違う素材が集まっているが、それらを組み合わせてデザインする理由は？

「いい質問ね（笑）。素材は適材適所で選んでいて、使う上で意味がなければなりません。またブランドによっても選ぶ素材は違います。なるほど、と相手に思ってもらうことが大事。ただ個人的には、木の素材に情熱を注いでいます」

本展の「AD HOC 新しいアイデア」セクションでも、木を使ったプロトタイプが集められている。

「日本の木工技術を採り入れて、スタジオのスタッフやデンマークの職人と一緒に作りました。彼らにはとても高いレベルの技術を要求することになりましたが……」

それはデザインを依頼されたブランドに対しても、同じだろうか。

「悪いけどそうね（笑）。高いクオリティで〝普通の〟プロダクトを届けるのが私の役割ですから」

最後は妥協のないデザイナーの顔を見せてくれたセシリエだった。



©Louis Vuitton/Daici Ano

TOKYO | 銀座並木通り店

青木 淳

青木淳の設計によって、2021年にオープンしたストアのイメージは〝水の柱〟。２層の曲面ガラスを使用したファサードは、空や銀座の街並みの色を複雑に反射し、時間や角度、天候によってその見え方が異なる。水をモチーフとしたのは、かつて、銀座が東京湾に突き出した半島の先端だったことから。東京都中央区銀座7—6—1。



©Louis Vuitton Malletier/Stephane Muratet

ISTANBUL | イスティニエ・パーク店

セチキン・ピリム

設計を手がけたセチキン・ピリム（Seckin Pirim）はトルコ・イスタンブールを拠点に活動する彫刻家。建材にはトルコ産の石灰岩を使用。サイズの異なる同じ形状のプレートを重ねることによって、ストアを巨大なローレリーフが覆っているようなファサードを形成した。Istinye Park, Pinar Mah, Katar Cd N°11 34460 Istanbul, Turkey。

BOOK

ルイ・ヴィトンの世界を、ファサードから読み解く。

世界各地にある〈ルイ・ヴィトン〉のストアを巡る書籍が刊行。有名建築家たちによる、そのファサードの秘密を紐解きます。

フランク・ゲーリー、ピーター・マリノ、青木淳など、これまで名だたる建築家たちが設計を手がけてきた〈ルイ・ヴィトン〉のストア。それらを一挙に集めた書籍が刊行された。著者はポール・ゴールドバーガー。ピュリッツァー賞を批評部門で受賞するなど、アメリカを代表する建築評論家の解説のもと、世界各地にあるストアをそのファサードに焦点を当てて紹介する。

一般的に、グローバルに店舗を展開するブランドのショップは、統一された空間のもと、どの場所でも同じ体験を得られることが重要とされている。ただ、〈ルイ・ヴィトン〉が行っているのは、その真逆だ。ストアごとに異なる建築家を起用し、都市に関連したファサードを持つ建築を作り出す。それは、単なる表層の建築デザインではなく、建築そのものが〈ルイ・ヴィトン〉のクリエイティビティの核であることも想起させる。東京からブラジル・サンパウロまで全26店舗、本書を通して多種多様なストアを体感したい。



©Michael Jacobs_Art in All of Us_Corbis via Getty Images

PARIS | フォンダシオン ルイ・ヴィトン

フランク・ゲーリー

パリの中心部から５㎞ほど、ブローニュの森内に位置するこの場所はストアではなく、〈ルイ・ヴィトン〉による芸術機関。フランク・ゲーリーによるこの施設最大の特徴は12枚の湾曲したガラス板だ。展示室をガラス板が包むようなファサードは帆船のようにも見える。8, Avenue du Mahatma Gandhi Bois de Boulogne, 75116 Paris。

LOS ANGELES | ビバリーヒルズ ロデオドライブ店

ピーター・マリノ

〈ルイ・ヴィトン〉にまつわる建築設計を30か所以上行っているピーター・マリノ。水平ラインを強調し、ガラス窓の前にスリットを作ったファサードからは、ゴールドバーガーが「リチャード・ノイトラの洗練さを思い起こさせる」と記述するよう、LAのモダニズムからの影響が。420 North Rodeo Drive 90210 Beverly Hills, US。



©Louis Vuitton Malletier/Brad Dickson



『LOUIS VUITTON SKIN : ARCHITECTURE OF LUXURY』 ポール・ゴールドバーガー著。英語、仏語。372ページ。27,500円。各都市のストアを採用した表紙は全６種。ルイ・ヴィトン ストアおよび公式サイトにて発売中。

DESIGN

〈コーラル&タスク〉と猫村さんの新コラボが完成!

刺繍によるプロダクトで大人気の〈コーラル&タスク〉。
来日したデザイナーに、ほしよりこがインタビュー!

織細な刺繍で表現されるチャーミングな動物たち。NYブルックリン発のプロダクトブランド〈コーラル&タスク(C&T)〉が、その世界観を伝えるビジュアル本を発表した。〈C&T〉といえば、ほしよりこ作『きょうの猫村さん』とのコラボアイテムでもおなじみだろう。実はその新作コラボも完成間近! 来日したデザイナーのステファニー・ハウズリーに、10年来の〈C&T〉ファンでもあるほしがインタビュー。

ほし 初コラボは2020年。猫村さんが〈C&T〉の世界へ遊びに行くというアイデアから始まりました。今日は、なぜ猫村さんが〈C&T〉の仲間に招いてもらえたのか、改めて聞いてみたいです。

ステファニー だって恋に落ちてしまったから……。2015年に初めてネコ(猫村さん)のことを知り、すぐにミシン刺繍で即興の人形(2)を作ってしまったほど。その1か月後、偶然ヨリコの漫画『B&D』に出会った時の衝撃も忘れられません。ミニマムなラインワークだけですべてが表現されている! 日本語は読めなくても、ヨリコの伝えたいことや物語が理解できて心が震えました。

ほし どうしよう、感激です。ステファニーさんは好きなものとそうでないものが明確で、世の中の流行りや周りの意見に左右されない指針を持っている。そんな人が受け入れてくれたなんて、猫村さんは本当に幸せな猫ですね。

ステファニー 私自身はつい表現しすぎてしまうタイプなので、シンプルな手法ですべてを伝えきるヨリコの仕事から多くを学びました。今も即興で絵を描く時は、心にヨリコ師匠がいるんですよ。

ほし 私はいつもステファニーさんが表現してくださる猫村さんに体温を感じています。今回の新作もそう。光沢のある白い糸で刺繍された毛がリアルな毛並みに見えて、猫村さんが生きているみたい。

ステファニー うれしいわ。手のひらで猫をなでる時のあの感覚を伝えたいなと思っているので。

ほし 赤ちゃんのようにイノセントな表情も大好き。〈C&T〉の動物は愛想笑いをしませんよね。猫村さんのこともファンシーにはせず、〈C&T〉の住人らしい絶妙な表情で描いてくれています。

ステファニー ふふふ。今回はそんなネコの家の前で小鳥が水浴びしている様子を描きたくて。でも難しくて悩んでいたら、ヨリコが絵を描いて送ってくれたのよね。「私のアトリエの窓辺に遊びに来るメジロです」って。ヨリコと私の世界観を伝える、本当のコラボレーションができたと思います。



Stephanie Housley 2007年NYで〈CORAL&TUSK〉設立。作品の原画は自身のスケッチ。それをもとに刺繍の線一本一本までデジタルペンで手描きして機械刺繍用データを作成。手仕事の味を生かしている。







1 猫村さんエプロン姿のステファニー。〈H.P.DECO表参道〉で。2 ステファニーの手製。初対面の場でほしに贈られた。3 新作ワインバッグ(価格未定)とほしの原画。4 新作クッション(価格未定)。下はほしの原画とステファニーのスケッチ。共に近日発売。https://coralandtusk.com





『CORAL & TUSK』 現在は米国・ワイオミング州の大自然の中で暮らし、制作を続けるステファニー。その日常や仕事のアーカイブを紹介する初の著書が発売中。ほしよりこの描き下ろし(上)も掲載。25,300円。主婦の友社。

Super Housekeeper Cat

第160回

カーサの猫村さん

ほしよりこ

ほしよりこ 1974年生まれ。「猫村.jp」で「きょうの猫村さん」を1日1コマ連載中。著書に『ねこの配信 カーサの猫村さん 6』など。信濃毎日新聞で「ほしなのです」を月1回、casabrutus.comで「馬と空」を随時掲載。新刊『きょうの猫村さん 10』絶賛発売中！













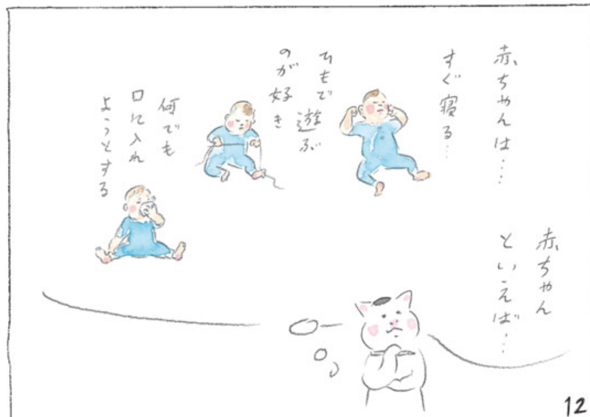



だあっ!!!
ビリッ
ビリッ
あぁ~
でも赤ちゃんってたいくつしていつも途中でおこり出しちゃうのよ…
8


たしかにカーサブルータスって赤ちゃんにはむずかしいからたいくつするのかもしれないわね…
だぁ~!
ビリッ
キャッキャッ
私だってむずかしく感じることだらけなのよ…
9


もっと赤ちゃんに喜んでもらえる
赤ちゃん向けのカーサブルータスがあってもいいんじゃないかしら…
NECO
10


編集長さん 赤ちゃん向けのカーサブルータスってあっていいと思うんですの
へー カーサブルータスバンビーノ おもしろそうね 考えてみて
11


赤ちゃんといえば…
赤ちゃんは…
すぐ寝る…
ひもで遊ぶのが好き
何でも口に入れようとする
12


編集長さん できましたわ~ おしゃぶりしおり付きですの~
BRUTUS
Casa
Bambino
デカッ!!
13


布でできてるんですのよ
こうして開けると…
家?
14


ここがお布団になっていて寝かしつけができますの ページごとに色んな建築で寝られるんですのよ
NECO
雑誌っていうより… 布団ね…
15

つづく…

BRUTUS Casa
subscription

定期購読のご案内!

KYNEのCAFE&ROASTERトート、定期購読を申し込めばもれなくプレゼント!





内ポケットも付いています。



Casa BRUTUS特別編集
「カフェとロースター」で
KYNEが手がけた表紙がトートに!

定期購読（1年）

『Casa BRUTUS』
通常価格 1,080円×12冊
12,960円→
9,990円

▶ 2,970円分お得!
送料も無料！
+
CAFE&ROASTER
トートバッグ

定期購読（2年）

『Casa BRUTUS』
通常価格 1,080円×24冊
25,920円→
18,800円

▶ 7,120円分お得!
送料も無料！
+
CAFE&ROASTER
トートバッグ

2023年10月～ 定期購読の価格を以下のように変更させていただきます。

定期購読（1年）10,900円
定期購読（2年）20,900円

トートバッグの特典は継続します。
9月30日までに申し込みや継続のお手続きをしていただいた場合は、
10月以降も契約期間中は現在の価格でご購読いただけます。

▼ お申し込みはこちらから!

■ ウェブ

カーサ ブルータス　定期購読　検索

https://magazineworld.jp/user/subscribe/casabrutus

■ Eメール
定期購読お問合せ専用
subscribe@magazine.co.jp

■ マガジンハウス読者サービスセンター（電話）
フリーダイヤル（9:30～18:00 土・日・祝日を除く）
☎0120-797-300

■ マガジンハウス読者サービスセンター（FAX）
フリーダイヤルFAX（24時間 年中無休）
FAX 0120-679-300

●申し込み日以降の発売号から送本いたします。申し込み日にすでに発売されている最新号を希望される場合はお申し出ください。それより以前の号については定期購読ではお取り扱いできません。●お支払いはクレジットカード決済、代金引換、または後払いです。後払いは初回送本時に、振込用紙（郵便局・コンビニ払い、一括払いです。ご注意ください）をお送りします。●発送は、日本国内に限ります。●中途解約される場合は、割引特典がなくなります。残金はお支払いいただいた金額から、送本済みの号の定価を差し引いた金額を郵便小為替でお返しいたします。●ご記入いただいた個人情報は商品・サービスをお届けするために利用し、その目的以外での利用はいたしません。マガジンハウスの個人情報保護に関する基本方針については以下のURLをご覧ください。https://magazineworld.jp/info/privacy

時代を超えて愛される、デザインの良い車。

photo_Futoshi Osako　text_Izuru Endo
illustration_Daijiro Ohara









Nissan
Prairie (2nd)

●日産 プレーリー（2nd）

1 現代では珍しくないワンモーションフォルムは、1988年当時は斬新だった。**2** 撮影車は８人乗りでフロントシートはベンチタイプ。シフトノブはステアリングコラムに置かれる。メーター脇のスイッチは当時多用された装備。**3** 小さな３列シート車ゆえ、最後列のシートは小ぶり。**4** フロントに比べ切り立ったリアビュー。上下に薄いテールライトも特徴的。



country: **Japan**
year: **1988-98**
seats: **5-8**
size: **L4,350×W1,690×H1,625㎜**
price: **approx.900,000 yen**

ミニバン市場を開拓した、画期的な先駆者。

1990年代に台頭したミニバンは、乗用車の快適性とワンボックスワゴンの積載性を兼ね揃えたモデルとして人気を博した。その先駆的なモデルは、80年代に日米欧それぞれで誕生した。日本では〈日産〉が82年に発売した《プレーリー》がそのひとつとされる。

初代《プレーリー》は4mほどの小さな車体に3列シートを備えていた。当時の3列シート車といえば、商用バンベースのワンボックスワゴンがメイン。ミニバンの概念すら存在せず、《プレーリー》はセダンの亜種という扱いだった。

88年登場の2代目は、初代のスライド式リアドアを引き継ぎつつ、ボクシーなスタイルから一転。ボンネットからルーフを一直線でつないだワンモーションフォルムを採用した。当時では極めて斬新な姿は、その後、ミニバンのベースフォルムとして定着した。内装では目の粗いざっくりとしたシート生地を使用。高級志向なワンボックスワゴンとの違いも明確だった。

このようにミニバンの基礎を確立した2代目《プレーリー》だが、残念ながら販売は伸びなかった。そこで95年にボンネットを四角くリデザイン。販売台数を増加させるも、元来の流麗なシルエットは失われてしまった。

画期的すぎて後世に価値を認められる、という製品はいくつかあるが、2代目《プレーリー》もその一台だ。このクルマには「ミニバンの原点」という輝かしい履歴がある。それこそがこのクルマの密かな誇りだ。

special thanks to Vintage Car TRY（☎029・291・2630）　※データと価格は、撮影車両を参考に算出したものです。

Hanako

雑誌 [ハナコ] 7月号 No.1221 5月26日(金) 発売! 特別定価 890円
オフィシャルウェブサイト「Hanako Web」好評更新中!

35th Anniversary



スイーツ
ヒストリー BOOK

SDGs A to Z

A Abe Ryohei
阿部亮平とはじめる、新しい暮らし。

B Buy
地球にやさしい買い物の仕方。

Bakery / Children / Donation / Eco material / Ethical Consumption

F Fashion
フランス人に学ぶ、ファッション。

Green / Heart / IPCC / Japan / Kitchen / Letter / Make-up / Nature
Ocean animals / Permaculture / Quality / Revitalization / Sake

T Trash
お金が増える!? ゴミの捨て方。

Take it easy / Upcycle / View
Work / (e)Xample / Yojo

Z Z generation
Z世代のSDGs事情。

新しい暮らしを考える 26のアイデア。

Cover Story
阿部亮平
(Snow Man)

Hanako_magazine hanako_magazine hanakomagazine マガジンハウス

MAGAZINE HOUSE MOOK

BRUTUS

特別編集

村上春樹

合本

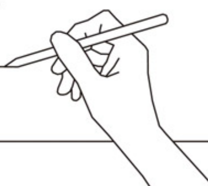


「読む。聴く。観る。集める。食べる。飲む。そして、思う。」



MAGAZINE HOUSE MOOK

好評発売中！



定価 1,760円



猫村さん誕生から
20年。

老若男女をとりこにする大人気漫画、最新刊！

きょうの猫村さん10

ほしよりこ

定価1430円
A5判並製／256p

日々いろんなことがあるけれど
私の心に猫村さん。そう思うだけで
ふわりと幸せになるのです。
スキップしてお家に帰りましょう。
いつもありがとう猫村さん。——
石田ゆり子



初回限定
シール付き

“猫村さんの花ふきん”が抽選で当たるフェア展開中（9/29まで）
※詳細は本書のオビ裏にて



左から『きょうの猫村さん1〜9』。他に『カーサの猫村さん』シリーズなどもあり、累計345万部を超える大人気シリーズに。

毎日、猫村さんに会える 猫村.jp ▸





書店・インターネット書店でお買い求めください。● 読者サービスセンター 0120-797-300（土日祝日を除く、平日 9：30〜18：00）
〒104-8003 東京都中央区銀座 3-13-10 https://magazineworld.jp/books/

Next Issue

n.280 August Issue

8



photo_Ryumon Kagioka

LIFESTYLE HOTEL 2023

新・日本の絶景宿

日本が旅の目的地として愛される理由のひとつに美しい景色があります。
海、山、森、渓流など豊かな自然を持ち、四季折々の植物を愛でられる日本。
近年、そんな美しい景色と共生すべく建てられた絶景宿が増えてきました。
あの建築家・デザイナーが手がけた景色を楽しむための建築、
眼前の景色を独り占めできる一棟貸し宿、壮大な開放感を提案する絶景サウナ、
郷土の景色を味で伝えるオーベルジュ……。
この夏はそこにしかない大自然を心ゆくまで満喫できる、日本の絶景宿へ!

特集の内容です!

- あの建築家は絶景をどうデザインしたのか
- 美しい景色を独占する一棟貸しの宿
- 癒しがデザインされた絶景サウナ
- 郷土の景色が見えるガストロノミーホテル
- 日本の絶景建築宿リスト

Casa BRUTUS

マガジンハウス

次号は7月7日(金)の発売です。

予価1,080円

casabrutus.com

*特集の内容は、予告なく変更することがあります。

カーサルくんの今月のおすすめムック!

Casa BRUTUS特別編集ムック



Pilgrimage to Sacred Places

日本の聖地一〇〇

定価1,650円

日本最古の書物である『古事記』に記された神々が
今もなお様々な形で祀られ、信仰されている日本の聖地。
それは簡単には立ち入れない山奥の秘境であったり、
外国からも多くの訪問客が訪れる華やかな場所であったり、様々です。
世界遺産になった聖地やあの建築家が携わった神社、
そしておそらく戦後初めて誕生した本格的な神社まで、
今、訪ねるべき日本全国の聖地100をご紹介します。

- 〈嚴島神社〉の大鳥居が朱色も鮮やかに蘇りました。
- 日本三大聖地への旅。伊勢/出雲/熊野
- 杉本博司が手がけた〈江之浦測候所〉に降臨した春日の神様。
- 今見るべき建築は神社にありました。
- 世界遺産に登録された、秘められた聖域〈宗像大社〉。

*マガジンハウスのウェブサイトか、お近くの書店、またはインターネット書店にてお買い求めください。

BRUTUS Casa
Casa BRUTUS NO.279
2023 July Issue

Publisher
Nobuaki Shibasaki

Editor in Chief
Yoichi Nishio

Deputy Editors
Kaori Sano
Masashi Tsujimura

Senior Editors
Kenichi Okumura
Nana Sanada

Editors
Yusuke Ide
Sakurako Okumura
Atsuki Masuda

Digital Media Directors
Keiko Kusano
Taku Mizutani

Digital Editors
Takahiko Koike
Shintaro Tanioka

Contributing Editors
Kazumi Yamamoto
Rie Nishikawa
Akio Mitomi
Tami Okano
Ai Sakamoto

Coordinators
David G.Imber (New York)
Mika Yoshida (New York)
Megumi Yamashita (London)
Kaoru Tashiro (Milano)
Chiyo Sagae (Paris)
Yumiko Urae (Berlin)

Art Director
Yasushi Fujimoto (cap)

Chief Designer
Yuji Naito

Designers
Kaoru Nakada
Chiaki Sato
Hikari Taguchi

Chief Proofreading
Shinji Tomari

Proofreading
Kouji Wakao
Mine Hatakeyama

Media Promotion Dept.
Yasuaki Sugimoto
Momoko Ishii
Motoi Ejima
Shinji Kobayashi
Kei Owada

Circulation
Yuzuru Sengoku
Mayumi Imai

Production
Yuichiro Hachisuka
Mieko Arai

Publicity
Toshio Osozawa

Special thanks to
Ron Sternberg

photo_Wataru Oshiro
text_Akari Matsuura
editor_Rie Nishikawa

VOL.248

LIFE @ PET





1



2

おもちゃの
アイスも大好き!



3

新作アイスの味見係もお手のもの。

レオ

ミックス♂6歳

沖縄県本島中部・宜野湾市でクラフトアイスクリーム店〈カフネ〉を営む平良夫妻の元に、レオくんが迎えられたのは約1年前のこと。保護犬だった彼が新しい環境に慣れるまでの様々な試練を振り返ると、「レオはいる？」と訪ねてくる子どもやお客さんたちと、今や潤んだ瞳をくるくるさせながら交流する姿に「じんわりくることもしばしば」と平良夫妻。新商品の〝わんこ用アイスクリーム〞の味見係としても貢献するレオくん。イチ推しは豆乳とハチミツを隠し味にした「りんご・ヨーグルト」なのだとか。まずは看板犬の高みを目指してトレーニング中。狙うはわんこ界のグルメ番長？

1 ミックスブラウンの毛並みとふさふさお耳がキュートなレオくん。**2** 時折の番犬モードもご愛嬌。**3** お気に入りのアイスクリーム型おもちゃは常連さんからのプレゼント。**4** 2022年に増床リニューアルした店内。写真奥はワッフルコーンベーカー。**5** 県産食材を贅沢に使い、保存料や着色料、乳化剤、増粘剤不使用等にこだわる〈カフネ〉のアイスクリーム。



■ Owner's Data
平良 洋
葵

〈カフネ〉店主。アイスクリームで沖縄食材の魅力を発信。不定期で通販可能。https://cafuneokinawaic.com



4



5





ハンターダグラスのデュエットシェードは1985年に発売を開始し、エレガントで気品ある雰囲気と珠玉の断熱性を兼ね備えた省エネルギーシェード。ハニカム（蜂の巣）構造のファブリックが窓辺の空気流動を高いレベルで防ぎ、室内環境の快適さを向上させます。上質なインテリアがもたらす、穏やかでつつみこむような空間をお楽しみください。

HunterDouglas

HunterDouglas　03-3560-9871　https://jp.hunterdouglas.asia/

Casa BRUTUS
カーサ ブルータス
2023年7月号

2023年7月号（毎月9日発行）6月9日発売 平成13年4月17日 第三種郵便物認可 第24巻第7号
編集人・西尾洋一 発行人・芝崎信明

〒104-8003 東京都中央区銀座3－13－10
株式会社マガジンハウス 編集部☎03・3545・7120 受注センター☎049・275・1811



SCARLETT JOHANSSON / GALLERIA BAG
BY ALEX DA CORTE

PRADA

特別定価1,080円 本体982円 雑誌 12541-7

©株式会社マガジンハウス 2023 Printed in Japan 凸版印刷株式会社



4910125410737
00982